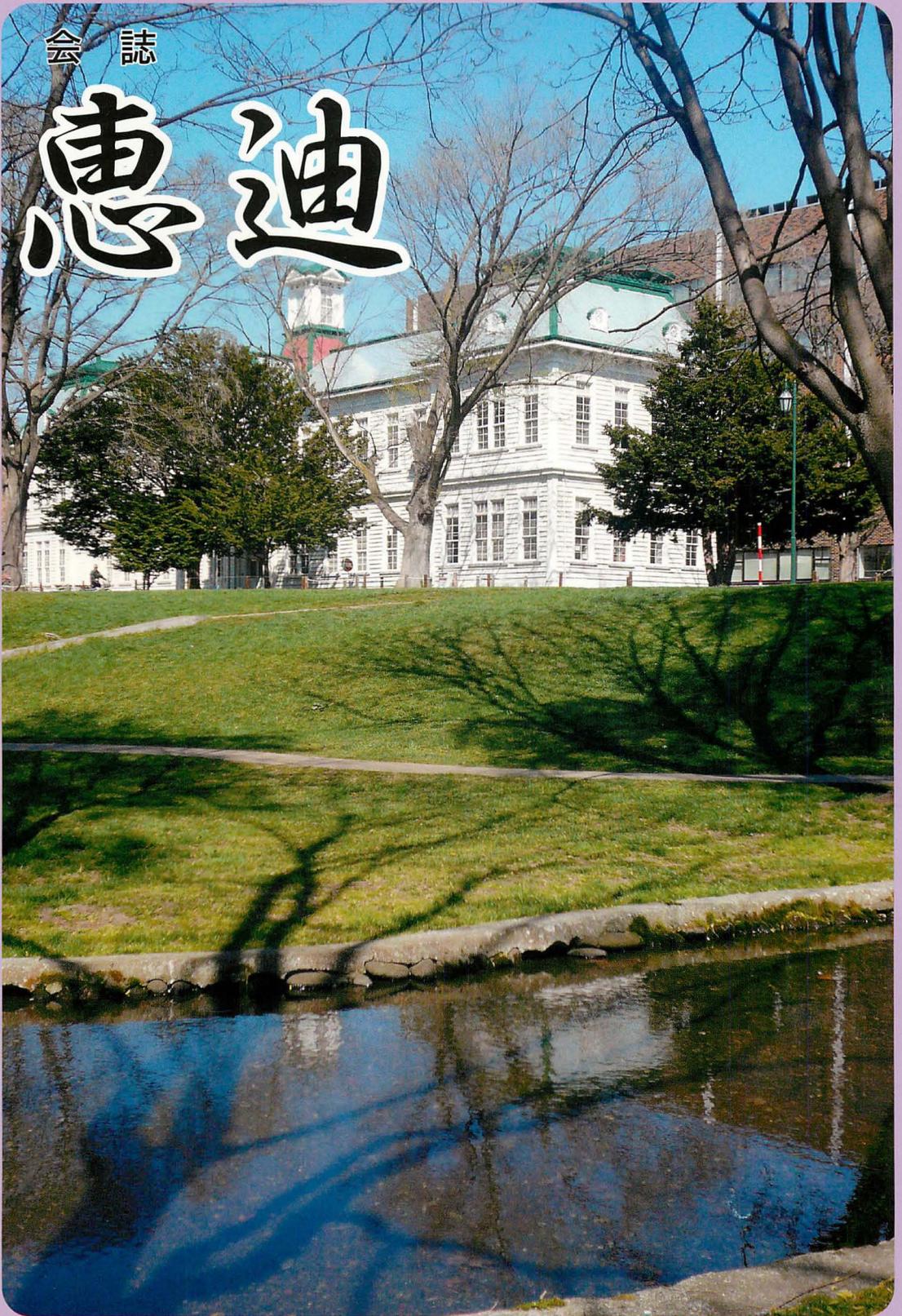


会誌

# 惠迪



# 寮歌歌始めの会 (平成21年1月24日・氷雪の門)



来賓の逸見副学長も参加した鏡割り  
タイミングが合わず思わずニガ笑い



寮歌を聴きながら飲む酒はうまい



壇上から同窓会員にエールを贈る学ランの応援団長



百年記念寮歌「恵迪小唄」を披露する  
現寮生（両端が作歌者と作詞者）

# 惠迪寮西日本大会(平成20年9月27日)



全国から参集した仲間が肩組み合って「都ぞ弥生」を高唱



寮歌も楽しいが、祇園小唄もまた格別  
(二次会・中村楼)



なかなか足が上がらないストームの歌。

# 恵迪寮観桜会(平成21年5月6日・円山公園)



花も観た。ジンギスカンも食った。「都ぞ弥生」の斉唱でフィナーレ



パパと一緒に“未来の寮生”も参加



満開の桜の下、味のある檄文を披露した応援団長



すぐ裸になりたがる伝統は今も健在

# — 開拓の村旧寮舎花壇観花会 (平成21年5月24日)



今年も花を咲かせた記念植樹のオオバナエンレイソウやクロユリ



今咲き誇る寄贈花壇の  
クロユリの花



旧恵迪寮前で「都ぞ弥生」を献歌する OB



## 恵迪 「再百年考」

恵迪寮同窓会会長 横山 清

(S31年入寮)

札幌の桜は今年も見事な花をつけました。

年々歳々、花相似たり人は同じからずとはいえど現寮生と同窓OBの観桜会は名実ともに大盛會と聞き、参加できなかつた身の不幸をいまだに嘆じている次第です。一昨年の目眩く恵迪寮百年記念祭の後は「空の巣シンドルーム」が生じ、同窓会活動は一気に沈滞するのではと心配する向きもありましたが、何と各支部とも積極的に次なる「百年の計」の基盤づくりに精力的に取り組まれ明るい希望が見えて参りました。大恐慌の到来か世界同時大不況ともいわれる昨今、たしかに歴史的転換点にあることは事実であり企業はおろか同窓会活動すらサバイバビリティ（生き残る力）を問われています。

しかし各世代を強かに生き抜いてきた恵迪男子としては悲觀主義の皆に閉じ籠もる愚を犯す訳にはいきません。今こそ人生の根幹を貫いてきた「何とかなるさ！」の精神で明治維新や終戦直後を凌ぐ若さと元氣を振り起こし活力に満ちた社会づくりの発信源になろうではありませんか。

昨年は創立25周年を祝い京都で西日本大寮歌祭が開催されました。風雲児・坂本龍馬の講演等々、心に残る催事でありました。西日本支部の皆様深く感謝申し上げます。

さて、百年も昨日の如し……。「都ぞ弥生生誕百年」が3年後に迫ってきました。

輪番では東日本支部が担当の総会の時に記念祭を行いたいとの声もありますが、怠りなく準備を進めたいと存じます。

これに一つ心配があります。それは校歌「永遠の幸」を差し置き、入学式などほとんどの公式行事で斉唱されている「都ぞ弥生」を歌えない北大生が年毎に増えていることです。出身校の寮歌は「覚悟の時、過ぎし一生を振り返り思い出してから死ぬ歌。思い出すまでもなく耳の底から鳴ってくる歌」とまで言われます。

人生の讃歌であり愛校心の源泉でもある「都ぞ弥生」をしつかりと歌える仕組みを提供する努力も大事であります。偉大な文化遺産として百年続く寮歌をギネスブックに登録しようという動きもありますが、この「都ぞ弥生」を歌えずに北大を去るのは、あまりにも勿体ない事です。恵迪寮、応援団、合唱団、CDの提供など、あらゆる手段を講じて全学生にも共有の財産を分か合いたいものです。

人生を闘う為の学業に加えて生き抜くための人間力の涵養は「恵迪寮精神に如くはなし」と強く思います。

# 恵迪9号目次

## 巻頭言

恵迪「再百年考」…………… 恵迪寮同窓会会長 横山 清 5

## ご挨拶

北大フロンティア基金へご協力を…………… 北海道大学総長 佐伯 浩氏 8

「都ぞ弥生」生誕百年に想う…………… 恵迪寮同窓会代表幹事 白浜 憲一 9

組織強化のため新たな挑戦を！…………… 恵迪寮同窓会東日本支部長 山中 義正 10

談論風発で活気ある同窓会を！…………… 恵迪寮同窓会西日本支部長 窪田 開拓 11

若き諸君ともに恵迪の灯を燃やし続けよう！…………… 恵迪寮同窓会北海道支部長 氏平 増之 12

牟田悌三さんを偲んで…………… 板谷 実 13

## 追悼

**若き研究者からのメッセージ**…………… 15

「千島列島調査日記」…………… 長谷川 健 15

テヘラン女子寮見聞録…………… 村上 明子 17

海とともに…………… 阿部 拓三 20

寺院に眠る古の言語…………… 山畑 倫志 22

生物のかたちの進化をたどる…………… 武智 正樹 24

恵迪寮とクラーク家交流記…………… 大園 雍彦 26

俺の恵迪寮時代…………… 中瀬 篤信 31

## 特別寄稿 I

♪ 「花繚乱の」(昭和32年寮歌)…………… 作歌・作曲者 前島 一淑 37

♪ 「酒、歌、煙草、また女」の曲…………… 前島 一叔・荒木 武夫・酒井誠一郎・金 武彦 52

## 特別寄稿 II

伝統と変革のなかで〜恵迪寮自治の現状…………… 恵迪寮自治会第292期執行委員長 今田 達哉 55

## 寮歌物語

日本人は皆、遠い親戚だ…………… 南 福市 57 恵迪寮歌水墨道遥…………… 二川 義昭・雅号 冬湖 58

## 自由投稿

キャンパス日本一に想う…………… 小沢 久弥 60 八方破れの人生ですが…………… 清水 宏 62

## 随想

支え合う仲間達〜バイトに明け暮れた寮時代…………… 内藤 春彦 64 漢字「迪」に寄せる思い…………… 中村 昭雄 67

俳句

草若葉……………小沢久弥 70

寮歌研究

恵迪寮歌と北大合唱団〈inn時計台コンサート〉……………金武彦 71

寮史研究

「第二次文武会事件と寮自治の危機」——昭和初期の恵迪寮①——……………河野民雄 76

31・32年同期会

卒寮半世紀、合同同期会に54人……………古川俊美 82

人・物・点・描

広井 勇・有島 武郎・今田 求・伊福部 昭……………河村征治 85

恵迪寮の文化財No.9

掛軸「亭々喬樹」……………高井宗宏 90

平成20年「開誠社」講演会

「地球は世界の人口を養うことができるのか」……………講師・服部 昭仁氏 91

西日本大会リポート

08年恵迪寮同窓会西日本大会 in 京都……………伊藤 靖久 97

東日本大会のご案内

麦酒の原点エビスに集い、寮歌を謳わん……………101

恵迪寮同窓会通信 vol.25

第11期第3年次理事会報告……………103

東日本支部ニュース……………111

西日本支部ニュース……………111

北海道支部ニュース……………113

北大恵迪寮歌CD ポストカード 〈北大恵迪寮歌と構内風物〉 恵迪百年記念オルゴール……………115

平成21年度「年会費」と「運営支援金」納入のお願い……………123

会誌「恵迪」第8号 追記・訂正一覧……………123

編集後記……………124

記念グッズ

ご挨拶



## 北大フロンティア基金へご協力を

北海道大学総長

佐伯 浩

(S 35年入学・工学博士)

恵迪寮同窓会の方々には、日頃から本学のため御協力を賜り、心より御礼申し上げます。今年の札幌は雪融けも早く、学内の木々も若芽を出し、芝生も少しずつ緑が増している状況です。

北海道大学も法人化して5年が経過し、第1期中期目標期間もあと1年を残すのみとなっています。現在、この第1期目の目標の達成状況の確認と次期中期目標期間の目標・計画を審議中であります。現在、国から本学へは運営交付金という形で年間約410億円拠出されていて、全収入の44%を占めています。毎年約8億円近く減ってきているのが現状で、減っている分を共同研究・受託研究等、外部の競争的資金に頼っているところで、大学の財政も年々厳しくなっています。そのような中で、3年前、北大フロンティア基金を立ち上げました。

この基金設立の目的は、今後ますます厳しくなるであろう大学の財政を支援するため、特に学生支援を目的にこの基金を活用しようとするものであり、現在約12億円集まっています。金利が低いいため、未だ基金の活用を停止して、本学の毎年の剰余金を学生支援に積極的に振り向けているところ。例えば、本年度は、現在の第1、第2体

育館の全面改修、全天候型屋内練習場とアメリカンフットボール等の練習グラウンドの新設が予定されていますし、新たに留学生のための寮の建設も予定しています。

本学のキャンパスは我が国で最も美しいと言われています。キャンパスの環境整備とともに、学生諸君の就学環境整備と様々な学生支援に力を入れていきたいと思っています。

恵迪寮同窓会の方々からも、フロンティア基金に対して多額の御寄附をいただいています。誌面を借りて、皆様方に対し厚く御礼申し上げます。今後とも恵迪寮と同様に北海道大学に対しても御支援を賜れば幸いに存じます。





## 「都ぞ弥生」 生誕百年に想う

恵迪寮同窓会代表幹事 白 浜 憲 一

(S 40年入寮)

2009年北大入学式の翌日の4月9日、5年ぶりに北海道開拓の村にある「恵迪寮舎」を訪ねた。気温がこの春一番の16度、微かに肌に触れるそよ風が心地よい穏やかな日であった。昭和60年4月に一般公開されてから24年、平成11年10月に同窓会創立15周年記念事業として展示を新設改装してから10年、私たちの共生と交歓の場であった寮舎は風雪に耐え静かに佇んでいた。「都ぞ弥生」のテープが出迎える玄関を入ると、1965年の18歳に戻ったようであるように懐かしく、渡り廊下を歩きながら妙な心の落ち着きを感じた。寝起きしていた部屋に入ると全てはここから始まったのだと激しく心が震えた。「人間の成長は、らせんを描きふり出しに戻る。その地点は以前のときより少しだけ上にある」という。自分の恵迪入寮後44年の人生は如何なるものであったのかを、この原点回帰の時間と空間の中で深く考える良い機会となった。

昨今マスコミやメディアが「貧困」と「格差」を大きく取り上げている。が、今の豊かになつた時代の「貧困」や「格差」は、戦後から1960年代の「貧困」や「格差」に比べると、質的にも量的にも、そして特に心の在り様と生きる姿勢において大きな違いがあるように思われる。「貧

困」や「格差」があつても世代全体が高き理想に燃え未来を切り拓くエネルギーに充ちていた。また、新渡戸稲造は「知識より品性を」といい、簡素な生活の中で豊かな品性を涵養することを説いた。私は今年の寮唱歌始めの会で「卑しくないか、媚びてはいないかを問う一年としたい。正しく〈Be Gentleman!〉の精神である」と挨拶した。自分の品性を高めることに終着駅はない、そしてそれは恵迪寮生活のような簡素な生活の中でしか培われない。見失いがちになるこの研鑽を日々の暮らしの中に根付かせて行きたいものである。

3年後の2012年は「都ぞ弥生」生誕百年の年である。100年前の1912年頃といえば、日本が日露戦争に勝利し韓国併合を皮切りに中国へ本格的に進出し始め、また、夏目漱石が「現代日本の開花」で近代機械文明を「横着心の発達した便法」と揶揄し、権力や金力を行使する者に高いモラルと教養が必要であると訴えていた頃である。当時19歳の「都ぞ弥生」作歌者横山芳介君が何を考え何を伝えたかつたのかを問いながら、この「都ぞ弥生」生誕百年を祝い、今一度現代における恵迪精神の意義を確認し、その高揚を図ることとしたいものである。



## 組織強化のため新たな挑戦を！

恵迪寮同窓会東日本支部長 山中義正

(S 32年入寮)

恵迪寮同窓会は設立後、四半世紀を経て名実共に同窓会としてその基盤が確立されてきたように思います。北海道、東日本そして西日本の3支部体制を整備し、寮歌祭と同窓社の開催を中心に会誌「恵迪」の定期発行など着実に活動を積み重ねつつあります。

北海道と西日本の両支部においては、開議社の開催はもとより支部組織強化のため地域ごとの「〇〇恵迪会」を立ち上げ、会員増強にもひと役買っています。

翻って、東日本支部においては、支部結成前後の平成2年と6年に開催した東日本大会（いずれも横浜・氷川丸船内）は、230人から250人もの参加者を集めて盛大かつ活気ある大寮歌祭となりました。

それから17年余りを経て寮歌祭の参加者は1000人に満たない状況が続き、参加者も固定化する傾向にあります。

こうした状況に対処するため、従来、他2支部と持ち回りで3年毎に行われてきた大寮歌祭に加えてその合間の2年間も寮歌祭を実施し、しかもその寮歌祭は東日本支部地域内で東京以外の地で行うことにより、広く同窓会の存在を知らしめ、会員増強の一助にと目論んで参りましたが、思ったようには会員が増えていません。

そこで、今年度こそは全役員の知恵と工夫を総動員して、組織強化の新たな対策をたて実行していきたいと思っております。さらに、今年度の大寮歌祭に先駆けて開催する東日本支部初の開議社講演会も、新たな挑戦の一つです。

支部活動の活性化、新規会員の増強或いは役員補強など取り組むべき課題は多々ありますが、同窓会活動においても役員夫々の価値観やニーズの違いもあり、取り組む姿勢にも温度差があります。今年度はそれらを乗り越え一歩でも前進ある支部にしたいと思ひ、寮生時代に寮歌普及委員会委員であったOBの発掘や年代別役員の新設など新たな挑戦を始めるつもりです。

寮歌を歌うことは青春時代を懐かしむだけでなく、ストレスを解消し人の心を癒し、明日への勇気を沸き立たせてくれます。その寮歌を歌い継ぐためにも、恵迪寮と共に同窓会組織の強化発展は不可欠でありましょう。

本部をはじめ両支部役員ならびに会員各位のご支援とご鞭撻を切にお願い致します。

今年10月3日(土)東京・恵比寿で大寮歌祭が開催されます。寮歌を愛してやまない多くの寮友の参加を楽しみにしています。



## 談論風発で活気ある同窓会を！

恵迪寮同窓会西日本支部長 窪田 開拓

(S 32年入寮)

故辻山昌佑前支部長の後を引き継ぐことになった。公私とも、実に厳しい世情に突入したと実感している。はじめに入寮当時を振り返ってみたい。寮生の中にはまだ、旧制の方も何人かおられた。新旧入り乱れての世代が存在し、世間では寮が反体制のたまり場との噂もあった。入寮してまず感じたのはあらゆる人間模様がつぶさに観察出来たことで、純粹な私は目を見張るばかりだった。一度入った大学を捨て再入学した者、何年も浪人したつわもの、そして純粹無垢な若輩等々である。現在の寮では想像も出来ないが、厳寒の夜、カタカタという音が鳴り出し暖房のシュームが入ると、布団に潜り込んでいた輩がにじり出てくる。電気スタンドを前に膝かけをしながら勉強に励む者、明け方、寮歌をがなり立て交通標識を担いで帰寮する者、静かに聖書を読む者など、20歳世代はポテンシャルの宝庫でもあった。その幻ともいえる情景が恵迪寮の醸し出すエネルギーだった。ある時、旧制主催の寮歌祭に参加した際、便所に長蛇の列ができた。思わず「早くせい」と怒鳴ってしまったが、実に先輩たちに失礼なことを言ったと自戒している。あれから50年がたち、未だにわが身を晒しているゆえに支部長を仰せ付けられたわけである。実に多くの先人たちが

の姿や寮の情景が臉に浮かぶ。旧世代が消えつつある中で恵迪寮は100年を過ぎ、何はともあれその節目を形あるものにした。他の大学ではその伝統が消えつつあるが、北大はどうするか？ その問に答えるには課題が山積している。例えば①旧制世代の伝承をどう書きとどめるか②平成世代がどう考えているか③各地区の動き——などである。最後は西日本支部はどうするかに行き着く。西日本といても実に広く、私の考えをはるかに超えている。これには本部と支部が一体となつて存続のための活動をする手立てが必要だ。当面やらなければならぬのは、各地区同窓会の情報ネットワークの充実、同窓会役員及びOBが様々な会合に参加し、活動をPR、平成世代も参加しやすい行事内容、新旧が共有する人生・伝承を語り継ぐ、開議社の有効活用など——多々ある。西日本支部は箱根より西側、すなわち愛知、近畿、中国、四国それに九州・沖縄と広範囲だが、心の隔たりはそう広くない。機会があれば沖縄で寮歌をうたうことも可能だ。活性化のために、先のものは老人とならず健康の許す限り参加し、後に続くものと談論風発することが肝要である。



## 若き諸君とともに

## 恵迪の灯を燃やし続けよう！

恵迪寮同窓会北海道支部長 氏平増之

(S38年入寮)

今年1月中旬、白浜憲一代表幹事から「北海道支部長をやってもらえないか」という打診を受け急な話で驚きましたが、周囲の方々の仕事、健康状態、年齢などを勘案し、引き受けることにしました。微力を尽くしたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

この機会に、恵迪寮に入った46年前にタイムスリップして、当時を振り返ってみたいと思います。

岡山県・倉敷工業高出身で、北大志望のきっかけは、受験雑誌「蛍雪時代」に載っていた学生寮の生活ぶりや、芸春秋で見た緑燃え立つキャンパスのグラビア写真で北大に憧れたからです。未知なる北海道に思いを巡らせながら受験生活を送り、理類に合格出来ました。

晴々した気分が東海道、東北本線と列車を乗り継ぎ、連絡船で函館に到着。再び汽車に乗り札幌に着いたのは4月1日早朝でした。早速、教養部裏にあった恵迪寮へ直行し、玄関わきの寮事務室で「どこの部屋へ仮宿するか」と聞かれ、即座に蛮カラな応援団の部屋を希望しました。これが新たな人間関係の始まりでした。仮宿は北寮35、36号室でしたが、間もなく入寮選考で正式な寮生となり、同時に応援団へ入団しました。

その年の入団者は12名、うち寮生が6名でした。一つの部屋にベッド10床、もう一つの部屋に机10組を並べ、文と武を分離していました。しかし、じっくりと勉強する暇はありません。寮内のマラソン大会、円山への観桜会、中島球場で硬式野球の応援、小樽商大定期戦、七大学戦で九州遠征など、夏休みまでとはかく応援団活動に没頭しました。秋風とともに前期試験が始まり、ようやく正気に戻った感じでした。

1年半後の時を経て学部移行。応援団の寮生はおおむね低空飛行で、人気度まいちの学部学科へ進んで行きました。だが、実社会では教育、研究、医療、政治などの分野で大奮闘し、現役引退の年齢に至っています。

当時の恵迪寮は、喧々譁々と議論を戦わせた後、寮歌を歌ってはまた酒を飲む。何事も全力投球することの大切さを学んだ場所でした。

今から26年前、〈青春の聖地〉を永久に残そうと、先輩諸氏により恵迪寮同窓会が組織されました。

恵迪寮OB、OGの皆さん、特に若い人に訴えたいと思います。我々を育ててくれた恵迪寮を大切にして寮歌祭など同窓会行事に積極的に参加しようではありませんか。

# 追悼

## 牟田悌三さんを偲んで

板谷 実

(S 21年入寮)

賀春

八十路をむかえ、私は心の中で  
叫びつづけてます。

みんなが笑顔に

なりますようにと。

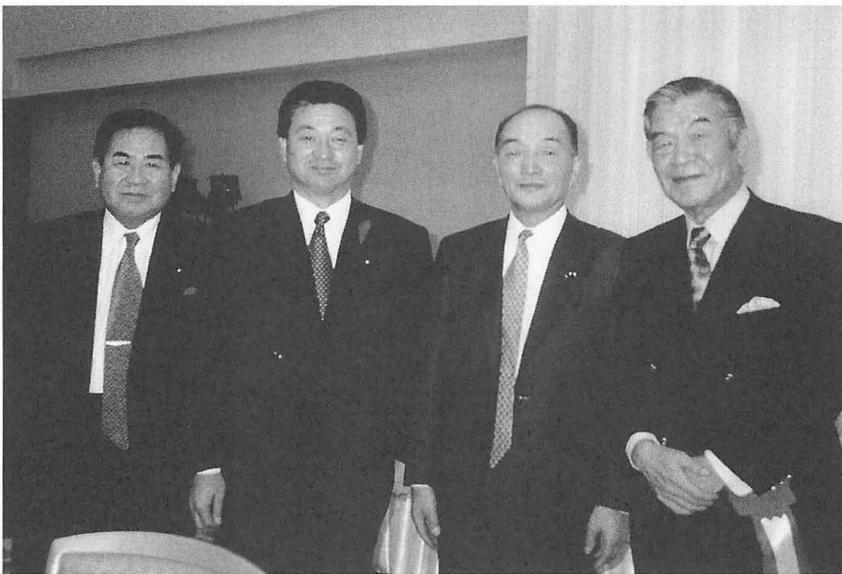
そんな社会を夢見て……

貴家の益々のご発展を

お祈り申し上げます。

牟田悌三

今年元旦にわが家に送られてきた牟田さんからの年賀状である。1月9日の午前中のラジオで「牟田悌三さんが亡くなられました」と報ぜられても耳を疑うばかりで信ずることが出来なかった。年賀状を見て、しばらく会ってないがきつと元気に役者稼業と福祉の講演をやっているに違いないと思っただばかりで、あれからまだ1週間しか経っていない。夜、自宅の風呂場で倒れているのを家族が発見したというから、きつと直前まで元気でまったく急なことで



苫小牧の講演会で 牟田悌三さん（右端）と筆者（左端）

あつたに違いない。

牟田さんとは長い長い60年を超える付き合いである。

先輩であり同級生という関係である。私が恵迪寮に入ったのは昭和21年春だったが、牟田さんはその1年前に入寮していた。

牟田さんのことを思い起こすと恵迪寮の生活に遡らざるを得ない。牟田さんは野球部でピッチャーをやっていた。グラブもミットもバットもボールもすべての道具に不自由な時代であった。野球の道具どころではない。戦争で国土が焼き尽くされ住む家も着るものもままならなく、生活の基礎である食糧すら満足でない暮らしであった。お米のご飯などお目に掛かりたくともなくカボチャやイモが主食であり、澱粉を採った後の澱粉くずまで食べていた。

農学部のある農場にも随分お世話になった。そんな生活であったが楽しかった。夜を徹して寮歌をうたい人生を語り、文化、芸術、恋愛を論じ、訳も分からないままに哲学書などを讀んだ毎日であった。こんな中から人格が形成され、人間関係が生まれ、自らの進むべき道が定まってきたのだと思う。

予科を終えた牟田さんは、農学部畜産学科に進んだ。

当時農学部では「ヒマリン・ブラチク」という言葉があった。暇な林学科、ブラブラしている畜産学科という意味で、カリキュラムが楽で優雅な学生生活を送ることができたため、個性のある人間が多かった。俳優になった牟田さん、水泳では古橋、橋爪両選手とともに全日本水泳選手権で決勝まで行ったTさん、北海道営林局長になったNさん、東

京フィルハーモニーに入ったYさんら多士濟々である。

Nさんは予科工類から林学に進んだが、専攻にあたって予科長の宇野先生から「君ほどの成績であれば工学部の電気で土木でも何処にでも行けるのに何で林学に行くのかね。学部に行つて遊ぶつもりなのか」と聞かれたという。

このような恵まれた恵迪寮、「ブラチク」の環境の中で、あの牟田さんの個性あふれる演技が培われたのだろう。赤穂浪士四十七士の堀部弥兵衛の名演技は、私の脳裏に今でも焼き付いている。

社会福祉を語る講演も余人をもつて代え難い独特の聞かせる話術であった。

「大切なことはボランティアで教わつた」の筆致は何とも言えない独特の味を持つ名著であった。個性あふれる味わい深い人格、話し方、物腰にもう接することが出来ない。大きなものを失った。惜しい友人をなくした。牟田悌三さん、どうぞ安らかにお休み下さい。牟田悌三さん、さようなら。

(苦小牧市)



中東、インド、極東、そして国内の様々な分野で学問、研究に励む、平成時代に在寮した若手同窓生5人から原稿が寄せられました。恵迪寮で培った真摯でアンビシャスな精神をもって真理を追究している若き研究者のために特集を組みました。

## 「千島列島調査日記」

### 「フィールドワークを武器に」

長谷川 健

(H7年入寮)

私は今、北海道大学理学部の地球惑星科学講座（昔の地鋳）で火山の研究を行っています。火山研究の中でも、現地に赴いて踏査を行う「フィールドワーク」を得意として、その対象地域は北海道東部の阿寒・屈斜路・摩周火山、そしてその先に延びる千島列島の火山列にまで及びます。ご存知の通り、千島列島は戦前、すべて日本の領土でした。当時の日本人研究者は千島の火山に関する優れた研究成果を残しましたが、戦後のソ連侵略、そして崩壊を経て、科学研究という点で野放しの状態にあつたと言えます。しかし最近になって日・米・露の協力により、千島の自然・文化史の全貌を明らかにしようとする一大プロジェクトが走り出しました。日本人研究者の手によって千島の地質が観察されるのは、実に半世紀ぶりのことです。

### 千島列島を片っ端から踏破

この2年間で私が上陸した島は、南から、国後島・択捉島・ウルップ島・チリポイ島・プロトン島・シムシル島・ケトイ島・ウシシル島・ラシユア島・マツア島・シャシユコタン島・チリンコタン島・エカルマ島・ハリムコタン島・オネコタン島・マカシル島、そしてパラムシル島です。現在、国後・択捉・パラムシル島以外に人は住んでおらず、さらに幾つかの島は、キツネも棲まない、戦時の残骸だけが残る寂しき孤島でした。しかしながら、「コタン」（アイヌ語で住居地）の名前が示す通り、かつては千島列島にもアイヌ文化が波及していたようで、今回も多くの島で集落跡や生活品が発見されました。これらの島に合計30以上もの活火山が存在し、その大半が18世紀以降に噴火しているのですから、当時の生活はかなりエキサイティングだったと想像できます。噴火と地震、そして津波の危険にさらされながら、極寒の冬と濃霧の夏を繰り返す毎日です。今回の調査は夏場に行われましたが、やはり霧の日が多く、天候に悩まされました。

お天道様の機嫌を常にかがいがいながら、船、ボート、またはヘリコプターによって各島へアクセスし、詳しく調べたい火山島ではキャンプを張って10日間近く滞在調査も行いました。植生豊かな千島では、容易に地層を観察できるような裸地（露頭）は少なく、ホームマックで買ったシャベルでひたすら地面を掘って、自ら露頭を作り出すのが常套手段となります。野生のラッコ、シャチ、アザラシ、トド、

エトピリカなどを背に濛々と煙を噴く火山を調査するという体験は、ほかには代え難いものでした。夕食には、その日に獲れた魚（サケ、マス、カレイ、タラなど）と山菜・キノコなどが卓を彩りましたが、日本人が振る舞った刺し身に手を伸ばす勇敢な外国人は多くはいませんでした。

### 恵迪魂 大いに役立つ

航海中は、高慢なアメリカ人と武骨なロシア人に囲まれ、狭い船室にすし詰め状態であったため、度々不愉快な思いもさせられました。そこは私も、応援団で体得した「蛮声攻撃」と「におい攻撃」で応戦してやりました。恵迪寮と応援団で培った、体力、でかい声、風呂に入らなくても平気な心と体、そして根拠の無い自信が研究生生活で役立つことになろうとは思っていませんでした。

と、ここまででは千島調査の体験記を例にとりましたが、このように野外での悪戦苦闘を強いられるフィールドワークは、やはり元気がなければやっていけない仕事です。元氣（だけ？）を取り柄とし、野外調査が大好きである、そんな私のルーツは、恵迪寮・北大応援団よりもさらに昔に遡って、高校時代にあつたと言えます。私の高校の地学の先生は、恵迪寮の先輩でもある小出精先生（昭和30年入寮、仙台在住）でした。小出先生は、野外授業では化石の産する有名な露頭に連れて行ってくださり、室内では学生時代のパンカラなお話や寮歌を聞かせてくれました。今思えば、私はその頃から、北の自然と血気盛んな学生生活に憧れを抱いていたような気がします。泥臭い学問のためか、最近

は学生の「地学離れ」をよく耳にします。若手の地球科学研究者の間でも、机上で行う理論計算（シミュレーション）や室内実験が好まれる時代となってきました。こんな時代にこそ、精力的にフィールドワークに赴き、天然の観察事実から目を離さずに、正しい理論を組み立てていける研究者を目指していこうと思います。

（北大大学院理学研究院 自然史科学部門 地球惑星システム科学分野 博士研究員）



パラムシル島で。後方で煙を噴くのはチクラチキ火山。（2007年）

# テヘラン女子寮見聞録

村上明子

(H7年入寮)

初めてテヘランを訪れたとき、非常に驚いた事が二つある。一つは交通渋滞の凄さ。渋滞と言えば、アジア域の首都名物と言えなくもない。バンコク然りジャカルタ然り。しかしテヘランの渋滞の凄まじさはバツグンだ。おそらく日本人の多くが、テヘラン滞在当初は道路の横断を尻込みして、歩道橋や一緒に渡ってくれそうなイラン人を探してしまうだろう。一方現地の人々は、絶妙に車の行き交うタイミングを見計らい、時に運転手とアイコンタクトをしたり「ちよつと止まって」といった感じのジェスチャーを交えたりして、実に巧みに渡っていく。

そして、もう一つの驚き——それは女性の美しさである。初めてテヘランの女性を目の当たりにした時、彼女らのハッキリとした目鼻立ちとその美しさに度肝を抜かれた。「それに引き換えて自分は化粧したってタカが知れてるな」と化粧するのが馬鹿馬鹿しくなってしまった程だ。

さて、ここでの本題はイランの女性達の方である。今回は特に恵迪寮との「寮つながり」で、テヘラン滞在時に私がお世話になった民間女子寮での話を書いてみようと思う。ちなみに私の研究テーマは「イランの女性労働者」だ。日本では「イスラーム圏の女性は自由がない」といったニュアンスで語られる事が多い。例えば、アフガニスタンのタ

リバン政権とそこでの女性の服装「ブルカ」に関する報道はその典型例かと思われるが、タリバンに限らずヘジャブ（女性の髪を覆い隠すためのベール）はイスラームにおける女性問題の象徴として捉えられがちだ。イランの場合も、すっぽりと体を覆う黒いマント「チャードル」がイラン女性の「抑圧」の象徴として意図的に報道されていたように思われる（「抑圧」云々以前に、「黒いチャードルを纏っている様子が何だか怖い」……といった感想が、私の周りではよく聞かれたものだ）。

実は、初めてイランを訪れた際に最も悩んだのが服装だった。最近では、女性の格好も派手になってきたとは言うけれども、外国人で目立つだろうし……と散々悩んだ挙句に選んだのが、膝下20<sup>センチ</sup>の真つ黒いコートに、インドネシアのスカートだった。

## オシャレなイラン女性

しかし、実際は冒頭に述べたような驚きが待っていた。イラン女性はとにかくオシャレだ。現体制によって「外出時の服装に関するガイドライン」のようなものが全ての女性に（ムスリマ——イスラーム教徒の女性——であろうとなかろうと）押し付けられている訳だが、「お尻が隠れる長さの長袖コートを着用する」「スカートで頭髪を覆う」などの「お上によるドレスコード」を踏まえつつも、思い思いのファッションを多くの女性が楽しんでいる（勿論チャードル姿の女性も多いが、実はチャードルは合理的な服装だと個人的に思う。またチャードルにも流行があったりする

のだが、紙面の都合上ここでは割愛)。そんな様子を目の当たりにして、あまりにもトンチンカンな格好で訪れてしまった自分を、色々な意味で恥ずかしく思ったものである。さて、そろそろ本題の女子寮の話に移ろう。私が御厄介になったのは民営の女子寮である。通っていた語学学校と提携していた事が入寮の決め手となった。民営の女子寮という事で、学生、社会人、留学生、受験生……といった具合に、寮生の身分・国籍共に実に様々であったが、やはりイラン人が圧倒的に多い様子であった。

そこで私が入ったのは三人部屋である。ルームメイトは二人ともイラン人。一人は花の女子大生で薬学専攻のひと。そしてもう一人は、地方から大学受験のために上京している受験生で、クルドだと言っていた。二人とも非常に人懐っこく親切で、私はすぐに彼女達と打ち解ける事が出来た。さて、実は私が寮に入ろうと思った理由の一つに、イラン女性の普段の様子を知りたいというのがあった。したがって彼女達の関心事や生活習慣などに非常に興味津々だったのだが、それは彼女らとて同じ事。特筆すべきは、ドラマ「おしん」を通じて知った(と彼女達が言っていた)「お箸」「ちゃぶ台」「漢字」が日本文化の象徴としてインプットされていた事、それから「日本にお金持ち」というイメージが刷り込まれている事だろうか。私からしてみれば、本質的な豊かさはイランの方が格段に上なのだが。

彼女達との生活を通じて特に印象的だったのは、一つにイランでは「立場」がハッキリしているという事。実は、当該女子寮はイランの中では比較的寮費が高額で規則も

しつかりしているため、良家の子女が多い。そして、そこには寮母以下掃除婦などのスタッフが常駐している。そうした中、寮生達はスタッフに仕事を頼む事を躊躇しない。女子寮のスタッフは必然的に女性となる訳で、私などは例えば私物の運搬などの「力仕事」の依頼は「申し訳ない」と感じてしまう。しかし寮生達は、「力仕事」など「自分達がすべきではない」と判断した用件については、即座にスタッフを呼ぶ。一方、スタッフにとっても、たとえ力仕事であろうがそれはやはり「自分達の仕事」なのである。「あゝ、いいです、それぐらい自分でやります」といった「日本的光景」はそこでは起こりえない。それぞれの「立場」というのが、しつかり定まっているという事なのだろう。念のため強調しておくが、この事に対して私は批判的見解に立っている訳ではない。

### パーティーは踊るもの

もう一つは「踊る文化」。寮では、流行の音楽を聴きながら踊り出す事もしばしばだった。また、イランではパーティーなどでもとにかく踊る。これは、娯楽のレパートリーが相対的に少ない事にも起因するかもしれないが、そうした事情を差引いても「イラン人は踊りが大好き」というのは揺ぎない事実だろう。私が滞在した時は、ダンスが最高潮に達した際「ダメト・ギャルム!」(お前の息は熱いぜ!)といった意味の「決め台詞」を口にしてハイタッチするのが一部の若者の間で流行っていたようだ。勿論、私も一緒に踊ったものだが、ある日「日本ではパーティー

でどんな踊りをするの？」と聞かれてズッコケそうになった。「日本ではそんなに踊らない。パーティーの時は大体飲むか歌うかだと思う」と答えたら、「パーティーで踊らないの？」と非常に怪訝そうな顔をされた。恵迪での経験も多少は影響しているかもしれないが、日本は「歌う文化」でイランは「踊る文化」なのかもしれない、そしてその意味は？——とフト考えたものである。

### イスラームへの偏見 反省

最後に、「イスラームへの偏見」について。私のルームメイトは、二人とも実に恭しく礼拝をしていた。この話を、ある日何気なく友人のイラン人男性にしたところ、「すごい。それはモーメン（敬虔）だね！」とビックリされたのだ。私は「彼がビックリした事」に対してビックリした。驚きのポイントが「現地のイラン人がビックリするほどの二人は敬虔だ」というところである。実は、二人ともヘジャブは嫌だとこぼしていたからだ。曰く「強制されたヘジャブ」に嫌悪を感じる、と。——この一件は自分の浅慮を痛感させるものであった。「日本におけるイスラーム報道の偏向性」については前述した通りだが、実は、私自身も「信心深いヘジャブを進んで身に着ける」といった偏見を持つていた訳だ。「ヘジャブ」を「イスラームの象徴」と捉えるのは、非ムスリム世界の偏見なのだと自戒していたつもりだったが、戒めていたはずの偏見がいつの間にか刷り込まれていた訳だ。無論、「女性は公共の場での露出はとにかく避けるべき」と考える人だっているだろう。しかし、

これについて「どのように考え」「どのように行動するか」は、個人や、またその所属する社会によって、そのあり方は多様なのだ（この点に関して、コーランはあまり多くは語っておらず、したがって様々な行動パターンが成り立ち得る事になる）。ちなみに、こういった事を外野があれこれ言う事自体が非常におこがましい事だと自認しているが、ここでは、自省を込めて敢えて記した。

自分の経験した事以外は偏見の可能性大——以上を肝に銘じつつ、出来ればイランに、少なくとも5年ぐらいは住みたいなあ、と考える今日この頃である。

（北海道大学大学院経済学研究科 博士後期課程）



記念撮影を頼むと気合を入れてメイクしてくれたルームメイト。薬学専攻の女子大生（左）と芸術系志望の受験生（右）

## 海とともに

阿部 拓三

(H5年入寮)

## 幼い頃の夢を実現

幼少の頃から水辺の生き物が大好きで、いつも田んぼや川で魚を追いかけていました。ランドセルを放り投げたまま家に帰ることもしばしばというありさま。そして今は海で魚を追う毎日です。「あの頃と何も変わっていない」とよく友人に言われます。

現在の職場は、宮城県北部のリアス式海岸の静かな湾にあります。そして眼前の海が研究フィールド、そこで魚類の生態研究に取り組んでいます。タンクを背負い、ドライスーツを着て季節を問わず海の中へ出かけていきます。そこには、もう一つの地球の姿があります。

北国の水深0-20mほどのごく浅い水深帯は、海洋生物研究のブラックボックスと言えます。その要因の一つには、重厚な調査器材が使用できず調査研究のメスが入りづらい領域であったことが挙げられます。ドライスーツなど寒冷地用のSCUBA器材が普及したのも最近のことです。また、漁業との兼ね合いから、ウニやアワビの生息場所でもある海岸に潜水することは非常に困難なことです。そうした背景もあり、海底で見つけた見慣れない魚を調べてみれば未記載種だった、ということはその珍しくありません。

それが生態となれば、ほとんど不明な魚種ばかりです。

私の専門分野は魚類(特にカジカ類やダンゴウオ類)の繁殖生態です。これらの多くは親が卵の世話をする習性を持ちます。子育てを担当するのが雄であったり、雌であったり、あるいは両親であったり、はたまた他の生物に世話をまかせるちゃっかりした種類もあります。子育て方法ひとつとっても、それぞれのグループ内で様々なパターンが見られます。

いったいどうして、そしてどんな風にそうした生態の違いが生じてきたのか? 海底で魚たちとにらめっこをしながら水中の進化史に思いを馳せるのはとても楽しいことです。じつと海底の生き物たちをみつめていると、生物同士あるいは物理環境との密接なつながりを感じることができ

ます。

最近、冬に繁茂する海藻類を産卵場所として利用する魚種が多いことが分かってきました。ハタハタやニシンが海藻に産卵することは有名ですが、カジカ類やクサウオ類などこれまでほとんど知られていなかったグループにも、海藻に産卵し、しかもそこで親が子育てする種があったのです。それらの卵も、餌となるプランクトンが大増殖する春にふ化し、浮遊生活を送りながら海底生活へと移行していきます。水産有用種ではなくとも、海洋におけるエネルギーや物質の循環の一部を担う多様な生物群の重要な一員です。埋め立てや護岸工事などによって自然海岸や藻場が少なくなれば、すぐに失われてしまう可能性のある生き物たちでしょう。その生態や、あるいは存在すら知られないま

ま消えていく生き物がいるかも知れないということは、とても恐ろしいことだと思います。

### 生き物の世界を子どもに伝えたい

学生時代からの私の大きな目標のひとつは、こうした生き物たちが織りなす物語を子供たちに伝えることです。最近「エコ」とか「環境保護」という言葉をよく聞きますが、そもそも私たちは自分を取り囲む環境でどんな生き物たちがどんな暮らしをしているのか、分からないことが多いはずです。とりわけ日本は海が身近な存在であるのに、いったいどれだけのことを理解しているかと聞かれると、そう多くはないと感じます。まずは奥深い海の不思議と魅力を自分の眼で見て、自分の言葉で語り、いろいろな人と共に考えることが地域づくりにもつながると考えています。今後立場は変わっても、海とそこに暮らす生き物たちと正面から向き合っていきたいと思っています。

(宮城県南三陸町自然環境活用センター 任期付研究員)

### 追記

阿部君は6月から北大水産学部所属の練習船「おしよ丸」に三等航海士として勤務、約2か月間北太平洋の生物研究と学生実習に携わっています。



志津川湾で子どもたちと磯の観察会

## 寺院に眠る古の言語

## 〜中世インドの言語と文学

山畑倫志

(H10年入寮)

私の専門は中世インドの言語と文学です。インドの言葉は日本ではあまりなじみがないかもしれませんが、檀家や般若、または「奈落の底」の奈落などは本来古代インドの言語の音そのまま写された語をもととした言葉です。お経などでよく見られる「ギャーテーギャーテーハーラーギャーテー」といった文句も同様ですが、これらは古くは梵語ぼんごと呼ばれたサンスクリット語や他のインド諸言語から由来するものです。

言語の面に限らなくても、日本を含めた東アジア地域では仏教を中心としてインドからの文化的影響が色濃く残っています。しかしそれらの影響は全て古代インドのものであり、新しいものでも10世紀ほどで止まってしまいました。これはインド本土における仏教の衰退とも関係しています。が、事実上日本への情報の流入はそこで止まってしまいました。

## 「墮落した言語」を追って

さて、インドにはジャイナ教という宗教が存在します。これは仏教と同時期に生じ、仏教と互いに強く影響を与え合いながら発展してきた宗教ですが、インドへのイスラ

ム教の流入以後も仏教の衰退を尻目にしたたかに生き残り、現代のインドでも数は少ないながらも富裕層を中心に一定の勢力を保っています。このジャイナ教徒たちはその発足当初からインドの様々な言語で物語や詩を著してきました。現在、写本の形で残っている多くの資料はインドの言語の変化を追う上で大変貴重な資料となっています。

私の研究対象は10世紀から12世紀ほどにかけて用いられたインド語の一つであるアプブランシャ語です。アプブランシャとは「墮落した」という意味であり、当時の正式な言語であったサンスクリット語ではないということが含意されています。しかしこの言語とそれによる作品はインドの中世以降の言語や社会の変化を読み取る上でのキーになると私は睨んでおります。この「墮落した」言語は当時のインドの文筆家たちにはほとんど用いられることはありませんでしたが、そんな状況の中でもジャイナ教徒たちはあえてその言語を用いて膨大な量の物語や詩を著しました。それらの作品のうち、公になっているものはごくわずかです。またその専門家も日本には存在していませんでした。

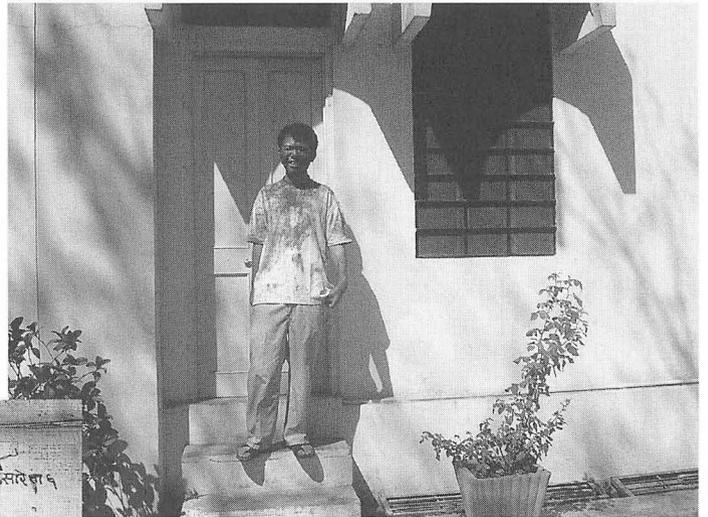
## 寮時代の飽食が懐しい

そのため約5年前に私は研究を始めるに当たり、ジャイナ教が盛んなインド西部の都市、ジャイプルに1年ほど滞在し、アプブランシャ語の学習と写本の収集にあたりました。現地ではジャイナ教寺院に無料で滞在させていただき、毎日専門家の指導を受けられるという幸福な環境を享受することができました。ただ、ジャイナ教は不殺生の戒律が

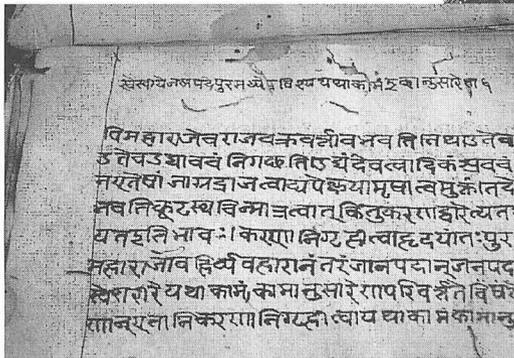
厳しいことで有名であり、滞在を許可していただくに当たって、肉、魚、卵、酒、タバコが全面的に禁止されました。海外に行かれる方ならば、食の点で苦労されることも多いと思いますが、さすがに毎日豆と菜っ葉のカレーという食事には正直辟易してしまいました。カレーに飽きてしまった後はほぼバナナとヨーグルトだけの生活となってしまうました。寮時代にエッセンで美食・飽食？ を極めた身には大変こたえたものです。おかげで15キロものダイエットに成功しましたが……。

現在も毎年半年ほどはインド各地の寺院や文書館を駆け回り、煩瑣<sup>はんさ</sup>極まる官僚的手続を乗り越えながら、写本の山の中でペンを走らせています。昨今の大学を取り巻く状況はけっして良いとは言えず、いわゆる文系の研究に対する風当たりも強いものとなっています。そのような状況下にはありますが、自らの研究の意義を社会に向けてしっかりと説明し、研究の伝統を絶やさぬよう努めていきたいと考えています。

(北大大学院 文学研究科 宗教学インド哲学研究室 専門研究員)



現地のお祭りでインド人になり切った筆者



ユルカタ大学で撮影したサンスクリット語の写本

## 生物のかたちの進化をたどる

武智 正樹

(H8年入寮)

年少の頃から物事が移り変わっていく様子やその理由を知るのが好きだった私は、1996年に入寮した恵迪寮についてその歴史に興味を持ちました。在寮時は寮史編纂委員会の役員になり、寮史の書庫に入っては過去の出来事を学び、さまざまな思いを巡らせていたことを思い出します。生き物が好きで生物学を志し、それなら大自然の中で学ぶのが一番だろうと思って入学した北大。3年生まではどっぷりと寮生活に浸かり、ご多分に漏れず(?)あまり大学に行った記憶がありませんが、4年生になり研究室に配属されてからは研究に打ち込む決意をしました。生物学においてもやはり歴史、すなわち生物の進化に関する研究に興味を持った私は、脊椎動物の多様な「かたち」の進化をさぐるため、最も原始的な脊椎動物であるヤツメウナギの発生を研究テーマに選びました。

## 楽しかったヤツメの研究

ヤツメウナギは私たちが普段口にするウナギと同じように海と河を回遊する動物ですが、本物のウナギとは全く異なる動物です。日本でも食用にされているものの、産地は江別や新潟など非常に限られています。私は石狩川に近いという「地の利」を生かして、江別漁協からヤツメウナギ

を譲っていただき、人工授精法の開発から始めました。ヤツメウナギを長年扱ってきた経験豊富な漁協のおばちゃんたちの確かなアドバイスを受け、初めて受精に成功した時の喜びは今でも忘れられません。北大で研究したのはたった1年間でしたが、北海道ならではの人の温かさを直接感じる事ができ、良い思い出となりました。

その後は出身地の千葉に戻って東京大学の大学院に入学し、生物の色覚の進化の研究に取り組みました。北海道でサンプリングに出かけていた頃とは異なり、毎日実験室にこもって研究する日々だったので北海道が恋しくなることがよくありました。ある夏にはいても発つてもいられず、思わず北海道に遊びに行つて満喫してきたことを覚えていきます。

博士号の学位を取得した2006年からは、神戸にある理化学研究所の연구원として入所し、再び脊椎動物のかたちの進化に取り組んでいます。理化学研究所は全国にいくつもの拠点をもちますが、神戸研究所は生物の発生や再生医療の基礎研究を行うために作られた研究所です。私が現在テーマにしているのは顎のかたちの進化です。

大変驚くべきことに、私たちヒトを含む哺乳類とそれ以外の動物のアゴは、機能は同じでも骨の由来は全く異なります。というのは、哺乳類に進化する前、すなわち爬虫類や両生類でアゴとして使われていた骨は、哺乳類では耳の骨(ツチ骨・キヌタ骨・アブミ骨)に変化してしまい、哺乳類は二次的に全く新しいアゴを獲得したのです。このような進化がどのような過程によってもたらされたのかを研

究しています。

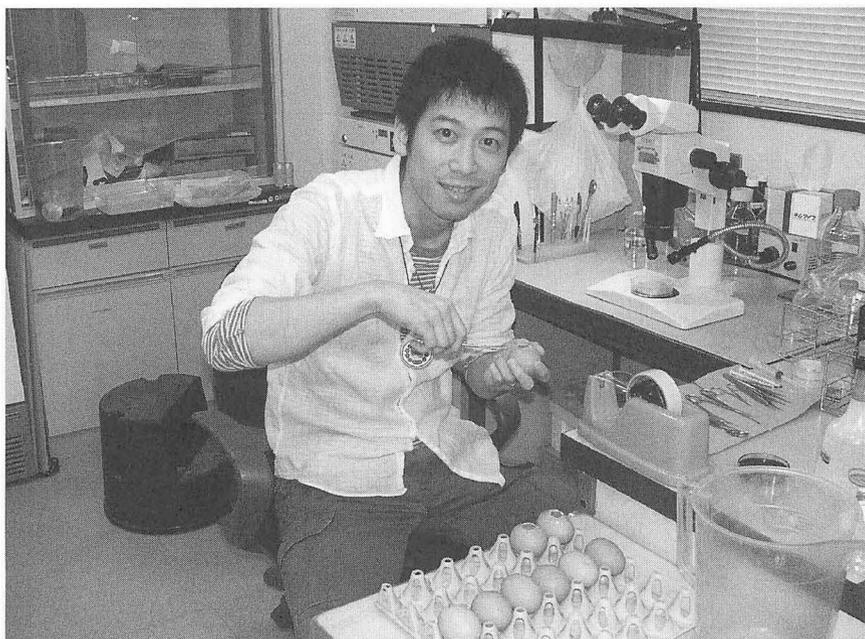
身の回りにいる動物、例えばイヌ・ネコ・トカゲ・カエル・キンギョなどを思い浮かべただけでも実に大きさやかたちが多様であることがわかります。しかし、一見全く異なっただけに見えるそれらの動物でも、生まれる前、すなわち胎児や胚発生を比較すると実はよく似ているのです。つまり最初はよく似ていた胚にちよつとした変化が起こり、それが引き金となって最終的に大きなかたちの変化、すなわち動物の「かたち」の進化につながっていくのだと考えられています。そのため、私は現在マウスの胎児やニワトリの胚発生においてアゴの骨ができてくる様子を詳細に比較観察し、またアゴを作るために必要な遺伝子が両者でどのように異なる制御を受けているのかを明らかにしようとしています。ニワトリの卵から胚を取り出すために卵まみれになつて格闘する日々です。最近ではアゴ自体の起源を研究するため、アゴを持つ動物の中で最も原始的なサメ（比較的小型のトラザメ）を1リットル水槽の中で飼い始めました。卵を産ませて胚を得ることに成功し、今後の研究が楽しみです。

### 研究心の糧は自然あふれる寮歌

このような動物の多様性に対して興味を持った理由のひとつには、北海道の厳しくも雄大な大自然に身を置き、また自然の美しさを謳った数多くの寮歌に慣れ親しんだことがあると思います。研究生活は山あり谷ありの連続ですが、風呂に入りながらひとり寮歌を歌っていると、不思議とま

たがんばろうという力が湧いてきます。寮生活で経験したことを糧に生物進化の解明を夢見て充実した毎日を送っています。

（独立行政法人 理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター研究員）



顎のかたちの進化を研究する筆者

## 恵迪寮とクラーク家交流記

## 〜幾重もの糸が紡いだ出会いの軌跡

大園 雍彦

(S27年入寮)

はじめに

あの第二次世界戦争がなかったら、戦後、九州・佐賀から北海道・帯広に移らなかつたら、北大に入学しなかつたら、アラスカ大地震がなかったら、帯広市とスワード市が国際姉妹都市にならなかつたら、スワード市開基100周年時にステュー・クラーク氏がスワード市長で私のホストファミリーにならなかつたら……。どれ一つ欠けても出会いはなかつたことでしょう。数十年をかけて紡いだ糸が絡み合つて私とクラーク家を結び付けました。

水杯で北海道へ

戦前、上海領事館勤務や満州・牡丹江市で事業を経営していた父は終戦後、裸一貫で佐賀に引き上げ。私は生活苦のため高校を中退、長姉の

会社を手伝っていました。

そんな時、復員後のマラリア治療中に養蜂業を会得した長兄が、九州―北海道の移動養蜂家をめざし渡道。兄は帯広で病に倒れ、蜜蜂も全滅したため養蜂業を断念。病氣回復後、忠類中学校教諭から川西農業高校(現帯広農業高校)の教諭になっていた長兄から「せめて高校ぐらいは出る。おれの所に来い」と話がありました。

1950年春、佐賀で水杯を交わし母親と共に列車と連絡船を乗り継ぎ帯広へ。帯広三条高校に転校願いを出しましたが、枠がいっぱいだったため、兄が勤める川西農高林科2年に転入しました。安月給の兄にこれ以上の負担をかけるのは忍びないと、卒業後は、三白(パルプ・砂糖・

セメント)景気に沸く、製紙会社に就職するつもりでした。

ところが、高校3年の初夏、兄が「大学に行つていいよ」と急に言い出し、びっくり。兄の知り合いが北大水産学部に在学されていましたので、憧れの北大を志望。独学で夏休みから受験勉強を始め、幸い合格することができました。

晴れて恵迪生

受験時に入寮願書を出していましたが、何の連絡もなく、不安な思いで恵迪寮に行ったところ、すんなり許可され、晴れて寮生に。何も分からないまま軟庭3号室に入寮。部屋の白壁に大書してあった「朝寝して、夜寝るまで昼寝して、時々起きて居眠りをする」の落書きには、びっくりしたり安心したり。三条・川西高の両先輩と私たち新入生2人の4人部屋での生活がスタート。先輩たちから対等に接してもらい、これが大学生なのかと感心しました。戦後の混乱期を象徴する伝染病のコレラ事件、警察官導入の住民票強奪事件など暗いニュースもありましたが、

様々なアルバイトをしたり、寮祭でギター独奏をしたりと、楽しい寮生活を送りました。

### アラスカで事業展開

1956年北大を卒業、水産会社に入社。64年1月から6年間、アメリカ・カナダでの事業を担当しました。間もなく発生したアラスカ大地震が、日系二世のハリー川部氏や三木元首相、そして後にクラーク家の人々と出会うきっかけになりました。

当時シアトルに在住の川部氏は、市中にビル等を数多く所有する富豪でした。その富は若い頃の金発掘ブームに沸いたアラスカ、スワードでの事業により得られたものですが、戦後、経済的に苦しかった日本を援助され、日本政府から叙勲を受けています。三木元首相と親交があり、元首相の娘さんがアメリカ留学中、川部氏が面倒を見られたそうです。

川部氏はアラスカ大地震で壊滅的な被害を受けたスワード市の復興事業として、日本の水産加工会社進出

を三木元首相に要請。三木元首相は、懇意であった宝幸水産社長の深尾清吉氏に調査を依頼、北米で事業展開していた私がスワード市での水産事業・新工場建設の視察・調査をすることになりました。

### スワードと帯広の縁結び

67年、調査団の責任者としてスワード市の歓迎式に臨んだ際、ドリンコール市長から「帯広市を知っている人はいますか」と突然聞かれました。「帯広は私の第二の故郷です」と答えると、「帯広と縁を結びたい。紹介して下さい」と依頼されました。早速、帯広に住んでいた長兄を通して市長の意向を帯広市に伝えてもらい、兄が英訳した返事をスワード市に送りました。

その翌年、帯広市とスワード市が国際姉妹都市締結したことを、71年新聞記事で知りました。

その後30年ほど両市と縁が途絶えていましたが、2002年秋、恵迪寮入寮50周年、高校卒業50周年記念同窓会があり、帯広市を訪ねる機会がありました。砂川帯広市長を表敬

訪問した際、市長から「来年のスワード市開基100周年記念に帯広市訪問団が出席しますが、ご一緒しませんか」と言われ、その場で快諾しました。

### スワード市長はクラーク博士の曾孫

03年7月、開基100周年記念のためスワード市を訪れた時、私のホスト・ファミリーに名乗りを上げたのがスワード市長のステュー・クラーク氏でした。その時、市長が札幌農学校教頭だったウィリアム・スミス・クラーク博士の曾孫であることを初めて知りました。私たちの訪問は現地の新聞にも大きく取り上げられました。私の前にも恵迪OBの佐山峻氏（S25年入寮）がステュー・クラーク氏を訪ねています。

帰国後、「恵迪」創刊号に佐山峻氏が書いた「クラーク先生の『大志と野望』」の寄稿文を読み、改めてクラーク博士の偉大さに感動しました。

その後、05年7月から8月にかけて再び夫婦でスワード市を訪れ、ス

テュー・クラーク氏宅にホームステイしました。

### ステュー・クラーク夫妻訪日

06年9月、北大開基130周年に合わせてステュー・クラーク夫妻が来日され、ご夫妻の要望で私たち夫婦は、9月22日から10月10日までの京都旅行や北大関係者の歓迎行事など全行程に同行、案内しました。

この時の主な行事は次の通りです。



ステュー・クラーク氏の80歳誕生パーティーで（右端が大園夫妻）

9月22日…千葉エルム会歓迎会、

23日…習志野市長表敬訪問、28日…札幌エルムガーデンでのHBC主催

歓迎晩餐会（佐山峻氏同席）、29日…

道副知事、米国総領事らと、北大を表敬訪問、中村総長との歓迎昼食会。

札幌ガーデンパレスの歓迎レセプションで北大総長、北海道副知事、

米国総領事、北海道マサチューセッツ協会会長らの歓迎挨拶。30日…ク

ラーク高校と深川市の歓迎会、10月1日…帯広市歓迎会。2日…釧路市

歓迎会。8日…東京で三浦雄一郎氏と会食。10日…成田から帰国。

その時ステュー・クラーク氏から

贈呈されたジョン・エム・マキ氏著の「ア・ヤンキー・イン・北海道」

は、私の英語力では理解できず、高久真一氏訳・北海道大学出版会の

「W・S・クラーク その栄光と挫折」を購入し、一気に読みました。クラーク博士の人間像を詳しく知らなかつ

た私は、昭和天皇が人間宣言した時のような衝撃を受けました。とても

人間味があつて親しみが湧き、クラーク博士に対する新たな理解が加

わりました。

ス氏の80歳誕生パーティーに夫婦で出席

08年7月、私たち夫婦は日本人

族として招待され、ワシントン州ルミア일랜드のクラーク家に一週間

ホームステイしました。ニューハン

プシャーから駆けつけた長女のデブラ・Y・クラークさん、孫のウイリアム・スミス・クラーク三世にもお

会いできました。

以上の様に、多くの絆と偶然が重なり、私とクラーク家との交流が今も続いています。

（千葉県習志野市）

W・S・クラーク博士直系6代の方々和家人図の紹介

W・S・クラーク博士、直系家族のご紹介 (写真…北大付属図書館許可、ステュー・クラーク氏保存、大園撮影を使用)



ウイリアム・スミス・クラークI世 (1826～1886)

1848 アマースト大学卒業 1852  
博士号取得 (ゲチンゲン大学・ドイツ)  
1861～1863 南北戦争で北軍少佐

↓大佐・1864 マサチューセッツ州議会議員  
1867 マサチューセッツ農科大学初代学長 (現マサチューセッツ州立大学)

1876 (明9) 7・31 (50才誕生日) ～1877・4・16

札幌農学校教頭・プレジデント

1880 スターグロブ銀鉱山会社設立・社長

ヒューバート・ライマン・クラーク (5男…

3人夭折、実質2男) (1870～1947)

1892 アマースト大学卒業 アマースト大学生物学講師

1897 ジョンス・ホプキン大学で博士

号取得 (メリーランド・ボルチモア市)

1929 来札 (ハーヴァート大学代表とし学会に出席の折)

ウイリアム・スミス・クラークII世 (長男)

(1900～1969)

1921 アマースト大学卒業 1921

～23 札幌で英語教師

1926? ハーヴァート大学で博士号取



得

1926～32 アマースト大学英語講師

1956、1960 来札

ステイラット (スチュー) ・H・クラーク (長男) (1928～)

1948～50 アマースト大学物理学助

手、1950年 アマースト大学数学で最

優秀賞を得て卒業

1956 ハーバード大学経営管理修士号を取得。

1996～99 アラスカ州・スワード市議会議員

2003 スワード市 市長としてスワード開基100周年

記念式典実施

1976、1988、2002、2006…来札

デブラ・ヤリントン・クラーク (長女) (1956～)

1978 アマースト大学卒業

コンピューター金融システムアナリスト

クラーク高校の招聘により1992来札

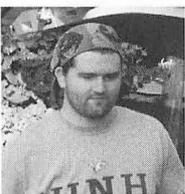
1993、1994、1995 訪日

ウイリアム・スミス・クラークIII世 (長男)

(1985～)

2009 マサチューセッツ州立大学

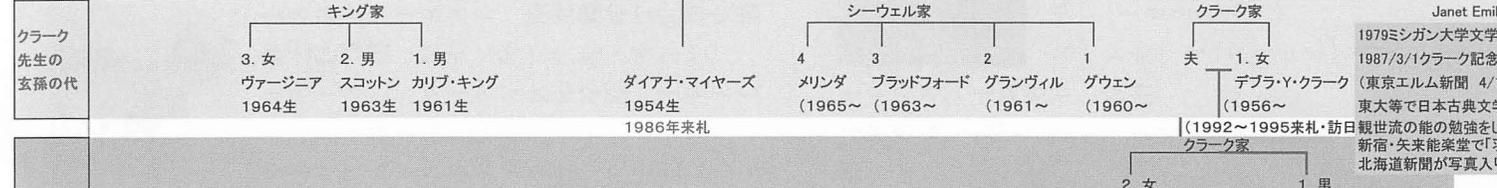
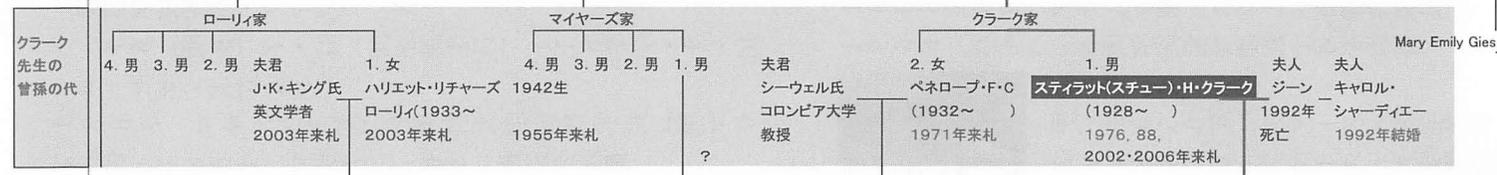
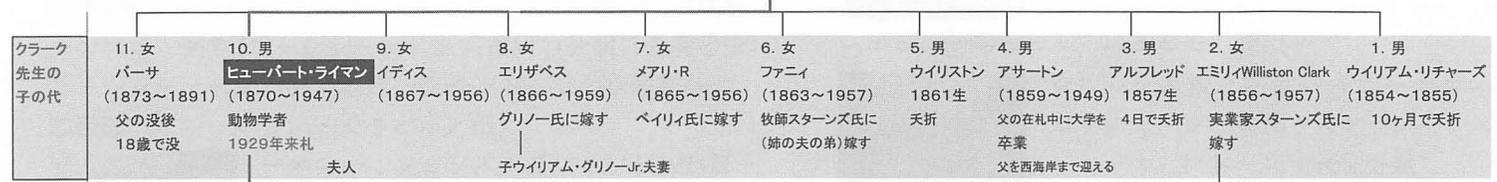
(W・S・クラーク博士初代学長) 卒業予定



### クラーク先生ご子孫の系図(ヒューバート・ライマン・クラークの家系)

2002.10.1 作成  
2003.9.02北大総務部国際交流課・梶本宏円氏より送付  
2006.3.20大園加筆及び色付け

<b>ウィリアム・スミス・クラーク I 世</b> (1826~1886) 1876.7.31~1877.4.16まで在札	ハリエット・カポラニ・リチャード(ウィリントン家養女) (1829~1917) 結婚 (1853.5.23)
---	--



6代目 Benjamin Sullivan  
(1985~)  
2004.6.28~7.30 HUSTEP学生  
2005.10~2006.8 日本語研修生

**ウィリアム・スミス・クラーク III 世**  
**ステュー・クラーク氏略歴** (1985~  
1950年アムハースト大学数学最優秀賞を得て卒業 1956年ハーバード大学経営管理修士号を取得  
ハンプシャー州サンダース協会を1983年に退職。10年間モーターホームで北アメリカ各地140,000  
マイル移動後、1994年にスワード市に着いた 1995年に降スワード市に定住  
2003年から市長を務めた。 2006年6月からワシントン州ベリングハム近郊のLummi Islandに移住  
2006.9.22~10.5キャロル夫人と訪日、大園夫婦が全行程同行、各地での歓迎会に出席

## 俺の恵迪寮時代

恵迪寮同窓会名誉会長 中瀬篤信

(S 26年入寮)

公立病院の定年後もなお医業を生涯としていたのだが、現役時代においてすらも、時折、「俺は何で医者になったのだ？」と、その経緯の不思議な縁を省みることがしばしばであった。

本来、わが家系には、医者など一人もなく、母方の祖父の陸軍中將を筆頭に、親戚には陸、海、空の軍人ばかりなのであった。当然、親父は陸軍幼年学校、士官学校卒の職業軍人であり、従って終戦までは私も軍人になり、お国の為に命を捧げるのだとばかり思っていた。我々の世代のほとんどの子供達がそうであった以上に、私は軍人になるべく宿命づけられていたのである。

昭和20年2月、母が病で死亡、心に穴が開いた。また、ガタルカナル、アッツ、そして硫黄島の玉砕など戦

局は著しく悪化していることを子供心に不安に感じていたが、いつか神風が吹き必ずや勝利に導くと本気で信じていた。仏壇の母の遺骨を前に手を合わせ、母が生き返ってくることを、国の勝利を必死になんて念じていたことを思い出す。

8月15日、終戦となった。米軍の進駐を前にして、師団の官舎を急いで引き払うため数人の兵隊さん達が荷造りを手伝ってくれていたが、一段落して炊き出しの握り飯を食べる「馳走様でした。これからお目にかかる事はないかと思えますが、閣下もお子様達もお元気で」と、挙手の礼で挨拶し、夕闇の中に帰っていった。急に静になった。

明かりもない仏間、空になった仏壇の母の遺影の前に、軍服のまま正座している父を見つけた。傍らに軍

刀、正面には革の拳銃のケースが置かれていた。不安になった私はそつと父の右横に忍び寄り、腕に縋りついたのである。驚いた父はすぐに私を抱きしめ「篤信か、そうだなあ、子供達がいるからなあ……」と涙をこぼした。

公職追放となった職業軍人の戦後の生活は悲惨であった。わずかな財産の切り売りであった。中学、高校、6年間の生活はほとんど思い出すことが出来ない。いや、思い出したくないのである。暗く寂しいそして不安な毎日であった。食料は乏しく、継ぎはぎだらけの学生服、すぐに穴の開く人絹の靴下。そんな敗戦国の日本にナイロンが入ってきたのである。驚きであった。石炭や石油から丈夫な繊維を作り出すことが出来るのだと知った時、「そうだ、俺は将来繊維工学というか、合成化学の専門家になろう」と密かに思っていたのである。

大学にはどのような専門科目があるのかも知らないまま入学した私は、入学式終了後、兄の同級生であつ

た先輩を訪ねると、北大にはそのような研究室が存在しないことを知らされた。そして仕送りがほとんど望めない状況を察したその先輩は、自分の所属していたサッカー部の部屋に欠員のあることを知っていて、サッカー部に入るといふ条件で、一度ははねられた恵迪寮に入寮させるべく交渉してくれたのである。野幌の親戚に極めて窮屈な思いで居候していた私には、神の恵みとさえ思えたのであった。

私が入寮した日は、鈍才会の当日であった。鈍才会が何のことなのか全く分からぬまま、赤チンで口紅を、歯磨き粉を頬に塗られ、まだらな顔で舞台上に上げられた。踊ったのか、何をしゃべったのか記憶にないが、それなりのプライドや虚飾をすべて剥ぎ取られ、この一日だけでもう皆と仲間になったような実感がしたのであった。しかし、今もって残念な事は、最初からの入寮者のようにあの強烈な宣誓式や洗礼を受けていないのである。

ボロッチイ寮舎はともかく、ス

チーム暖房はめったに蒸気が通らない代物とはいえ、極めてハイカラな存在であったが、寮の組織運営は旧時代的な慣習が支配していたようであった。また、集団生活に必要な基本的な規律とマナーが厳然とあり、それでいて深夜にストームといった若者らしい蛮行がまかり通るこの恵迪寮は、不思議な人種が集まる奇妙な館であった。そして純真な若者を泥まみれに落とし、どん底から這い上がる勇気を涵養してくれる熱い坩堝なのであったのかも知れない。敗戦により軍国主義から解き放たれた大学には、前年のイールズ事件を皮切りに社会主義の嵐が吹き始め、ぼろぼろの寮舎にも隙間風というより台風のごとく押し寄せようとしていた。しかし、この当時の寮には革命



歌は馴染まず、伝統ある寮歌がなお若者の詩情を育んでいたように思われる。

教養科では、農・工・理学部方向への英独コースを選択していたが、同じクラスに変な男がいた。馴れ馴れしく私に近づき、目玉をぎよろつかせながら八雲の農場のペコの種付け話を詩情豊かに語るのだった。そのような話にすぐ感動する私を見て、「俺も恵迪寮に入りたい。寮歌を歌いたいんだ。何とかしてくれ」と懇願するのである。幸いにも9月の部屋替えの時期に欠員があり、彼も入寮することが出来た。彼の名を高木（恵迪ポコ）と言う。それを機会にサッカー部に入ったものの、運動神経の鈍い連中を集めては数学研究部（数研）を彼と共に新設したのである。サッカー部からの体の良い脱藩である。

高木君も数学には非凡な閃きを持っていたが、その中核をなしていたのは秀才の佐久間哲郎君であった。

凡人の私は、毎日のように音痴の

高木と共に寮歌を怒鳴り、ふんどし姿で「コチャージャー、コチャージャー」とストームを掛けているうちに一年が通り過ぎた。2年目に入るやどうした訳か、恵迪十傑の「恵迪犂猛」に当選してしまい、その所為か、第146期委員会の寮務部長になってしまった。委員会では寮祭など楽しい事もあったが、インキン対策として風呂場の改築、住民票事件、集団赤痢の発生など多忙を極め、学校どころではなかつたのである。やがて学部移行の時期が来てしまった。さて、どうしたものか。何処に入ったら良いのか。高木は早くから工学部の建築か、機械に進むと決めていた。隣に寝ていた沼田は、鉄道マンであった親の薦める工学部を拒否、ダンマリ戦法で父親と対峙していた。人工繊維工学への夢を既に絶たれていた私は、農学部の農芸化学にでもと考えたが、ビールとバターじゃ面白くない。工学部は馴染めず、取りあえず理学部の化学科に行くことにした。

銀杏が黄変したある日、あの重厚

な、それでいて陰気な理学部の教室に杉野目教授の講義に出かけてみた。彼の専門であるトリカブトのアルカロイドの話である。教室に入ると、上・中・下と三段に移動できる天井から床まで黒板に化学構造式がぎっしりと書かれていた。

階段教室の隅に陣取り、訳の判らない構造式をノートに写し取ってみようとしたが、うーむ、ちよつと待てよ。もし化学に入るとなると、人生のほとんどをこうした構造式を書き連ねる事で終えてしまうことにならぬのではないかと大きな恐怖を覚えたのである。

それ以後化学教室には行かず、「俺には進むべき道がない。全く見えてこない」と綿のちぎれた布団を頭からかぶり、不安の中でうめいていた。まるで終戦直後の師団の官舎で覚えたあの絶望的な心理状態とおなじであった。

委員会を終え、寮務の部屋から数研の部屋に戻った私にある日、同室の笹谷君が語りかけた。彼は既に農経の試験に合格、余裕綽々である。

「おい中瀬、もう理学部には行かないのか？ どうするんだ」「あやあ、あの化学構造式を見ていたら、俺程度の知識では通用しないということが判ったんだ。実のところ、完全にもうろう状態なのさ：」「ふーん、何処も行くところがないのなら、医学部を受けてみたら？ ただし、受験に必要な単位さえあればの話だが：」。君は案外医者に向いてるかもしれないよ」「医者？ 医者かあ」。彼の思いがけない提案に驚いたが、「俺には無理さ。単位はあるにはあるが、ご存知のとおりほとんど勉強してないから、不可能ですよ」「いやあ、判らないよ。受けさえすれば、間違って合格することもあるし、また二、三年前に新設された札幌医大も受けてみれば、これまた間違って合格するかもしれない。もう残された道はこれしかないんじゃないか」と言った。既に主な学部・学科の選考が終わってしまった今、確かに残された道は、どう考えてもありそうもないことにその時初めて気が付いたのであった。

雪が降る季節になった。北大寮連合の「石炭寄せ」運動で大学当局との交渉が難航し、その対策に忙しく、受験勉強どころではなかった。年が明けると、すぐに試験が待ち構えていた。笹谷君が言っていた「間違つて合格する」という言葉を信じた訳ではないが、仕方なく両方の医学部を受験する事にしたのであった。もう捨て鉢状態であつたのである。

北大の方は、第一目でその結果がどうなるかはすぐに推測できた。つまり理数系の試験も正解が少なく、ドイツ語が全く白紙状態であつたのである。二日目の口答試問など行かなければ良いものを出かけたばかりに、試験管の児玉教授（解剖）には内申書を見ながら開口一番、「恵迪寮か。寮生には碌な奴がいらない」とほざかれた。むきになつて「そんなことはありません」と抗議したら「君、帰つていいよ」とすぐに部屋を追い出されてしまつたのである。

2月の初めには、札幌大の試験があるようであつた。恵迪寮の生活に

どつぷりと浸かり切つてしまつた私には、北大を去り他の大学に行く気はさらさらなく、札幌大の試験などはどうでも良かったのである。試験日の前夜は、「石炭寄せ」運動で大学本部にデモをかける相談で遅くなり、帰寮したのは午前3時頃となつていた。

「おい、中瀬、起きろ。今日は試験ではなかつたのか？」笹谷君に叩き起こされた。時計を見るともう8時を過ぎていた。8時30分集合、9時から理数系の3時間ぶつ通しの試験が開始されるのである。とても間に合いそうもない。「俺、受けるの止めよ」「馬鹿をいうな。受験料払つたんだらう。行ってこいよ。遅れて試験を受けさせて貰えなかつたら、問題用紙だけでも貰つて来い」と強制的に送り出されたのである。彼に医大に行く道筋を教えてもらい、何とか大学の受付に辿り着いたのは10時を少し過ぎた頃であつた。案の定、門前払いを食らつたが、笹谷君に入れ知恵された通りに「それでは問題用紙をくれ」と粘つていたら、「少し

待つてください」困つた顔の事務員はいなくなつた。約10分も待たされたらうか、これまた解剖の教授であり、後に医大の学長になつた渡辺教授が来られ、「時間が少なくなり駄目かもしれないが、折角だから受けてみますか」と試験場に連れて行つてくれたのである。

今度は北大より問題が易しうであつたが、あまり上出来であつたとは決して言えなくて「まあ仕方がないさ。初めからこうなる事は判つていたのだから……」と落胆はしなかつた。帰寮後、笹谷君に何とか受験させてもらえたと報告すると「何か書いたんだらう？ 答案用紙さえ書いて出せば、間違つて合格する事もあるさ……」と笑つた。

試験が終わつた後、俺は寮で何をしていたのか全く記憶にない。学部が決まつた連中は、4月からの生活の場（学寮）探しに忙しそうであつた。遅くとも3月末には恵迪寮を出なければならぬ。高木は北学寮に移ることが決まつた。ダン吉は桑園学寮になどと話を聞いても全く焦る

ということはなかった。というより学内浪人となってしまった私は、更に一年を費やして自分の人生の行方を模索するしかないと心に決めていたのである。

なあに住む所なんて何とかなるさ、いざとなったら高木の横にでも寝させてもらおうさと軽く考えていたのである。しかし、今考えてみると、これは若さの馬鹿さ加減と言うよりない。

3月初旬、暖かい雪の降った頃、寮生の一部は帰省したのか寮は静かになっていった。残っていた寮生の誰かが「おい中瀬、新聞の札幌医大の合格者発表に名前が出ていたよ」と知らせてくれたのである。びっくりした。正直なところ、あんな程度で合格かと訝った。多分一番びりけつに違いないと。そして「これは困った事になったぞ」と思った。

これまで通り高木や文利と一緒に大学にいたい。変な所に行きたくない。いざれこの恵迪寮を去るにせよ北大のキャンパスから絶対に出たくなかったのである。

3月の末、教養科の事務から連絡があった。「札幌医大から貴方が入学するのかどうか問い合わせがありました。返事をしていないのは中瀬君一人だけだそうです。どうするんですか?」。確かに入学承諾書やその他の手続きは放り投げたままであった。3日後の31日が最終締め切りですから、早く決めて、こちらにも連絡してください」。確か樺太からの引き揚げ者で、髪の毛の薄い丸顔の中年の事務員からの電話であった。どうしようか。進退窮まったのである。

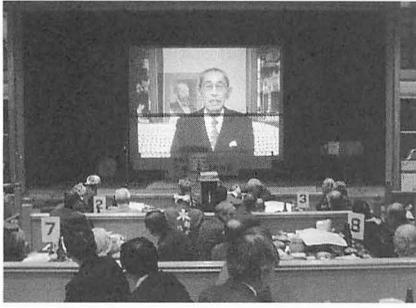
そう言えば数日前、「医者になるのも良いではないか。学内浪人だけは絶対許さない」と父親からの厳しい手紙も来ていた。しかし仲間と共に北大にいたいという強い執着心と切羽詰まった現実の中で、私の心は揺れ動いていたのである。

翌日の昼過ぎ、高木、久門、沼田と連れだつて中央食堂に何かを食べさせてもらおうと出掛けた。数日中に寮を引き払わなければならぬ。我々最後の晩餐のつもりであった。

おばさんに交渉して残り物のうどんか何かを食べさせてもらった記憶がある。つましい別れの宴であった。

帰路、工学部の横の小川の辺にさしかかり、歩を休めた。柔らかな陽光に包まれた岸辺の残雪から沢山の小さな氷柱を介して水滴がトポトポトポリとこぼれ落ち、何処に行くのか、遠い見知らぬ先に流れ去っていった。「おい中瀬、お前どうするのよ? 医大に行くのか?」鼻の頭に汗を浮かべた高木が心配そうに訊ねた。「……」返事が出来ない俺の顔を見て、久門が口を挟んだ。「中瀬だつていろいろ考えているんだ。どうするか迷っているんだ。なあそうだろう?」「うん、決めかねている。俺は、未だ何になりたいのか判らないでいるんだ。決断する決め手が見つからないと言うか……」

黙ってそんなやり取りを聞いていた沼田が語り始めた。「皆が知っている通り、鉄道マンの親父は、俺を工学部の機械に進ませ、卒業後は自分の跡を継ぎ同じ苗穂の機関区で働いて欲しいと願っていたが、俺の人生



今年の歌会始めにビデオメッセージで参加

い声で静かに語り、じつと俺の顔を見つめた。早春の優しい陽光が目刺さった

は俺が決めると拒否し続けた。君達が予想していなかったかも知れないが、理学部の数学に行く事に決めた。俺は佐久間哲郎君のように優秀ではないかも知れない。また、数学が取り立てて得意と言う訳でもないが、難しい数学を一生賭けて取り組んでみたい。人生は、長いタイムスパンの実験のようなものだと思う。結果はどうあれ、人生を賭けて取り組む事が大切ではないだろうか。俺は、数学というフィールドで自分の人生を実験してみるのさ。中瀬、お前もここまで来たからには、北大でも医大でも何処でも良いじゃないか。医学にお前の人生を賭けてみる」と低

のか、いつの間にか俺には沼田の顔がぼやけて見えるようになってしまった。翌日、私は札幌医大の入学手続きの総てを終了させたのであった。

それから50年近い年月が通り過ぎた。1998年(平成10年)9月、恵迪寮同窓会総会が札幌で開催された際、先輩・後輩と共に北大キャンパス内の旧恵迪寮舎跡を訪れた。

クラーク像に挨拶し、理学部・工学部の前の路を歩いたが、私の将来の分岐点となった工学部横のあの小川は見当たらず、見知らぬ建物が建ち並び、周囲の状況は当時とすっかり変わっていた。ただ、寮の裏の原始林はその面影を残しており、雑然と茂る灌木の間から高く聳え立つのは榦や柏の太木は、50年の歳月を経ても昔のままのようだが、その樹皮の荒々しい割れ目は、戦中、戦後の年月に耐え抜いた人生の深い苦悩の皺のように思えるのであった。

ここに俺たちの揺籃・恵迪寮が在ったのか、そして文利やギョー、

ダン吉や村長、笹谷や沼田、そして多くの愛すべき仲間達がいたなあと、あまりの懐かしさに胸が熱くなるのであった。

旧寮舎跡は思いの外狭く、今は野球場になっており、危険防止のためか周囲を高い金網で囲ってあった。その西側の一部に誰が植えたのか、緑の蔓状の植物が空高く巻き付いていた。後輩の一人が一枝を手折ってくれた。見ると緑の小さな松ぼっくり様の実が付いており、それは紛れもなくホップであった。青春のほろ苦さと青臭さがそこに在った。その実を手掌に握り締め、しばらくは凝然と立ち尽くしていた。

(札幌市南区)

#### 編集委員会から

この原稿は、2001年発行の昭和26年入寮50周年記念文集「楡影揺らめく」に掲載されたものです。中瀬前同窓会会長は現在、病氣療養中です。旧制から新制へ移行する頃の恵迪寮の様子や寮生の友情を清冽に描いた「俺の恵迪寮」を再掲載し、一日も早い回復をお祈りします。

## 「花繚乱の」

(昭和32年寮歌)

## 寮歌 「花繚乱の」 作者独白

作歌・作曲 前島一淑

(S31年入寮)

## 作詩、作曲の経緯と反省

幸運なことに、私が応募した「花繚乱の」の詩とさらに曲までもが、昭和32年度寮歌として選ばれ、いまでも寮生に歌われることがあるらしい。この寮歌については、東京エルム会寮歌委員会刊行「都ぞ弥生」(昭和49年刊)と、昭和31年恵迪寮入寮50年誌「わが青春の恵迪寮」(平成18年刊)に、「花繚乱の」および「花繚乱の夢と回想と悔恨」と題して、多少シニカルな心情を込めつつ書いたもので、もはや付け足すことはほとんどない。これらの刊行物は一般に入手困難と思われるから、その内容をごく手短かになぞっておく。

北大と恵迪寮に憧れて北海道に来た私が、ある春の日に寮裏手の原始林で挙行されたファイヤーストームの情景を素直に3行×5節の詩としたもので、「都ぞ弥生」や「時潮

の波の”に比すべくもない幼稚な作品である。曲も、恵迪寮をふくむ全国の旧制高校の寮歌や校歌を参考にしつつ纏めた素朴なメロディである。それがかえって歌いやすく、寮生に口ずさまれている理由と私は理解している。

かようにレベルの低い寮歌ではあるが、それでも私には愛着があり、読み返し、歌い返してみると、いくつかの錯誤や不適切箇所が散見される。昭和31年入寮記念誌では、具体的にそれらを挙げておいたが、そのように直すことを望んでいるわけではない。

## 春雨に濡る

会誌「恵迪」第8号(平成20年刊)に、木村咲哉さんが「寮歌『春雨に濡るる』考」を寄せておられる。昭和51年版寮歌集以降、大正12年度寮歌の題名と最初の一句が、根拠も示さずに「春雨に濡る(濡るる↓濡る)」に改められているが、多くの状況から「春雨に滞るる」が正しいというご意見である。木村さんの指摘は、ひとつひとつが緻密で脱得力に富むものであるけれども、昭和32年寮歌の作詩者として「春雨に濡る」が妥当だと思ふ。

昭和31年の入寮時に頂いた寮歌集は「春雨に濡るる」となっていて、それに私は多少の違和感を覚えた記憶がある。

一言でいうと「春雨に濡るる」では字余りである。この詩は七五調で書かれている。古い時代の寮歌は、七五、五七や四六、八七調等々の形式を厳格に守っている例が多い。

詩を作る者にとって、最初の一句または一行はもつとも神経を使うところで、推敲回数も多い個所である。出始めが順調ならば、詩は出来上がったも同然である。もし、作者の高橋北雄さんが、「春雨に濡るるアカシヤ（シヤはシヤで一音）花」と8文字で書いたならば、次の「街路（とほり）の灯（ともし）はなやかに」も、例えば「ともしび」と読ませて8文字とし、2番第1句「夏の入陽に」も例えば「真夏（まなつ）の」と8文字にしたのではないだろうか（非才でエレガントな詩句例が浮かばない）。

ただし、この寮歌をお前はどのように歌っているかと問われると、じつは「春雨に濡るる」である。入寮間もない寮歌指導でそう聞いて、そのまま記憶にインプットしてある。作曲者の西田貫道さんが、7字でも8字でもよいように融通無碍な譜面としたのかもしれない。

（注）恵迪寮窓会東日本支部刊行の「春雨に濡るる」生誕80年（平成15年）という小冊子で、この詩の冒頭部分が「字余り」とした石川舜さんの一文を投稿後に見付けました。また、大正14年寮歌「弊れし衣」の最初が8文字であるとの指摘が出るかもしれませんが、ここでは何れも必要な「字余り」と私は考えています。

## 寮にこそ著作権

この他にも、作者の意図を狂げている、これはあきらかに誤りだ、譜面どおりに歌われていない等々、さまざまな論議が寮歌について繰り返されている。例えば、昭和11年寮歌「嗚呼茫茫の」のまえに置かれた楡陵謳春賦が「都ぞ弥生」の前口上に使われ、作詩者の穴戸昌夫さんから激しい異議が出されている。私はこう考える。この作品だけではないが、多くの先人が「都ぞ弥生」を越えようと苦心に苦心を重ねており、楡陵謳春賦と一体化した「嗚呼茫茫の」は、それに成功した例と私は思う。作詩者がその苦労と意図を踏みにじられたと感じるのは当然であろう。これは詩的センスの問題である。

寮歌の著作権について考えることがある。佐藤春夫が「酒、歌、煙草、また女」を昭和3年に「三田文学」に発表したときの「（三田に）三年がほどは通ひしが」を、晩年の全集では作者自身が「六年」と直している。「三田文学」編集長の加藤宗哉さんによると、文芸の世界では初出（プライオリティ）にあまり拘わらず、著者が最後に手を入れたものを確定稿とすることが通例らしい。ただし、出版元の慶応義塾は、「三田文学」初出の「三年」を尊重しているようである。

音楽には別の慣習があるかもしれない。それはそれとして、譜面とは基本設計図みたいなもので、非常識な逸脱さえなければ、それに基づいて演奏者や歌唱者が自由にアレンジできると私は理解している。寮生がそれぞれの感性で

寮歌を歌い、奏であることを制約すべきでない。寮生が『花繚乱の』をどのように編曲しようと、私は気にしない。

私が入寮時に渡された寮歌集には「著作権は恵迪寮にある」とあったが、現在の寮歌集には書かれていない。おそらく法律的に誤りとして削除されたのであろう。しかし、恵迪寮ではそれを押し通してよいのではないだろうか。寮歌に選ばれた栄誉だけで十分である。ほかの寮歌作者の多くも私と同じ意見であろう。

結論を記す。寮歌について百家鳴争、百花放育はそれなりに意味があるが、決定稿だの原曲だの正調だのという論議に私は与したくない。これまでに私が書いた『花繚乱の』に関する文章を無視して、昭和32年に選ばれた当時の作品が私の完全稿とみなして頂きたい。(横浜市青葉区)

## 花繚乱の

(昭和三十二年寮歌)

前島一淑君 作歌

一

花繚乱の夢に酔い

三

窓辺に招く幻の

五

静寂甕りぬ春の宵

地の囁きの音に伏せば

影にあくがれ彷徨えば

銀漢の下希望なる

草湫々の声すなり

森に桂の火は燃えぬ

支笏の湖に星は飛ぶ

二

夜光流るる芝草や

四

今紅の篝火よ

辛夷の花の香に迷う

裸形の友は肩組みて

遠き憶れ逝にし日よ

去り行く青春を惜しむかな

## 花繚乱の

前島一淑君作曲

♩ = 88

は な り う ら ん の ゆ め に よ い、

ち の さ さ や き の ね に ふ せ ば、

く さ し ゅ う し ゅ う の こ え す な り。

寮歌物語

番外編



佐藤春夫「酒、歌、煙草、また女」の曲

— 曲の成立、恵迪寮への伝承・大流行、そして三田への回帰 —

酒、歌、煙草、また女

三田の學生時代を唄へる歌

ヴィッカスホールの玄關に  
咲きまつはつた凌霄花  
感傷的でよかつたが  
今も枯れずに残りや

秋はさやかに晴れわたる  
品川灣の海のはて  
自分自身は木柵に  
よりかかりつつ眺めたが

ひとと銀杏葉は枯れて  
庭を埋めて散りしけば  
冬の試験も近づきぬ  
一句も解けずフランス語

若き二十のころなれや  
三年がほどはかよひしも  
酒、歌、煙草、また女  
外に學びしこともなし

孤蝶、秋骨、はた蕪  
荷風が顔を見ることが  
やがて我等をはげまして  
よき教へともなりしのみ

我等を指してなげきたる  
人を後目に見おろして  
新しき世の星なりと  
おもひ驕れるわれなりき

若き二十は夢にして  
四十路に近く身はなりぬ  
人間ふままにこたへつつ  
三田の時代を慕ふかな



岩波文庫 昭和48年刊第33刷より

昔々「酒、歌、煙草、また女」  
という歌が寮で流行っていました

前島 一叔  
(S31年入寮)

三田で発芽 倉敷で発酵、そして北へ

100年を超す恵迪寮の歴史の中の僅か10年に満たない短い間でしたけれども、昭和20年代末期から昭和30年代前半にかけて、小説家・詩人の佐藤春夫が慶応義塾大学に学んだ時代を想起して昭和3年に発表した詩「酒、歌、煙草、また女―三田の学生時代を唄える歌」が、恵迪寮で大流行しました。大流行とは、当時の在寮生のほとんどが、つまり時代錯誤とか保守反動として寮歌に馴染めなかった人々を含めて、コンパなどで声を揃えて合唱し、半世紀後の現在でも口ずさむことができるほどと言う意味です。

作曲は昭和29年です。作曲者は、当時の慶応義塾大学文学部一年生の出原弘之さん、編曲者は、横浜市立大学商学部1年生の仁科喜佐男さん、北大恵迪寮に伝えたのは同年入寮の荒木武夫さん(寮関係者については以下敬称略)で、3人は倉敷青陵高校を昭和29年に卒業した柔道部仲間です。

この歌は、荒木によって少しずつ寮内に広がっていたと思われませんが、恵迪寮で大流行させたのは、翌年の昭和30年に入寮した酒井誠一郎です。私がここに行き着くまでに

多くの寮OBの協力を頂きましたが、特に同期生の桜庭慎吾と岩船修(S31入寮)の名前を挙げておきます。

メロディーは三田で誕生し、倉敷を経て札幌に伝わり、ふたたび三田の慶大に戻りました。その経過は、私が「三田文学」97号(平成21年春季号)に小文を書きましたが、十分に意を尽くしたとはいえないので、作曲の事情から寮伝達の経緯を荒木に、大流行させた酒井には回想や感慨を、音楽的な考察は金武彦(S37入寮、北大合唱団OB会員)に、本誌への寄稿をお願いしました。

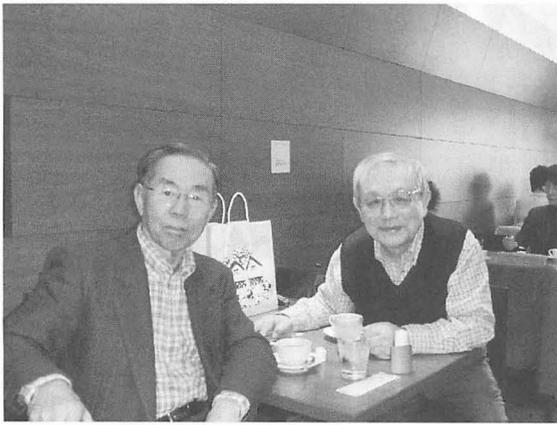
「酒、歌、煙草、また女」の歌を第二寮歌の如く愛唱した世代の私達にとつて残念なことに、この曲は昭和34、35年頃から急に歌われなくなりました。なお、昭和29年の作曲ですから、それ以前の世代の先輩が知らなくて当然です。関連するいくつかの資料とともに、この歌が寮で絶えたらしいという情報を最初に教えてくれたのは石川舜(S32入寮)です。

消えたメロディーを追って

途絶の時期について、この原稿を書くにあたり、個人的

な交流がある数人に、私も直接質してみました。少し煩わしいですけども、結果を記します。松山哲三(S33入寮)、佐久間利夫(S35入寮)はよく覚えていて、この歌を直ちに歌うことができました。ところが、山野秀二(S34入寮)、岩井法(S36入寮)、前出の金と藤田正一(S38入寮)からは、私が音痴のせいとか、歌って聞かせましたが、記憶にないといえます。藤田などは、「応援団長の俺が知らないのだから、その歌は『もぐりだ』』と言いつちました。

しかし、金からは昭和37年同期入寮者(ポト部)が、この歌を知っていたと聞いています。これも直接に訊ねたわけではありませんけれども、彼の兄上の金敏彦(S34入寮)は知らなかったようです。さらに書き添えますと、前出の佐久間は剣道部で、全国大会時の懇親会で他大学生の前で



幻のメロディーのルーツ探しをする荒木(左)と前島

歌った記憶がある由ですが、そこから全国に広まった可能性はなさそうです。「三田文学」には、昭和49年入寮者に記憶している者がいて、寮でほそぼそと受け継がれていただろうと書きました。最近、当人に手紙で再度質問したところ、「改めて確認を求められると自信がなく

なった(知らなかったかもしれない)。また、応援団の寮同期生は記憶にないと言っている」との返書でした。

この歌が昭和30年代中頃に寮で突然に消えたとは、私にはとうてい信じられません。昭和49年入寮者を含めて、どこかでだれかが伝えていたと未練がましく想像していません。鍋の中の豆の煮え具合は、全部食べなければ判らないという論法からすれば、寮OB全員に質さなくてはなりません。また、知らないと言った方々も、じつは忘却の彼方だったかもしれません。でも、この問題のこれ以上の追求は、詮ないでしょうから、もう止めることにします。

ところが、「酒、歌、煙草、また女」の歌が寮から消え去ったか否かを別として、思いもかけないことに、おそらく寮出身者によって東京のある居酒屋に広がり、その居酒屋の常連から、慶応義塾の文芸誌「三田文学」の加藤宗裕編集長の耳に届きました。時期は平成16年です。半世紀を経たにもかかわらず、ほぼ原曲に近いメロディーのままでした。理由は不明ながら、作曲者の出原さんは、この歌を慶大の学生には教えていません。加藤編集長も「塾に広がってはいなかったらしい」といいます。私も慶大医学部に30年ちかく在籍し、機会あるごとにこの歌について訊ねましたが、慶応関係者はだれも知りませんでした。しかし、三田で生まれたメロディーが、北大恵迪寮を経由して作曲者の母校に戻ったことは間違いないでしょう。

このことを伝え聞いた出原さん(平成17年急逝)は、大好きな佐藤春夫の詩につけたメロディーが、母校に届いたことを大変に喜んだ由です。編曲者の仁科さんも、北大で

歌われていたことに驚き、感謝していると聞いています。

この歌を東京の居酒屋で流行らせた方も、その居酒屋も、そして加藤編集長に伝えた居酒屋の常連（六大学出身者らしい）も、氏名、名称ともに不詳です。一体だれだったのでしょうか。東京の居酒屋に広めた人は、昭和30年代に北大か札医大（当時は北大医進課程から札医大に進学可能）を卒業し、東京かその近郊に居を構えた寮OBで、きつと飲ん兵衛でしょう。その方は、どこのどなたですか。だれか知りませんか、情報を待っています。

佐藤春夫の「酒、歌、煙草、また女」は、いまの世ならば、あきらかに「セクハラ詩」です。もし彼が、未来から過去である現代の学生生活を偲んだならば、煙草でなくて大麻と書いたかもしれません。女でなくギャルとしたかもしれません。場面がハイデルベルクならばビールでしょう。

その一

甦る青春「酒、歌、煙草また女」の歌

プロローグ

詩人 佐藤春夫の「酒、歌、煙草また女」に私の友人が作曲したのを覚えて自分の愛唱歌とし、恵迪寮で歌って伝えたのは、昭和29年（1954）のことである。

歌はロックが相応しいですね。

不惑に近い佐藤春夫が唄った、明治末期から大正初期の三田の学生時代に共感を覚えた当時の恵迪寮生たちの年齢は、孔子の行年の前後になりました。多くの「元若者」は、いまは茫茫たる往時をひたすら懐古する日々と思います。半世紀昔の回顧文にそろそろ終止符を打ち、私の好きな寮歌（昭和22年度）を掲げて拙文を締め括ります。

暁の渚離りて

ふるきもの光なきもの

底ひなき海に抛（ほう）れば

いささけき水輪が呼ばふ

想い出の古にし仕草に

告ぐるなりいたき別れを

（横浜市青葉区）

荒木 武夫

（S29年入寮）

この歌がその後数年間、恵迪寮で歌い継がれ、当時の恵迪寮生やそのOBの間で、恵迪寮寮歌に次いで愛唱されていたことは、まったく知らなかったが、めぐりめぐって、今年5月、慶応大学の文芸誌「三田文学」に、前島一淑君の「随想 佐藤春夫『酒、歌、煙草また女』の歌―三田、

倉敷、札幌、そしてふたたび三田」として掲載され、楽譜を伴って世に出たのである。

私が恵迪寮に伝えてから、実に55年振りのことである。これに至る経緯は、前文にある前島君の報告にある通りであるが、私にとつては、自分の青春が半世紀ぶりに蘇ったような出来事であり、この機会に、この歌が作曲され、それを私が北大恵迪寮に伝え、楽譜を復元するまでの経緯を記しておくこととした。

## 二つの発端

もう、4年も前になるが、平成17年2月、昭和30年に恵迪寮で同室していた酒井誠一郎君から突然電話があった。電話の内容は、私から教わった佐藤春夫の「酒、歌、煙草また女」の歌が、その後、恵迪寮で歌い継がれており、先日、札幌の寮歌祭において飛び入りで歌ったところ、次々と演台にあがって唱和してくれた人が20人ばかりもいた。このように、恵迪寮OBの間では寮歌に次ぐほど歌われているのだが、この曲の作曲者は誰なのだろうかと聞かれたので、私の友人の荒木さんが知っているかと告げた、という内容であった。

その後、3月になって前島君から電話があり、酒井君から紹介されたことを前置きして、この歌の作曲者を教えてくれないかと聞かれた。

そこで、この歌の関係者は、昭和29年倉敷青陵高校を卒業した柔道部仲間、原曲を作曲したのは出原弘之君、編

曲したのは仁科喜佐男君、恵迪寮へ伝えたのは私で、7連の詩のうち、1、2、3及び7番を出原君の原曲(楽譜―1)で、4、5、6番を仁科の編曲(楽譜―2)で歌って伝えたものだと回答したのが、この発端である。

## 作曲と編曲の経緯

私たちが倉敷青陵高校へ入学したのは昭和26年であり、第2次世界大戦終了後、新しく編成された新制高校の5期生である。当時はまだ、旧制の名残が色濃く残っており、青陵高校柔道部の連中は、みんな旧制高校のナンバーズクルール(旧制高校のうち明治期に創設された第一高校から第八高校までを言う。)へのあこがれを持ち、第一高校の「あま玉杯に花うけて」をはじめとして、第三高校の「逍遙の歌(紅萌ゆる丘の花)」、北大予科の「都ぞ弥生」など、ことあるごとに旧制高校の寮歌をみんなで愛唱していた。

そのような中で、自分たちの歌もつくりうではないかとの機運が高まり、数編の歌が作られたが、中でも仁科君が作詞作曲した「桜花爛漫」は、正式の校歌以上に愛唱され、現在でも、この歌を愛唱しているものが多い。彼の作詞作曲の才能は抜群であったといえよう。

この歌を作曲した出原君、編曲した仁科君は、いずれも佐藤春夫の詩集の熱烈なファンで、仁科君の回想によれば、慶応ボーイとなった出原、横浜市立大に進学した仁科両君とも、週末には2人でよく銀座へ出かけ文学青年を気取って佐藤春夫の気分で闊歩したそうであるが、その頃、出原

君がこの詩に節をつけて歌いだしたそうである。仁科君はその歌の後半部分がどうしっくりこないといって、即興でそれを編曲したとのことである。

この歌が、単調で覚えやすく、どこか寮歌の雰囲気を持っているのは、柔道部で歌われていた旧制高校の寮歌の影響があるのではないかと、私なりに今にして思っている。

北大に進学した昭和29年の夏休みに郷里の倉敷に帰省した私は、これまた、佐藤春夫の純情詩集の大ファン（当時の「恵迪」復刊第3号には、私の愛読書は佐藤春夫詩集と記載されている）であったので、同期卒業のみんなとのコンパや会合で、出原や仁科からこの歌を聞いて感銘を受け、すぐに覚えたようである。

恵迪寮へ伝えた経緯

その年の9月、恵迪寮へ戻った私は、夏休みに覚えばかりのこの歌を愛唱歌として、柔道部の部屋や、友人たちとのコンパの席で盛んに歌った。その際、出原君の原曲と仁科君の編曲のどちらにも愛着があったので、1、2、3番と7番を、静かな感じの原曲で歌い、4、5、6番を高揚感のある仁科の編曲で歌うこととした。いつからこのような組み合わせで歌いだしたかは定かでないが、ともかく私が歌うときはすべてこの組み合わせで歌ったものである。

この組み合わせは、年齢、古希を過ぎた今でも、歌詞にぴったりのよい選択だったと思っている。ちなみに、どちらか一方の曲で歌ってみると、その違いがよくわかるであろう。

酒、歌、煙草、また女  
(1, 2, 3, 7番)

作詞：佐藤 春夫  
作曲：佐藤 春夫

ヴィツカスホールのまかに  
咲きまつわった凌霄花 感傷的でよかつたが  
今も枯れずに残れりや

酒、歌、煙草、また女  
(4, 5, 6番)

作詞：佐藤 春夫  
作曲：佐藤 春夫

昔をしのびつつ静かな出原君の原曲で歌いだし、中  
ほどの高揚感のある歌詞の箇所（4番、5番、6番）では、  
仁科君の編曲で、若き二十のころなれや  
三年がほどはかよひしも  
酒、歌、煙草、また女  
外に学びしこともなし

ヴィツカスホールの玄関に  
咲きまつわった凌霄花  
感傷的でよかつたが  
今も枯れずに残れりや

と昔をしのびつつ静かな出原君の原曲で歌いだし、中ほどの高揚感のある歌詞の箇所（4番、5番、6番）では、仁科君の編曲で

若き二十のころなれや  
三年がほどはかよひしも  
酒、歌、煙草、また女  
外に学びしこともなし

などと、高らかに歌い上げ、最後の7番では、ふたたび出原君の原曲で静かに

若き二十は夢にして

四十路に近く身はなりぬ

人間ふままにこたえつつ

三田の時代を慕ふかな

と締めくくる。

佐藤春夫の作詞の意図にびったりと曲が合っていると私は思うのだがどうであらうか。

いずれにしても、このようにして、この歌は、恵迪寮へ伝わったが、そこで、爆発的に広がり、寮歌に匹敵するくらい寮生に愛唱されたことは、今回、酒井君から知らされるまで全く知らなかった。

前島君によれば、爆発的に広がったのは、私が寮を出た後の全寮コンパの席上で酒井君が持ち前のバリトンの美声で歌ったのがきっかけだったとのことである。彼の美声には、同室していた当時から聞き惚れており、毎晩聞かされたシューベルトの「魔王」などは、今でも覚えており「風の夜に馬を駆り：」と最後まで歌い上げることができくらしい。彼の美声で広まったむべなるかなというのが私の感想である。

### 歌い継がれてきたメロディー

この歌は、もともと楽譜がなく、口から口へ歌い継がれてきたものであり、出原君の原曲、仁科君の編曲の通りに伝わってきたかどうかは、保証の限りではない。

しかし、今回の話が出る半年前の平成16年9月、珍しく

も出原君が倉敷に帰ってきた際、（私が彼に会うのは大学卒業以来始めて、従って46年ぶりであった）仁科君外数人の友人と歓迎会を催した席で、こういうメロディーだったなと確認しながら歌ったので、ほぼ、正確に伝えられてきているものと考えている。

また、私の中では、恵迪寮を出た後も、家の中で興ずるままに歌い続けてきており、愚妻などは正確に歌うことができるし、子供たちも、親父が一杯飲んで帰ってくると、風呂の中で「都ぞ弥生」ともによく歌っていたのを覚えているそうである。私のなかでは、半世紀の間一貫して変わらずに歌い継いできたメロディーである。

平成17年5月には、作曲の経緯を前島君に知らせるため、改めて私の歌をCDにして、出原、仁科両君に聞いてもらったところ、出原君の原曲、仁科君の編曲と微妙な違いはあるけれど、まずまず、こんなものだったと再度確認しあつた。二人とも、人から人への伝承だから多少のバリエーションはあつてもいいとのことであつた。

私が繰り返し歌っているうちに、自分なりに歌いやすくして歌ったことはあるかもしれないし、前島君が、前述の随想の中で、「彼らが何回も口ずさんでいる間に『発酵』して現在の曲に行き着いた。つまり、倉敷トリオの合作とすることもひとつの見方かも知れない」と述べているのは妥当といえるかもしれない。



## 作曲、編曲者、恵迪寮への伝達者の紹介

以上が、この歌の作曲、編曲、恵迪寮への伝承、楽譜作成の経緯であるが、ここで、これら、作曲者、編曲者、恵迪寮への伝達者を簡単に紹介しておく。

原曲を作曲した出原君は私の幼友達である。倉敷市の駅前、500メートルくらいのところ、2人の実家があり、幼稚園から小学校、中学校、高校と全く同じ道を歩み、お互いに家同士の付き合いもあり、親しくしていた。高校では、同じ柔道部に属して切磋琢磨し、大学受験時には深夜の町を眠気を覚ますため2人で高下駄を履いて闊歩し、近くの鶴形山の頂上に登って寮歌を歌ったものである。

慶応大学卒業後の彼は、新聞社を経て、東海テレビの有名なドラマ・プロデューサーとなり、「華の嵐」など数々のドラマをプロデュースした。

今回の案件では、平成17年3月と5月に、私が北大に伝えた歌と関係資料を送って感想を聞いたところ、母校にいい記念碑が建つたと大変な喜びようであった。

その当時、すでに悪性腫瘍で入退院を繰り返していたが、その年の9月に永眠されたとの連絡を妹さんから受けた。平成16年9月に46年ぶりに再会してから、わずか1年である。ご冥福を祈るとともに、生前にこの話を伝えることができたことで、せめてもの餞となったと、私なりに考えている。合掌。

仁科君は、実家が私の住んでいた倉敷市の中心部からは遠い水島にあり、知り合ったのは青陵高校へ入ってからで

あるが、同じ柔道部であったこともあり、なぜか不思議に気が合い、今に至るまで続いている高校時代最大の親友である。

文学青年であり、ロマンチストだった彼は、詩を書き、歌を作るのが得意であった。高校在学中には、彼が作詞作曲した歌「桜花爛漫」が、生徒間で校歌以上に愛唱され、私たちの同期会では、今日でも青陵校歌（寮歌といえないので校歌）と称して、校歌とともに歌われているのは、前述のとおりである。

また、恵迪寮2年目の昭和30年6月には、彼と2人で10日間にわたり、旭川から釧路、襟裳岬、洞爺湖温泉など北海道の無銭旅行をした。行く先々で一杯飲んで、いろいろな寮歌とともにこの歌を歌って楽しんだものも懐かしい思い出である。

横浜市立大学卒業後は、実家の仁科百貨店の経営に携った後、現在は、仁科船舶商会の社長として、海外からの食料品の輸入に勢力をつぎ込んでいる。

今回の案件では、関連資料は、常に彼とともに検討し、前島君に資料を提供した。「自分が編曲した歌が、北大恵迪寮で広まっていたことを始めて知ったが、今回、慶応大学の『三田文学』や北大恵迪寮誌『恵迪』に楽譜までが残るということは大変名誉なことだ。これを北大に伝えてくれた荒木に感謝する。また、作成以来55年も経過しているのに、ほとんど正確に伝わっていること自体が驚きであり大変なことだ。」との感想を漏らしている。彼にとってもいい記念碑ができたというべきであろう。

さて、私だが、北大農学部林学科を卒業後、林野庁に3年間勤め、民有林や国有林の行政に携った後退職、倉敷市に在住し、岡山県の第3セクターに11年間勤務して現役を引退。その後は、パソコンの講師やボランティア、登山(日本百名山に挑戦中)、ゴルフなどを趣味として日々を過ごし健在である。仁科君とは、彼が会長を務める青陵ゴルフ会コンペで腕を競い合うのを楽しみにしている。

### エピソード

佐藤春夫が三田時代を偲んで書いた詩「酒、歌、煙草、また女」詩に私の友人が作曲、編曲し、それを組み合わせて私の愛唱歌として、北大恵迪寮へ伝えたのが、昭和29年のことであった。その歌が前島君の努力によって、今年、実に半世紀ぶりに楽譜を伴って慶応大学の「三田文学」に公表された。

### その三

## 電話で吹き込んだ春夫の歌

〜甦る50年前の想い

佐藤春夫という偉大な詩人のお陰で今回、図らずも50余年前の恵迪寮時代に、自分がどんなことをしたかを鮮明に思い出させてもらった。

私としては、北大恵迪寮へ伝えたのみで、その後、この歌がこのような数奇の運命を辿るとは夢想だにしていなかった。晴天の霹靂のように驚き、しかし、感動した。たまたま、数年前に北海道開拓の村を訪れた際、旧恵迪寮の落書きの部屋で私が書いた落書きが展示されていたのを発見した。そこには、昭和30年度後期住人(柔道部)として、私の名前と酒井君ほか2名の名前が明記されているが、奇しくも、この歌を恵迪寮へ伝達した者とそれを寮内で広めた者が連記されていることになる。なにか、運命的なものを感じているが、今回、この寄稿で、この歌の生まれ育った経緯が、寮誌「恵迪」に楽譜とともに掲載されることにより、この落書きの部屋の名前と同様、この歌が後世に歌い継がれることになれば、望外の幸せである。

(岡山県倉敷市)

酒井誠一郎

(S30年入寮)

「酒、歌、煙草、また女」についての前島一淑君の詳細な報告にある通り、この歌が「準寮歌」並に多くの寮生に歌われた成り行きに、間違いなく私も一役買っていたように

思う。しかしそのことは、随分長い間、私の脳裏から消えていた。桜庭慎吾君、岩船修君を先導役にして、前島君、金武彦君の綿密な調査と推理が、この名歌の誕生・変遷と、やや数奇な宿命を余すところなく掘り出した。その過程を記した「三田文学」97号の前島君の随想は、名歌を固定し、ある意味では歴史に刻印した点で貴重である。この先、私が脳裏から追いつくことは決してない、と確信している。

恵迪寮の一員になった昭和30年は、保守、革新の政治勢力がそれぞれ合同し、「自民党」「社会党」を軸とするいわゆる「55年体制」がスタートした年である。ノンポリだった私は、そういう節目を殆ど意識せず、柔道（実に弱かった！）とロシア文学、そして自由の極地のような寮生活の醍醐味に浸り切っていた。同室の荒木武夫さんから口伝で「酒、歌、煙草、また女」を教わり、たちまち、そのデカダンスと反骨、若干の甘美な気配のとりこになった。

寮生が大いに楽しみにしていた年に3、4回の全寮コンパで、ある時、台の上に立って歌わせてもらった。

荒木さんと交流があった寮生は知っていたかもしれないが、大多数にとっては初めて聴く詩でありメロディーだったはずだ。それでもコンパの場は、この歌への共感で満たされた、と実感できた。反応の熱い息吹きと言えは良いのか、とにかく、皆がやたらに高揚した一瞬だったと記憶している。

その時以降は、コンパの度に「やれ！ やれ！」と煽てられ、「若き二十歳の頃なれやー」と歌い続けた。

この歌を披露する前は、「箱根八里」とかシューベルトの

「魔王」（ゲーテ詩）などを我流で歌っていたが、これらもうお呼びではなくなった。

数学のテストでそれこそ「一題も解けず」（佐藤春夫は「一句も解けずフランス語」と詠ったが……）、問題用紙に「魔王」をドイツ語原文で全て書き記し、何と61点の合格点をせしめた私としては、寛容な小林助教授（当時）への感謝の念も込め、再度「魔王」を歌いたかった、と今でも思っている。しかしもう、一節すらまともに歌えない。

全寮コンパといえば、わが脳内では常にトンカツがついて回る。時折の夕食に出されたカツはいつも「鯨（げい）カツ」だった。薄くて硬いクジラの肉も貴重なタンパク源であり、決して不味くはなかった。それが、コンパの時はトンカツに変わる。厚みはそうなかったが、滅多に口に入らないご時世ゆえ、実に美味かった。コンパは、正調の「都ぞ弥生」であり、ビールとトンカツであり、「酒、歌、煙草、また女」の世界だった。

もつとも日常的な寮生活は歌の優雅さにはほど遠く、アルバイトと農場へのアタック、焼酎、そして「いろり」のラーメンであった。



恵迪寮に伝えた荒木とバリトンの美声で歌った酒井の名前が残る落書（開拓の村 旧恵迪寮史料展示室）

いろいろの主人・大関さんがつくる脂濃いラーメンのニンニクが利いた旨さは、まだ舌の記憶にしつかりと残っている。が、「また女」には全く縁遠かった。昭和30年〜31年の2年間の光芒とは一体何だったのか、果たして我が身にまつわった本当の現実だったのか、の問いには、今はもう答えを出す意欲すらない。半世紀の重みであろうか。

2008年の春ごろから始まった（と記憶している）

「酒、歌、……」のメロディーのルーツ探しは、秋に入つて急ピッチになり、前島、金両君との接触や荒木さんとの電話でのつながりが増えた。私の歌い方と、荒木さんの流儀（これが作曲者、編曲者との親交で最も正確なもの）との間に、微妙な差があるようで、前島、金両君はいろいろ苦心しておられた。

私は、三氏に対して電話口で3回にわたり、7番全てを歌った。電話で歌を吹き込むというのは勿論、初めての体験であり、私がモゾモゾと歌うのを横で聴いたカミさんは「珍しい人々だ」と笑い転げた。そして時に「ヴァッカスホルの〜」と調子外れに真似して歌い、「ね、こうでしょ？」と同意を求めた。同意は容易にできなかった。

社会に出てから私は、この歌を職場の同僚らの前で歌ったことはない。詩と曲が持つ雰囲気は、もしかしたら、あの時代のあの年齢の者にしか理解されないのでは、という

思い込みがあった。恵迪寮で共有した澄明なエキスを、他の場面に移し替えるなど、到底無理だとも思ってきた。ただし、寮OBの集まりでは時に歌わせてもらった。そして、たいてい涙した。次回はいつ、歌う機会があるか分からないが、7番までしつかり歌いたいと願っている。前島君、金君、本当にご苦労さまでした。ありがとう。

### 追記

「恵迪」第6号（2006年）に厚谷純吉君（昭和30年入寮）が「昭和三十年入寮五十周年記念同期会報告」を寄せている。平成17年11月8日、東京KKRホテルに38人が集まったこの会で、「酒、歌、煙草、また女」にまつわる前島君の調査の一文が、私から全員に配られた、とある。汗顔の至りだが、私はこれをすっかり忘れていた。厚谷報告を今回読んで思い出した。確かその前に、前島君から送られてきた文章を札幌でコピーし、東京へ持参した覚えがある。この文の中には、恵迪寮へは荒木さんが「伝え」、酒井が「広めた」と記されている。そうすると、前島君のルーツ探査は大分前から始まっていた訳で、恐らく平成17、18年ごろではないかと思う。北大―慶応（三田）とのつながりの中に生きた前島君の、詩と音楽への素養と彩りが、今回の成果につながった。改めて拍手を贈りたい。

（札幌市清田区）

## 青春讃歌の音楽的側面

金 武彦

(S37年入寮)

4番 「若き二十のころなれや 三年がほどはかよひしも 酒、歌、煙草、また女 外に学びしこともなし」

昨年11月末、昭和32年寮歌「花綾乱の」を作詞・作曲された前島一淑先輩から、「酒、歌、煙草、また女」を唄ったことはあるかとお手紙を頂戴した。恵迪寮時代はユーゲント・コール、恵迪寮、楡影寮を通じて北大合唱団に属し、数多くの歌を唄ってきたつもりでいたが記憶になかった。先輩、同期に尋ねてみると、数名が「あゝあの歌ね」とすぐさま唄い、忘れ得ぬ青春の一曲となっているかのようにだ。

### 詞について

1、佐藤春夫の詩、「酒、歌、煙草、また女」(三田の学生時代を唄へる歌)は、七五調・四行詩・七連で、昭和3年1月1日発行の、『三田文学』(第3巻第1号)に掲載された。

2、「佐藤春夫詩集」(昭和40年初版、白凰社刊)では「凌霄花」のルビを「のうぜんか」、「人を後目に」を「人を尻目に」と記している。

3、四連の承、「三年がほどはかよひしも」は、『作歌の

自伝』佐藤春夫(日本図書センター)では、自ら「五年」と記し、『日本の文学』佐藤春夫(中央公論社)および前出「佐藤春夫詩集」では、「六年」となっている。

春夫は、大正2年、慶応義塾予科を在学5年8か月で中途退学した。

4、「ヴィッカス・ホール」とは、理財科(後の経済学部)2代目主任教授ヴィッカース(Vickers, Enoch Howard)のため三田構内に用意した木造2階建て洋館を、文科校舎としたもの。

5、時の文科は、花形作家永井荷風が主任教授となり、小山内薫、馬場孤蝶、戸川秋骨など、少壮教官が指導していたと言う。/日本現代文学全集「佐藤春夫」、巻末「佐藤春夫入門」浅見 淵

### メロディーについて

1、原曲は、出原弘之氏(慶応大学生)が作曲。基本リズムは「8分・8分、付点8分・16分音符」タ・タ、タータ」。7番まで対応。

2、編曲版は、原曲を聞いた仁科喜佐男氏(横浜市立大

学生)が、転(5〜6小節)、結(7〜8小節)を組替えた。7番まで対応。

3、昭和29年夏、恵迪寮生の荒木武夫氏が帰郷の際、同期で倉敷青陵高校柔道部OBとなった出原氏、仁科氏と会い、出来たてのメロディーを聞き感銘。1、2、3、7番を原曲、4、5、6番を編曲で構成し、恵迪寮柔道部など、親しい寮友に伝播したとのこと。

4、昨年末、昭和30年の全寮コンパでこの歌を唄いブレイクさせた酒井誠一郎先輩(S30年入寮)に電話を差し上げ、ご記憶されているメロディーを7番まで唄っていただき採譜した。基本リズムは(16分・付点8分、付点8分・16分音符)タター、タータ)、4分の4拍子、8小節。楽譜はテナー系の方々にも唄いやすくするため、1音上げてニ長調(D-dur)とした。

### ブレイクの理由

1、原曲は、佐藤春夫の四行詩、起承転結を明るく爽やかな寮歌風に唄い上げ、一度聴くと直ぐ覚えられる。

2、編曲は、明治中期以降、国楽の基本音階となったヨナ抜き長音階(4音(ファ)、7音(シ))を使わない五音階で作曲されている。五音長音階は、「鉄道唱歌」「大楠公(青葉茂れる)」「箱根八里」など、「日本陸軍(天に代わりて)」「歩兵の本領(万葉の桜か)」「ラバウル小唄」などと、唱歌、軍歌に多い。

3、荒木先輩が1、2、3番を原曲〔洋旋律〕、4、5、

6番を編曲〔和旋律〕、そして結び7番を原曲〔洋旋律〕にブレンディングしたことにより、和洋の複合味を堪能できるようになった。

4、第三高等学校における「逍遙歌(紅萌ゆる丘の花)」と寮歌「人を恋ふる歌」は、ヨナ抜き短音階(4音(レ)、7音(ソ)抜き)である。ヨナ抜き長音階、ピョンコ節である明治45年寮歌「都ぞ弥生」が、「酒、歌、煙草、また女」を恵迪寮に誘ったのではないか。

5、今も若き日を髣髴とさせる稀代のバリトン歌手酒井先輩のご発声、そして「六分の俠気、四分の熱」を思い浮かべる小気味良いリズムが、血気盛んな若者のパトスに火をつけた。戦前生まれの方々にとり、ヨナ抜き音階は、耳に馴染みやすいのではなからうか。

### エピソード

1、編曲の転2小節、「酒、歌、煙草、また女」のメロディーラインには、懐かしい薫りがある。その源泉を、私は四高時習寮、大正4年寮歌「北の都」の転、と憶測している。

明治44年、東北帝国大学農科大学教授から第7代四高校長に就任した溝淵進馬氏は、自ら柔道部を指導し、大正3年の第1回全国高専柔道大会から7連覇達成。その偉業の立役者が、作曲した駒井重次氏。詞は、七五調・四行詩。曲は、ヨナ抜き長音階のピョンコ節(付点8分・16分音符)。金大柔道部HPを見ると、寮歌「北の都」への熱き思いが伝わってくる。

金沢大学柔道部・四高寮歌、倉敷青陵高校柔道部・青陵「陵歌」、北大恵迪寮柔道部・恵迪寮寮歌の相関は、歌「酒、歌、煙草、また女」を恵迪寮で花開かせる、不思議なえにしであったのではなからうか。「恵迪」第5号に、明治41年以前の北大柔道部の歴史、旧制高校、大学予科、旧制専門学校による寝技中心の高専柔道大会、その流れを受け継ぐ七帝戦の戦績が掲載されている。創部に導いたのは、勿論、文武会部長の溝淵教授だった。

2、ヴィツカス・ホールの玄関に纏いついていた凌霽花と、8月の札幌大通公園2丁目壁泉に橙黄色の繚乱たる艶やかさを彩るアメリカ・ノウゼンカズラ (trumpet-creeper) は、同属のようです。

佐藤春夫は、昭和39（1964）年5月6日、自宅で朝日放送の録音中、心筋梗塞のため急逝した。享年72歳。戒名は、凌霽院殿詞誉紀精春日大居士（りょうしゅうしょういんでんしよきせいしゆんじつだいこじ）。5年後の2014年、没後50年となる。こよなく愛したノウゼンカズラの前で、ご遺徳を偲び、「酒、歌、煙草、また女」を献歌したいものです。

（札幌市豊平区）



## 伝統と変革のなかで〜恵迪寮自治の現状

恵迪寮自治会第292期執行委員長 今 田 達 哉

(H19年入寮)

現在の恵迪寮は、1年生から4年生までの学部生が暮らしている定員500名弱の大部帯である。また、ご存知の方も多いと思うが、約15年前に女子学生を受け入れて以来、男女混合寮としての変遷をたどってきた。

恵迪寮は時代の移り変わりとともに確実に変化してきている。私が寮に入ってから2年半の間にも、その変化は確実に肌で感じられる。ただ、その中であって変わらないもの、あるいは意識的に守ろうとしているものもあり、伝統と変革のさなかで自己像を模索しているのが現在の恵迪寮の姿ではないかと思う。

観楓会、寮祭、ジャンプ大会や節目目でのコンパなど、有名な年中行事は「変わらない」恵迪寮の象徴であり、今でも高下駄をはいて放歌

高吟する姿などは昔を偲ばせる光景となっている。新歓コンパの後にはストームの嵐が寮内を荒れ狂う。このような光景の中に身を置いていると、自分も恵迪寮の一世紀に及ぶ伝統に連なって暮らしているという感慨を抱くことができる。

### 個人主義と共同生活の葛藤

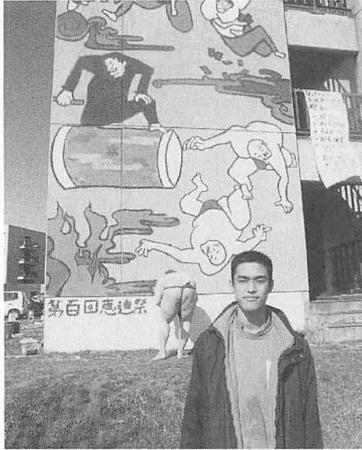
ただし、我々は現代社会の中に身を浸しており、やがて社会の一線に出て活動していく身として、ただ寮の慣例を踏襲して暮らしていたのではその内実が空虚なものになってしまふというのも事実であろう。また、現状に対する柔軟な対応を欠いては、自治が先細りしていつてしまうという危機感も、寮運営を担っている一人として感じている。

例えば、現在の多忙で個人主義的な学生気質と、寮の伝統的な共同生活のありようの葛藤は、寮運営に関

して常に顔をのぞかせている問題である。ある議題が提起されて代議員会が開かれることとなる。しかし、単に安宿を求めて寮に暮らしているだけのものにとつては、代議員会の時間的拘束は苦痛なだけであろう。かくして、定足数に満つるか満たざるかという議長団の苦悩が繰り返されることとなる。全寮のコンパをとつても、その参加者は一昔前に比べて格段に減ってきている。親密な知人以外の寮生と、ひとつ屋根の下に暮らす縁を感じづらくなってきたためであろうか、と想像している。このような状況の中で、どこまでが回復すべき寮の共同性で、どこまでが現実離れた懐古趣味なのか、という価値判断をしながら、時に変化を伴いつつ、寮のありようを少しでもいい方向に持って行けないかと考え、日々活動している。

### 時代は寮に逆風ではない

ところで、時代の風は寮にとつて全くの逆風というわけでもない。近年では、大学で対人関係を育む重要性が社会的に再認識されてきたよう



第百回恵迪寮歌祭記念壁画の前で

に思う。「コミュニケーション能力」などと語られている事柄も、社会がコミュニティの存在を肯定的にとらえ始めた兆候ではなからうか。恵迪寮は、そのような「古くて新しい価値」を大切にしてきた。この事實は、胸を張って誇れるものと思う。これからも、寮生同志の議論の中で何が大切なものなのかという見極めをしながら、多様な価値観にさらされる現代の中を、恵迪寮は舵をとっていくことになるのだろう。



北大キャンパスを行進する観桜会参加者たち

# 自・由・投・稿

## 日本人は皆、遠い親戚だ

南 福市

(S13年入寮)

最近、近くに住む姪から電話があり、「今、NHKの大河ドラマでやっている『篤姫』の相手役の小松帯刀(清廉)さんが私たちの親戚らしい。詳しいことはジパング倶楽部2月号に載っている」と言う。それ以来わが家の一大トピックとなった。

そう言えば、わが女房殿がかねて話していたことがある。「お母さんから聞いたけど、あんたのお爺さんは鹿兒島の肝付男爵の二男で、長男が跡を継いで、お爺さんは養子にやられて高橋清為となり名字帯刀を許されてお殿様のお墨すり役(書記)をしていたそうよ。その後、長男が亡

くなった後に生まれた三男(尚五郎さん)が跡取りになったそうよ」。

「キモツキ」なんて変な名前の人がホントにいるのか? 大正生まれの平民の私にとって男爵(後に子爵になったとか)とはもつたない。そのうち一族の末裔を探しに行くかと冗談にしていたところ、その後ジパングの記事を読んだり、お爺さんが米寿の祝いに刀を差し一族郎党数十人と撮った写真が義妹から送ってきたりしているうちに、だんだん本当らしくなってきた。

これほど身近に有名な人が親類にいたのかと、びっくりしたり、感心したり。その揚げ句、表題の仮説「日本人は皆、遠い親戚だ」にたどり着いた訳だ。

その証明は以下の通り。

(一) 7000万人×1.007<sup>(2008年)</sup>≒1億2000万人

私が小学1年生の時、国語読本に「我等国民 7千万は……」という文句があった。それから81年経って、今や総人口1億2000万人になったのであるから、年率0.7%で人口

が増えたことになる。

(二) 1人×1.007<sup>(2008年)</sup>≒1億2000万人

西暦2008年は皇紀2668年だから、年率0.7%で人口が増え続けるものとすれば、今の人口から2668年溯ると、たった一人(天照大神?) から始まったことになる。

「一人ではおかしい」と言うなら、もう100年遅く夫婦二人から始まったことにすればよい。

何れにせよ日本民族は昔から他民族と混ざらない純血の民だとされてきた(最近では異論もある)ので、前記の仮説が成り立つのではないか?

最近、振り込め詐欺とか、やたらに頭を下げる無責任なヤツがいるが、2000年以上にわたって人口が増え続けたのであるから、DNAのばらまきとして、まあ仕方ないかとあきらめ、以来街で会う誰に対しても、遠い親戚だと思ひ、気持ちだけでも仲良くせねばと思うようになった。

(横浜市鶴見区)

# 恵迪寮歌水墨追遙

二川 義昭・雅号 冬湖

(S26年入寮)

恵迪寮での2年間は、私の人生においてかけがえのない特別な意味を持つ時期です。それは青春そのものであり、寮友との青春共有の時期でもあります。そしてその青春共有の象徴ともいべきものが寮歌です。

旧制高校の寮歌には、権力志向的エリート意識が色濃くにじみ出ているものもありますが、恵迪寮歌にはそれがほとんど見られません。そこにあるのは、荘厳な北の自然と移りゆく四季への诗情あふれる賛歌であり、そこに生きる青春群像への熱き思いです。

私は16年前から水墨画をやっています、これまで8回ほど個展も開いていますが、以前から恵迪寮の寮歌の随所にちりばめられている美しい自然や青春の姿を水墨画にしたいものと考えていました。

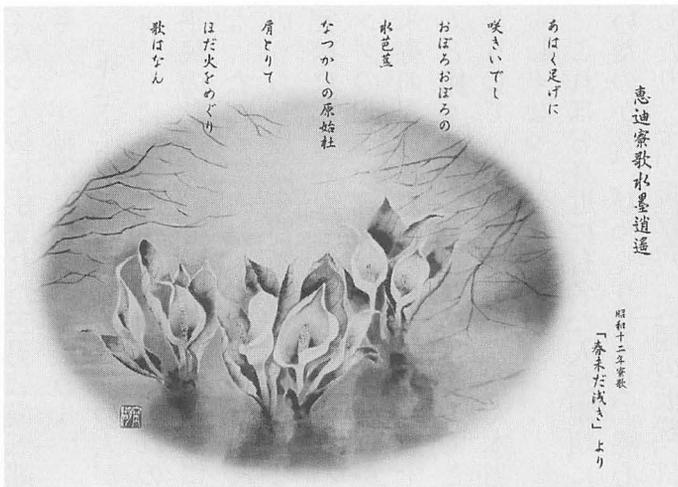
例えば「都ぞ弥生」一つを取り上げてみても、「星影さやかに光れる北を」とか「羊群声なく牧舎に帰り」とか「寒月かかれる針葉樹林」とか「連なる山脈玲瓏として」などなど、絵心をそそられる心象風景は枚挙にいとまがありません。

これまで東京で二度個展をやっていますが、毎回恵迪寮時代の寮友がたくさん会場に訪ねてきてくれます

恵迪寮歌水墨追遙

昭和十二年寮歌

「春来た哉」とより



あはく足げに

咲きいでし

おぼろおぼろの

水芭蕉

なつかしの原始社

肩とりて

ほど火をのぐり

歌はなん

た。さらに夜の銀座などで旧交を温めたりもしました。

そんな席上で、寮歌にちりばめられた心象風景の美しさが話題となり、私が「いつかそれを水墨画で表現してみたい」と口にする、「ぜひやってみてくれ」と幾人もの寮友から勧められました。

そんなこともあり、ようやく寮歌を水墨画で表現すべく、筆を執って

恵迪寮歌水墨追遙

明治四十五年寮歌

「都ぞ弥生」より



雲ゆく雲雀に

延鈴草の

真白の花影

さゆらぎて立つ

今こそ溢れぬ

清和の光

みることにした次第です。

今年9月には、札幌での個展を予定しています。札幌はわが恵迪寮のお膝元であり、寮友もたくさんいます。恵迪寮歌を水墨画にして展示するには打って付けの機会なので、この札幌個展の展示内容に「恵迪寮歌水墨逍遥」と題する連作を出品することにしました。

パネル20枚ほどの連作になる予定



です。ただし、私は昭和26年入寮なので、私にとつての寮歌とはこの時期までのものです。

恵迪寮時代のさまざまなのは、やはり遠い昔の思い出となつていますが、寮歌だけは今も自分の中に生きていて、自分自身の一部となつていきます。今回はこの小文に寮歌の水墨画数点の写真を添えましたが、9月の個展ではまとまって展示できる



と思います。諸兄姉のご来場をお待ちしております。

(旭川市)

## 二川冬湖 水墨画展

期日：平成21年9月8日(火)～13日(日)

会場：ギャラリー大通美術館（札幌市中央区  
大通西5丁目11、大五ビル）

## キャンパス日本一に想う

小沢 久弥

(S17年入寮)

最近の新聞紙上に、日本の大学で一番好きなキャンパスとして北海道大学が選ばれたという記事を読まれた方も大勢いらっしゃるであろう。私もこの記事を読み、大変うれしく思った北大OBの一人である。特に私のように東京で試験を受け、初めて北海道に渡って行った者にとつては、北大キャンパスの自然に取り囲まれた美しい光景に、心から感動したものである。

当時はまだ、大学の建物が今より少なかったせいもあるが、朝に夕に遥かに見える手稲山を仰ぎつつ、寮歌を口ずさみながら恵迪寮から予科の校舎まで通った頃の青春の一時を、私は一生忘れることは出来ないであろう。

その思い出のキャンパスが、何十年も経た今になっても高い評価を受

けているということは大変有り難く、これまでその環境と景観を大切に維持してこられた大学の方々に對して、心から敬意と感謝の気持ちでいっぱいである。

最近漸く、環境とか景観という言葉が新聞紙上にも出てくるようになったが、環境はともかく、景観という言葉に対する認識というか、関心の深さについては、世界の先進国



雪の朝の北大キャンパス

の中でも日本ほど低い国はないのではなからうか。

最近、ある新聞の社説として、「景観の価値」という題名で「良好な景観は国民共通の資産である。景観にこんな価値を認めた景観法が施行されて5年、果たしてその趣旨は生かされてきているであろうか」と書かれているのを読んだことがある。

確かに平成16年、遅ればせながら日本にも景観法が施行されたが、この事実を知っている日本人が果たして何人いるであろうか。

すでに何十年前も前に、フランスの建築法規では次のように定められているのである。

「建築は文化の表現である。建築の創造、建築の質、これらを環境に調和させること、自然環境や都市景観あるいは文化遺産の尊重、これらは公益である」と。

フランスと日本では、これだけの差がある。日本では自分の建物はあくまで私物であり、とても公共の公益であるとは理解できないであろう。

今日ようやく日本でも、経済に活気が及ぶようにと、観光政策への関心が深まり、昨年、観光庁が発足した。観光立国、観光産業、観光学というような言葉が新聞紙上を賑わせるようになってきたが、観光にとって一番大切な国の景観を認識し、主張する人が少ないことは誠に寂しい限りである。

観光立国とはすなわち魅力ある国づくりであり、21世紀の日本の最重要課題の一つである。しかし2006年に海外を訪れた日本人旅行者が1763万人に対して、日本を訪れた外国人旅行者の733万人に過ぎない。各国の外国人旅行者受け入れ数のランキング（2006年）においても、フランスが世界で1位、スペインが2位、アメリカが3位であるのに対し、日本は30位、しかもアジアの中でも7位の低水準にある。経済大国でありながら、観光立国としては世界に大きな後れをとっているのが現実である。

また、最近は2016年の夏季オリンピックの開催に向けて東京が名

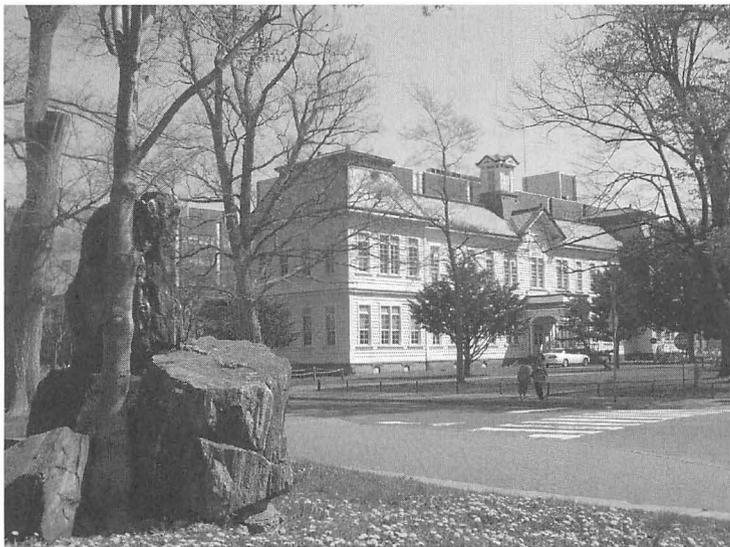
乗りを挙げ、シカゴ、マドリッド、リオデジャネイロの3候補地と争っているが、世界に通じる東京の魅力として何を挙げれば良いのか、まだ具体像が浮かんでいないのが実情である。

「世界一コンパクトである」という抽象的な表現が果たして世界に通用

するであろうか。

日本の首都である東京を世界に売り込むための言葉すら見出せないということは、まさに欧米ではすでに常識でもある景観という言葉を、今まで大切にしてこなかった結果であると言われても仕方がない。

（川崎市麻生区）



歴史的建造物が今なお残る北大構内

## 八方破れの人生ですが

清水 宏

(S 35年入寮)

長崎県の島原高校2年生の春、思いつきで「夢は海外移住」と自己紹介したのがきっかけで、私は南米開拓を一生の業と心に描くようになった。同時に北大に憧れ始め、毎夜、裏の柿の木越しに夜空の星を仰いで、「人の世の清き国」へと想いを馳せた。

幸運にも、農学部(理類)に合格、恵迪寮にも入寮。だが折しもの「六〇年安保闘争」について行けず、約1年、講義を欠席しては光溢れる石狩の野や河畔を彷徨し、アルバイトに精を出す日々を送った。その結果のドツペリ(留年)があり、自己嫌悪の淵に沈んだ。

せめて自分にも手の届く「価値」を求めて、札幌市内の養護施設の学習指導に参加。予想とは反対の、はじけるような明るさに驚き、救われ

た。半年ほど過ぎ、毎週末宿泊し、彼ら(主に男子中学生)と食事や入浴、作業を共にするようになって、気づかされた。実はその「はじけるような明るさ」が、そうでもしなげれば生きていけない惨めさの裏返しであることに。

やや小柄な私よりずっと小さな子も多く、体のところどころに傷跡を残す者もいた。やがて問わず語りに伝えられる生い立ちの数々。

妻の死後、女性に溺れるA君の父親。野に咲くマーガレットで母親の葬式を飾ったというB君。深夜ふと目覚めると、すすり泣きにも似た寝言を切れ切れに漏らしながら眠るC君の姿が、窓から射す月光の中にあつた。

### 施設の子らの兄となって

子ども達にはもつたないくらい慕われた。しかし同時に、信頼されればされるほど、私は苦しくなっていく。彼らの困難は中学卒業時に集中した。彼らの大半は就職したが、学力、体力、コネと無縁の者がほと

んどであり、難渋した。「どうしよう」と問いかけられても返答に窮するだけだった。そんな折、D君が漏らした言葉が私の心を刺した。

「お兄さんはいいな。大学出ればいいと就職するんでしょ。おれ達とは身分が違うもんな」

もう二度と来るものか、自分には南米への夢があるではないか、と心に練り返しながら辞した。だが次の週末、また施設への坂道を上っていた。結局、卒業まで3年半通った。

卒業後上京し、南米移住に関わる方々の知遇を得た。語学を独習、ガードマン職に就きながら生き方をもゆつくり再考のつもりでいた。ところが2か月も経たないうちに「ブラジル商社に好条件で就職」の報が舞い込んだ。喜ぶはずが、私は取り乱した。施設の子どもの達の酷薄な運命と直面し、己れの夢が個人的な野心に過ぎないと悩み続けてきたことが頂点に達したのである。1週間煩悶し、結局自ら7年の夢を断った。

その後10年は、学歴も中卒として現場労働に就いた。とくに7年間は、

東京都清掃局のし尿作業員として、文字通り（常時ではないが）頭からし尿を浴びる作業にも従事。幸い現場の仲間たちにも信頼され、人間の根底の美しさに酔うような日々の中で、結婚もし、私は本当に、己れに克ち、人生に勝利したような高揚感の中にあつた。

### 挫折、苦闘の末、市会議員に

ところが右手筋肉欠損等のために退職。資格取得後、英語教諭として中学の教壇に立った。自信のある筈の教育職で、しかし見事に挫折。4年後、追われるように京都へ転居。

以来30年、卑小な自分には苦闘の時が続いた。妻の発病、手術（脳腫瘍）、闘病、他界。小中学生だった息子達の子育て、巣立ちとともに老母の介護に帰郷。病身の姉たちの世話等々、学習塾の講師などを勤め、借金も重ね、惨めさで胸を満たした。だが「崩壊」は免れた。その陰に、多くの友人知己の力があり、私なりの思想もあつた。しかし基礎には学生時代の施設の子等との熱い絆が

あつたし、一生の愛唱歌「都ぞ弥生」があつた。

2年前、郷里島原の市議戦に初立候補し、地盤・看板・カバンの3パンなしの「ど素人」ながら奇跡の「ビリ」当選を果たした。詳しくは、イ

ンターネットのヤフーで、どうぞ「月刊凡々」とご検索下さい。裏面の「男の、子育て日記」を中心に、八方破れの人生論を展開中。ご笑読頂ければ幸いです。

（長崎県島原市）



自転車に乗って市会議員選挙に挑戦、見事最下位当選を果す

## 支え合う仲間達

くバイトに明け暮れた寮時代

内藤 春彦

(S40年入寮)

我々はいくつもの出会いの中を生きている。人と出会い、本と出会い、絵や、音楽や、事件やとすべてが出会いになり、その時その人の感受性に応じて、衝撃度が異なってくる。

とりわけ人との出会いは大きい。感受性の豊かな若い時代ほど出会いはみずみずしい。青年期に寝起きを共にする寮や合宿生活は出会いの場としてきわめて重要である。自分のそんな時代を振り返ってみた。

昭和39年東京オリンピックの年、山梨の山の中から京都に出て受験浪人をした。「文化果つる地」と自嘲していたところから日本文化の中心へ来たわけである。私の寮生活は予備校の寮から始まった。下鴨寮という出来たばかりの建物で、ここから鴨川を渡り、烏丸鞍馬口の予備校に通った。寮の屋上から吉田山を眺め、

大文字焼きを眺めては見えない将来に不安いっぱいだった。せつかく京都に暮らしているのだからと、自転車を借りてお寺巡りをしたり、近くの下鴨神社では時代劇のロケを見物した。夕刊配達のアルバイトではノーベル賞受賞の湯川秀樹博士ら高名な先生方のお住まいも知った。寮友で室蘭工大に行った桃井清臣君とはいまでも連絡を取り合っている。

年末、医学部志望の男に「今は理工系ブームであるが、苦勞して理工系に進んでも社会にでたら文系に頭を抑えられる。理系は良く工場長止まりだ」と言われ、田舎出の小生は「なるほど社会とはそういうものか」とこれから入って行かねばならない世界を教えられた気がした。入試が終わるまで帰らないつもりだったが、急遽、実家に帰り、電子工学から医学部に志望変更をしたいと親に頼み込んだ。とりあえず医者になっておけば、将来、保健体育の教師にはなれるだろうし、作家になった人だっている。手塚治虫だって医者だったし、将来の職業決定はもつと

後でも出来そうだと考えたのである。

北大入試は昭和40年度まで東京試験場もあった。日大校舎で受験し、運良く合格し札幌にくることになった。合格通知はちょうど19歳の誕生日に届いた。

札幌の様子は何もわからないまま、最初は同郷の薬学部大学院生を頼って北12条の下宿に落ち着いた。山梨出身の先輩達数人が歓迎会をしてくれた。

### ポート部合宿で寮歌に親しむ

入学式のため体育館に並んでいたら、背の高い人間を探しているポート部員の勧誘に遭い、そのまま新入部員となつてしまった。当時のポート部の合宿は月曜の夕方から日曜の昼まで週6日で、茨戸の合宿所からの通学となった。われわれはここで寮歌にあこがれていた同僚の指導で寮歌を覚えたのである。宮田睦彦、司馬威彦らの寮歌作者がポート部先輩で、合宿で一緒だったのも寮歌に親しんだ一因かもしれない。ポート

部と恵迪寮で一緒だった植木和夫君とは今でも付き合っている。

水の上の生活が終わった9月の入寮選考で恵迪寮に入れてもらえることになった。各部屋は大学病院改築で不要になった古い木製ベッドを5台置いただけの簡素なもの。私が入ったのは中寮2階の「恵迪編集」の部屋である。先輩の福井さん、湯沢さんに聞いたが、部屋名に関係ある活動は特別していなかった。同期の同室者は鈴木幸吉君と木村豊君で、彼らとは今でも連絡を取り合っている。ともかくにも私の恵迪寮生活はここから始まった。入寮してすぐ「日韓外相会談反対、椎名外相訪韓反対」のデモである。初めてのデモで、最前列で両腕をがっちり組まれた感触は今でも鮮明である。デモで思い出すことはいっぱいあるが、なかでも、やはり最前列でデモっていた時のことである。三越あたりで転倒し、その上にばたばたと後続の人間が倒れ込み、息が出来ず「北海道の樺美智子はオレか」と一瞬覚悟したことがある。しかし、気を失

うこともなくアスファルトにこすりつけた顔の傷だけで済んだ。

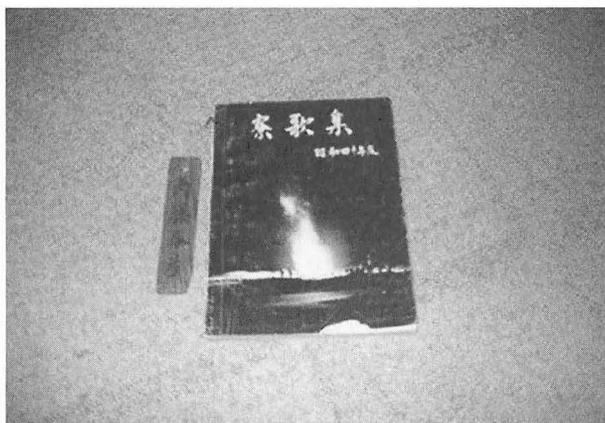
2年目は南寮1階であったと思うが、ロシア文学研究会と名付けて読書会を構想した。41年入学の水産学部・高野君、医学部・妹尾君が一緒になった。前半はボートの合宿で部屋にはあまりいなかったが、足元でマージャンをやっているも全く気にならずベッドに寝ていた。肝心のロシア文学の方は結局、部屋としての活動は出来なかった。こちらは還暦過ぎた今、またドストエフスキーを買い込み、読み直しているところである。

### 割のいい家庭教師

秋の定山溪行きは楽しい思い出である。夜通し歩き、途中、暗闇の中でりんごを失敬し、早朝に定山溪に到着、温泉に入浴して帰って来ただけだが、なぜか忘れられない。

恵迪寮のアルバイト幹旋は毎晩8時に事務室で抽選であった。随分いろいろな仕事をやった。朝日新聞で宛名書き600円、サップロビール工

場からのビール箱運搬、商店の倉庫の荷運び、手稲辺りで凍った土の穴掘り、北大の大型電子計算機センター工事（卒業後は利用者にもなった）、月寒の農業試験場の温室作りなどを思い出す。変わった所ではキャバレー「月世界」のボーイである。一晩だけボーイが足りなくなり、なぜか恵迪寮に話が来た。メガネや背の高いボーイは客が嫌がるのか、ホステスさんがマッチの火を上げたら注文を取りに行くとか、雑学も仕入



今も手元に残っている寮歌集と名札

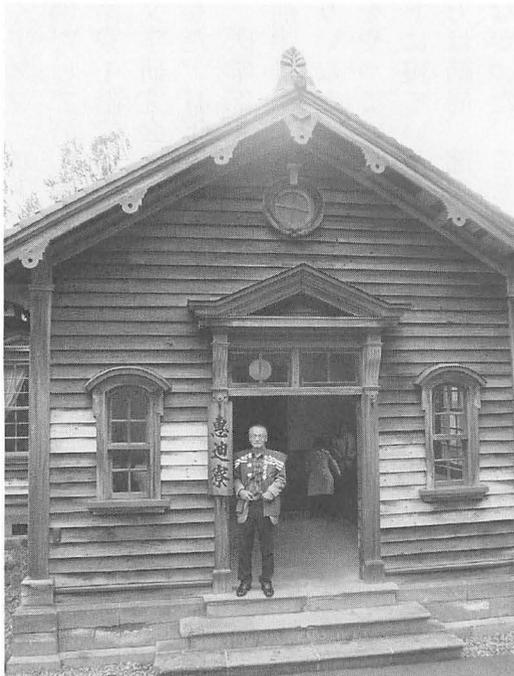
れたものである。バイトはこのほか、地下鉄工事やし尿汲取車同乗などもあったが、日当は良いものの危険度が高く、小生はやらなかった。

割のいいのはやはり家庭教師だった。週2日で月4000円から4500円位だっただろう。学生部の掲示板で見つけた最初の生徒は、地方出身の札幌南高男子だった。親元を離れているためか勉強に身が入らず、結局責任が持てないので、数か月でこちらから辞めさせてもらった。次いで旭ヶ丘高の女子で勉強は問題なかったが、父親の浮気で家庭がぎくしゃく。問題が上手く収まったところで東京の高校に転校して行った。

3人目は女子中学生で1年あまり頑張り希望校に進学できたことで両親には大変喜ばれ、生まれて初めてホテルの食事を御馳走になった。最後は、新聞の求職欄で声がかかった札幌南高の女子である。この子は出来が良く、家庭教師をつける理由を聞くと、「数学がクラスで1番でなくなったため」とのこと。小生も数学

はあまり得意ではなく、出る幕はないと思っただが、2年近くアルバイトをさせてくれた。ご両親とは今でも賀状のやり取りをしている。

振り返ってみれば何事によらず実にヨタヨタと頼りなく、何とも幼かったと思うことばかりだ。自覚するといけないとにかかわらず、こんな時期、同年代の寮友、クラブの友との付き合いに大きな影響を受けていたことに思い至るのである。お互い



40年前をしのびながら「開拓の村」の旧恵迪寮前

に傷つけ合ったが、それ以上に支え合っていたのである。そうしてなんとか生きてきたのである。幼い頃の友達も定年退職し、同窓会で何十年ぶりかで逢うが、小中学校の同級生で大学に行かせてもらえたのは自分だけだった事実は今更ながらに戸惑うのである。これからはお返しをしなければならぬ人生であると自戒している。

(札幌市西区)

## 漢字「迪」に寄せる想い

中村 昭雄

(S41年入寮)

### はじめに

私はかねてより恵迪寮の「迪」という漢字について論考してみたいと思っていたが、恵迪百年記念祭に参加して、諸先輩及び多くの旧友に会い大きな感動を得たので、漢字彩々のつもりでその考察をまとめてみた。

### 人名用漢字として

わが寮名の迪は、戸籍上の人名として常用漢字以外に使用が認められる人名用漢字に指定されている。法務省令『人名用漢字表』は、現在983字であるが、この中で迪は昭和56年に指定されており、古典的な人名用漢字に属する。

迪は音で「テキ」と読み、字義は「みち、みちびく、すすむ」等である。

「北海道大学恵迪寮」をキーワードとしてウェブ検索すると、トップページに私達の頃の寮玄関の写真があり、「恵迪寮」の門標が掛かっているが、この「迪」は異体字である。

人名を「迪」で検索すると、迪宮裕仁親王（昭和天皇）をはじめ米倉迪夫（日本美術史家）、山本迪夫（映画監督）、西田迪雄（物理学者）、多田羅迪夫（オペラ歌手）、長尾迪（写真家）等がヒットするが、それ以外では色々な使用例があつて興味深い。

### 現代中国語音 di の用例

まず迪拜（ドバイ）はサッカー日本代表の「ドバイの悲劇」で有名なアラブ首長国連邦の首長国の一つで、首都ドバイには世界一の超高層ビル・迪拜塔（ブルジュ・ドバイ）がある。ここで、迪にドという音があるのだろうかと思つて、『中日辞典』（小学館）を調べたところ、di という発音表記を持つことが分かった。字義は中国語でも「導く、指導する、啓発し導く」である。

迪士尼はディズニーと読み、香港ディズニールランドは香港迪士尼樂園と現地表記する。迪化街（ディホアチエ）は台北の古くからの問屋街で、漢方薬、乾物等の店が並び、季節を問わず観光客で賑わっている。

深圳に拠点を置く自動車メーカー・比亞迪汽車（BYD Auto）は、電池メーカーの比亞迪股份有限公司（BYD Co., Ltd.）の子会社で、平成20年12月に家庭用電源で充電できるプラグインハイブリッド車を発売している。またGMの高級車・キャデラックは凱迪拉克を、ドイツの自動車会社・アウディは奥迪を当てる。auのKDDIは凱迪迪愛と表記し、KDDI中国の正式社名は北京凱迪迪愛通信技術有限公司。上海の漢方会社が通信販売している迪豆（ディドウ）美白去痘洗顔乳液は面皰や痤瘡に著効があると言う。

またパリのアパレル及び化粧品会社・ディオールは迪奧と表記する。1914年6月、サラエヴォで暗殺されたオーストリア・ハンガリー帝国の皇太子・フェルディナンド大公

やマゼラン海峡で名高いフェルディナンド・マゼランの名には斐迪南を当てる。

雲南省迪慶（ディチェン）藏族自治州は雲南省西北部にあり、迪慶は「大いなる安楽」の意。この自治州は長江、メコン川、サルウィン川が並行して流れる三江併流と呼ばれる地域で、一帯が世界自然遺産に登録されており、チベット仏教の信仰の山・梅里雪山（メイリー・シユエシヤン）がある。この山は平成2年に京都大学学士山岳会が大量遭難したことで知られている。

南宋の宮廷画家・李迪（リディ）は写実的で細緻な花鳥画をよくした。わが国にも李迪画の『紅白芙蓉図』（東京国立博物館蔵、国宝）、『雪中帰牧図』（奈良・大和文華館蔵、国宝）等が所蔵されている。

以上、現代中国語音diを持つ用例を挙げてみたが、次に迪を用いるわが国の事例を抽出してみたい。

### わが国においては

日本の医学中興の祖と言われる戦

国時代の医学者・曲直瀬道三は、田代三喜から李朱医学（明の漢方医学）を学び、京都に医学校・啓迪院を設立した。道三は管領細川晴元、三好長慶等を診療した他、月山富田城攻囲中の毛利元就に請われて病の彼を往診している。この道三が著した医学書が『啓迪集』で現代語訳も出ている。この書名は書経の『太甲上』にある「後人を啓迪す」に由来し、啓迪（けいてき）とは教え導くという意味である。

備中の和算家・小野光右衛門は、嘉永7年に『啓迪算法指南大成』を刊行した。この和算の入門書は最初1000部の予定だったが、全国的な大反響を巻き起こし1700部も出版されたという。

『正法眼蔵啓迪』は、曹洞宗管長・西有穆山が、道元禅師が生涯をかけて著した『正法眼蔵』の主要な巻を、懇切丁寧に提唱（法を説くこと）したものである。

水戸の會沢正志齋は尊王攘夷論の源流となった政論書『新論』を著して、水戸学を学問的に体系付けたが、

彼は別に『迪彝篇（てきいへん）』を著して、水戸学に基づく道徳論を説いている。迪彝とは「人の守るべき道を歩む」ことである。

明治23年制定の『日本基督教会信仰の告白』に、「古の預言者、使徒および聖人は、聖靈に啓迪せられたり」という文章があり、この啓迪も上記と同様に教導を意味するという。

### 迪に恵えば吉し

さて「恵迪」をキーワードとしてウェブ検索すると、わが寮関係ばかりの中に変り種もある。まず学校法人恵迪学園が埼玉県飯能市にあり、幼稚園・保育園を経営している。福島県伊達郡伊達町（現伊達市）に剣道道場連盟加入の恵迪館があり、東北地方の少年剣道大会で活躍している。また北九州市にケアハウス恵迪館があり、これは高齢者福祉施設である。残念ながらこれらの命名の由来は分からないが、福島県の恵迪館は、2月の関東少年剣道錬成大会（結城市）でその名を見たので、次回には尋ねてみたい。

滋賀県の上原酒造は木槽天秤搾り・本格的山廃仕込みで有名だが、この酒瓶キャップには「恵迪吉」と書かれている。これは富岡鉄斎が明治35年に、現高島市新旭町太田の蛙声庵で揮毫したもので、同社ホームページにはわが寮名と同じ典拠が記されている。

恵迪百年記念祭の日、歌碑「都ぞ弥生」改修除幕式の後に、会場から約100メートル先にある「寄宿舎跡の碑」を訪ねてみた。この碑面に刻まれた「恵迪吉從逆凶惟影響」の語は、書経の『大禹謨』から選ばれたもので、「迪にしたがえばよく、逆しまなるに従えばわるし、これ影ひびきの如し」と読む。

### おわりに

新制北海道大学初代総長の伊藤誠哉先生は、昭和23年5月、「右に傾きてその国敗れ、左に偏してその世乱る。よく『中庸の正しき迪に恵うは吉なり』を教訓とすべき」とし、「吾が祖国はその道を誤り、敗戦降伏の鞭に打たれ、人の心は荒びに荒びつ

つあるのとき、吾が寮名の教えの尊さを思わずにはいられない」(寮歌集序文)と述べている。「恵迪吉」は世

界の恒久平和を願う箴言として味わうべき言葉なのだと思から思う。  
(埼玉県北本市)



原始林の中の寄宿舎跡に建つ恵迪の碑

俳

句

# 草若葉

小沢久弥

(S17年入寮)

## 春

山門を蝶々くぐり抜けゆけり

ピンポンの音聞こえるくる草若葉くさわかば

逃げ水を追ひて着きたり日本海

## 夏

時の日の神戸市庁の花時計

雨戸く練れば犬あくびして明易あけやすき

豆腐屋の笛鳴りわたり梅雨の明け

## 冬

片隅へ蒲団押しやり二次宴会

着ぶくれてゲートボールに参加せり

賑わひて森もふくらむ初詣

## 秋

予定メモ増えるばかりの残暑かな

斧おのあげて蟻螂とうろう吾を見つめをり

深秋や墨絵のごとき山の巒ひだ



Jano  
2007.

(川崎市麻生区)

# 寮歌

## 研究

### 恵迪寮歌と北大合唱団

sin時計台コンサート

金 武彦

(S 37年入寮)

はじめに

北大合唱団OB会は昨年8月、創建130周年記念時計台まつりに出演し、由緒ある時計台ホールで北大寮歌をうたいました。恵迪寮出身の私は同窓会の法被と、恵迪寮命名百年記念の手拭い姿で進行役を務め、市民の皆さんに寮歌について解説させていただきました。

この時の報告と共に、寮歌とともに歩んできた北大合唱団やOB会の沿革、さらに、寮歌誕生にまつわるエピソードなどを紹介したいと思います。

#### 北大合唱団OB会の誕生

北大合唱団の出身者で組織され、現在会員は全国に780人を数えます。昭和51年9月、北大創基百周年記念事業の一環で第1回「男声合唱の夕べ」を開催しました。その時市民から受けた感動的な拍手や声援がバネとなって、当初は5年に一度、第4回から4年に一度開催しています。回を重ねるごとにステージに立つOBは増え続け、来年の第9回演奏会では2000人を超える参加者が期待されています。

#### 北大合唱団の起源

北大合唱団は大正4年、構内図書館で開催された東北帝国大学農科大学第1回音楽会が起源です。音楽会は、佐藤

昌介学長の挨拶で始まり、「Our motto, Be Ambitious, Boys」の詞が躍る、指揮者ポール・ローランド(予科英語教師)作詞・作曲の「Marching Song」で閉幕しました。この翌年に入学した植村泰二は、昭和6年の寮歌「魔神の呪」を作曲、農科大学グリーククラブの技術レベルを引き上げました。父・澄三郎は札幌麦酒専務、兄・甲午郎は札幌オリンピック冬季大会の組織委員会会長を務めています。泰二は東宝映画初代社長に就任し、音楽監督に札幌出身の早坂文雄(七人の侍、生きる、羅生門など)、その後任に北海道帝国大学農学部卒の伊福部昭(ビルマの豎琴、ゴジラ、座頭市物語など)を起用し、彼らの才能を發揮させました。

このような草創期を経た北大合唱団は、6年後の2015年、第63回定期演奏会で創立百周年を迎えます。



## 恵迪寮歌小史

明治40年(1907)、東北帝国大学農科大学昇格を機に寄宿舎名と寮歌を公募し、「恵迪寮」と命名され、「一帯ゆるき」が第一号となりました。青春讃歌である寮歌は、毎年、寮生により作詞、作曲された一曲を選定し、平成の世も引き継がれているのは、全国で恵迪寮だけとなりました。平成16年版寮歌集には、校歌、桜星会(予科)歌、応援歌、ストームの歌、水産放浪歌など、広義の寮歌を含め約160曲が収録されています。

寮歌は時代と共に詞の形、調も変化しています。明治・大正期は、七五調・長調のピョンコ節(タンカ・タンカのリズム)全盛期。昭和に入り戦前までは七五調・短調のピョンコ節、昭和40年までは短調・4拍子、昭和57年の二代目恵迪寮閉寮までは長調・短調、拍子も入り混じり、三代目恵迪寮(昭和58年)以降になると晩翠、藤村、泣菫の韻を離れ、寮歌も新時代となっています。平成16年寮歌は、女子寮生が初めて作曲しました。

「都ぞ弥生」の歌碑は、二代目恵迪寮跡南にあります。歌碑横の原始の森を彷徨行くと、目の前に広がる手稲連山。左手にポプラ並木と農学部校舎。今も堪能できる、大展望です。

「都ぞ弥生」は、画期的な四・四・七、即ち八七調の詞、ヨナ抜き(ヨ||四音||フア、ナ||七音||シを抜いた、ドレミソラ)五音長音階のピョンコ節で作曲されています。大正10年以前は、9月が新学期でした。花の香漂う都から人の世の清き国で学ぶようになり、秋(二番)、冬(三番)、

春(四番)、冬(五番)へと季節は移ろう。八七調の音数律は七五、五七調と違い、悲憤慷慨、天下国家を論ずる詞となりにくい。北海道の大地を愛し、建学精神(Lofly Ambition)を讃え、寮歌の模範となりました。そして、この明治45年寮歌「都ぞ弥生」は、2012年、生誕百周年を迎えます。

### 入学式で合唱団「都ぞ弥生」演奏

平成21年度の入学式が4月8日、札幌コンベンションセンターで行われ、式後、地震学の岡田弘北大名誉教授(昭和37年入寮)の講演に続き、北大応援団による札幌農学校校歌「永遠の幸」と、北大合唱団による「都ぞ弥生」が演奏されました。今年の入学者は、2559人(男子1847人、女子712人)です。

### 寮歌こぼれ話

時計台コンサートでは、明治・大正・昭和・平成の北大寮歌から、8曲演奏しました。初めてお聴きになる寮歌も多いと想定し、時代背景、詞の内容、思い入れなどをネタにまとめて紹介しました。

### ●第1曲 札幌農学校校歌「永遠の幸」

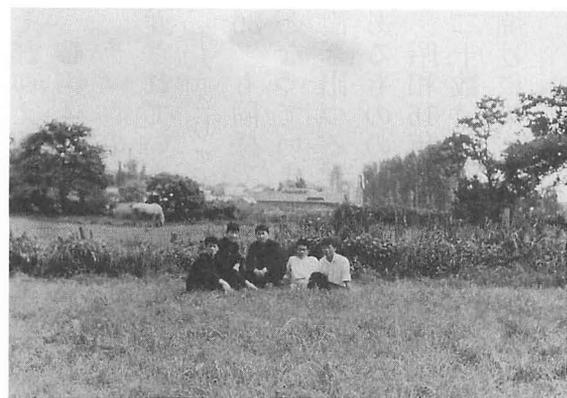
明治34年(1901)5月、札幌農学校は創立25周年を迎え、演武場で行われた記念式典で校歌が披露されました。北海道毎日新聞によると、「奏楽とともに生徒の校歌合唱ありて式を終わったり」と記され、夜には「八百に余る職員学生生徒」による提灯行列が行われ、「音楽隊を先に立て、

新作進行歌、声勇ましく歌いつつ」と、中心部を行進する様子が浮かびます。演武場を飾ったイルミネーションは、札幌のライト・アップ事始となり、行進を見ようと集まった市民で夜半まで賑わったそうです。

校歌は、有島武郎の詞に、納所弁次郎が George F. Root の「Trampi Trampi Trampi」を選び、大和田建樹がオーソライズしたということでしょうか。日本では同志社のラグビー部歌にも、使用されているそうです。恵迪寮(教養)、楡影寮(学部)時代、夜中にラーメン店いろいろやモツ・ラーメンに通いました。冬は縦隊となり新雪をラッセル、その行進曲は「イザイザうち連れて 進むは今ぞ…」でした。

●第2曲 「瓔珞みがく」／大正9年桜星会歌

予科は、札幌農学校が東北帝大農科大学に昇格した明治40年(1907)に発足し、昭和24年(1949)



ポプラ並木を背に記念写真

新制北海道大学誕生で幕を閉じました。バッヂは、中央に北海道開拓使を象徴する五稜星、円周に桜花を配しています。予科生で組織する桜星会で、最も親しまれている会歌が「瓔珞みがく」です。一番では、大雪山中から流れ始めたほとばしりに切り取られた岩石が、旭

川、深川、滝川、砂川を経て日本海に流れ込む頃には、磨き上げられた瓔珞Ⅱ寶石になると、石狩川の大河ぶりを讃えています。

北大寮歌CD収録にあたり、昭和51年の大校閲・編曲を、旧来に戻してはいかがですかと提案しました。その一つが、同窓会雑誌「恵迪」第四号に掲載された、作曲家・置塩奇氏の「玉と湧くは、原譜に正符牒をつけるべきであった」という遺稿です。「16分、16分、付点4分、8分、付点4分」と言う慌しさを、「たーま・とー、わーくー」と、大らかに湧き上がることが出来ました。

●第3曲 「別離の歌」／昭和6年閉寮記念寮歌

前口上のある寮歌は、「別離の歌」「嗚呼茫々の」(昭11)「いつの日か生命結ばん」(昭41)「楡は枯れず」(昭55)「寮生の道」(昭58)「昇龍の夢」(平9)そして「水産放浪歌」の7曲です。

昭和6年、理学部新設工事に伴い恵迪寮は一時閉鎖され、北17条移転竣工のその暮れまで、寮生は市内に分宿することとなりました。閉寮記念のメダルには、ラテン語で、「Per Aspera Ad Astra」(苦難の道を経て、幸福の星を求めよ)と刻されています。二番「光る瞳は幸福星(アストラ)か」、三番「苦難(くるしみ)は、この刻印に由来。爾来、送別・惜別の集いには、この寮歌が歌われてきました。

——草木すら時に悲歌を嘆ず 永劫の時の流れの尽きざるに 人の世の凡ての何ぞはかなき 懐かしき友よ 彼の寮を思い浮かべて心静かに「別離の歌」を奏でん——この歌を好み、前口上を吟じたいと念じている恵迪寮OBは多く、

それゆえ朗吟にも個性が現れ、興味は尽きません。

#### ●第4曲 「湖に星の散るなり」／昭和16年寮歌

チェロの名曲を聴いているようなメロディ・ラインで、愛されています。五七調の代表作で、「時潮の波の」(昭21)、「手をとりて美しき国を」(昭27)、「甦えれ白き辛夷よ」(昭36)も同様です。メロディは「松の火燃えて漕ぎ出づる」となっていますが、詞は「幽(かそ)けさよ松の火燃えて、漕ぎ出づる愛奴の漁舟の」ゆえ、各節四箇所不自然さがあるものの、それを超越する魅力がメロディにあります。

昭和16年10月、汽車で苗穂から千歳まで、この後徒歩で二十数<sup>キ</sup>、沿道の紅葉を愛でながら支笏湖に着いた頃は夕焼けに染まる樽前の山々。旅館での晩餐会、篝火を囲み心



札幌駅前でストームする寮生

行くまで歌う寮歌祭……。その情景がこの曲となりました。昭和18年10月、明治神宮競技場での学徒出陣壮行式、その中には、この歌を歌った寮生もいました。

コンサートの解説では、「太平洋戦争の開戦、学徒出陣、終戦というさだめを知る直前、支笏湖畔で行われた寮歌祭を描いている」と紹介しました。正しく、「戦争が廊下

の奥に立っていた」。

#### ●第5曲 「茫洋の海」／昭和36年寮歌

高3の夏、恵迪寮の兄を訪ねた際、同室の前野紀一さんから、来春合唱団とユーゲント・コールに入れと激励されました。その約束は一年遅配となりましたが、ご指示どおり北大合唱団と、恵迪寮では医学部付属看護学校のメツチエンと混声合唱を楽しむユーゲント・コールに入室しました。

昭和28年寮歌「手をとりて美しき国を」の三河勝彦さん、昭和36年寮歌「茫洋の海」の前野さんは、その先輩でした。「手をとりて美しき国を」は、前半短調、後半長調と、それまでの寮歌にはない画期的な作品です。「茫洋の海」は、一番を覚えれば事足りる寮歌の中で、一番短調、二番長調、三番短調と変化し、更に三番までメロディを覚えねばならぬ難曲ながら、応援団も熱心に指導する名曲です。恵迪寮百年記念寮歌祭にて昭和30年代入寮生は、応援団長OBの発声のもと、「茫洋の海」を一番、三番をゆつくり、二番は心持ち早めに歌い、拍手を浴びました。

#### ●第6曲 「うす紅の」／昭和54年寮歌

昭和57年10月31日(日)。二代目恵迪寮として最後の寮祭が開催され、この日だけ寮内が開放されました。コレッキりゆえ、娘達を連れ、新寮階上49号室、北寮階下42号室、食堂、中庭、原始の森を見て歩きました。廊下の壁に描いた畳幅の知床・斜里岳は下絵として残っており、山頂に登山者が付け加えられ、「落書きはよせ」と赤文字でご指導がありました。昭和6年から閉鎖されるまでの52年間、南・

中・北・新寮の60室十特別室4室は青春の不夜城となり、若者の大志を育みました。

閉寮記念写真集の巻末に、暮れなずむ空、春まだ浅きエラムの森、傾く屋根、その中央にパワー・シヨベルがシルエットで左右に広がり、その下に寮歌「うす紅の」が紹介されています。五番の結び二節は、「想いは恵迪を永遠(とわ)に 希(おもい)は恵迪よ永遠に」です。この言の葉は、一万人を超える第二代恵迪寮OBの感慨(おもい)でもありましょう。

●第7曲 「我榆陵に」／平成2年寮歌(解説略)

●第8曲 「都ぞ弥生」／明治45年寮歌

五番、「朝雲流れて金色に照り 平原果てなき東の際 連なる山脈玲瓏として 今しも輝く紫紺の『雲』に」(原曲は、もちろん『雪』です)。昭和37年6月、翌週のドイツ語のテストに備え、寮友5人で徹夜の学習会となりました。テキストは、ヘルマン・ヘッカー先生訳「ホメーロスのイリーアス」でした。日の出前、気分転換に構内の散策に出たところ、異常な光景を目の当たりにしました。東の際に横たわる山並みから垂直に黒煙が上り、遙か上空で突然右にたなびき、それも半端な長さではありません。朝になって、十勝岳の大噴火による降灰で、道東方面の農作物に大きな被害が出ていることが分かりました。

地勢的には、十勝岳の手前に夕張山地が横たわっています。朝焼けの夕張山地は夕張岳側が明るく、夕張マッターホルン、芦別岳と紅が濃くなります。北大病院ボイラー室煙突の左、屋外プールの上に噴煙が見えました。それ以来、

紫紺の『雪』は『雲』であり、「夏」の情景と思い違いをしています。

おわりに

札幌駅のオルゴールを、昭和を彩る音の風物詩と記憶している方も多いのではないだろうか。講義中、流れてくるメロディーが楽しみでした。4月の「都ぞ弥生」からはじまり、「時計台の鐘」「この道」「かつこうワルツ」「楽しき農夫」「乙女の祈り」など12曲が月替わりで流れていました。平成の新駅ビル誕生まで、このオルゴールを2回聴くことができ、続いて時報が響いて来ました。

時計台コンサートの際、愛唱曲ステージで歌う「時計台の鐘」「この道」をどう紹介するか悩みました。札幌駅のオルゴールからか、カラオケか。札幌讃歌として選んだベスト10は、「都ぞ弥生」(明45)「時計台の鐘」(大12)「この道」(昭3)「アカシヤの雨がやむとき」(昭35)「すすきのブルース」(昭39)「虹と雪のバラード」(昭46)「恋の町札幌」(昭47)「好きですサツポロ」(昭56)「札幌ふたりづれ」(昭58)、「北空港」(昭62)です。

60年安保へのレクイエムをアナウンスした時、会場がドツと沸きました。アカシヤの、葉音さやけき宵でした。

(札幌市豊平区)

# 寮史 研究

## 「第二次文武会事件と寮自治の危機」

— 昭和初期の恵迪寮 ① —

河野 民雄

(S31年入寮)

### 学内の特高、学生課

前回述べたように恵迪寮の自治権を侵害し、左翼学生を取り締まりに狂奔していたのは大学の学生課であった。北大文武会事件のような大学紛争が多発したうえ、1928年(昭和3)の三・一五事件に各地で多数の大学生が連座していたことは、文部省に大きな衝撃を与えた。こうした左翼学生対策として同年10月、「思想善導」を目的に各大学に新設されたのが学生課であった。北大では丁度文武会事件の最中であつた。

それまでは、大学や高等学校では教官から選ばれる学生監や生徒監が、学生・生徒の指導に当たってきたが、このたびは学生課の中に文部省から派遣された学生主事を配置し、その下に従来 of 学生監、生徒監を学生主事、生徒主事と改名し増員強化をはかった。学生課の表向きの業務は、奨学金の貸与、下宿、内職の斡旋、体育設備費の配分など、今風に言えば学生の福利厚生などを担当していた。

このほか、学生の身上調査、性向調査、訓育費(通称思想善導費)の配分などの項目があり、この業務がやがて肥大して学生の思想弾圧専門機関であるかのような観を呈することになる。

学生課はしばしばマークする左翼学生の下宿の留守を

狙つて訪れ、書棚の書物を調べた。映画館でソ連の映画が上映されるときには、映画館の前で北大生の首実検をした。時には学生を思想善導費で買収してスパイをさせたりもした。学生課には特高警察がしょっちゅう出入りしていた。

「北大新聞」のコラムは、学生課の裏手に「留置所」ができたという噂がたつたと報じている。学生課は学内の特高であつた。北大の初代の学生課長兼学生主事は尾崎卓郎である。尾崎は北大農学部出身で学生時代には恵迪寮で過ごし、寮の風呂場で長湯をして大声で寮歌を唄っていたという。彼は柔道部に属する猛者で、熱血漢で勉強家でもあつたという。松山高校教授から母校の学生課長に転じ、イカグリ頭の堂々たる体躯をしており、左翼学生からは恐れられひどく嫌われた。

学生課の発足によつて学内の取締規則も強化された。まず29年、「社団取締規則」が制定された。これにより集會・結社の自由は大きな制限を受けた。また、33年、「学生生徒出版物取締規定」が定められた。この規定によりあらゆる文書は、事前に学生課に届ける許可制となり、出版物の原稿は指導教官もしくは学生課の検閲を受けることになった。(『北大百年史』)

## 全協支持団と自治学生会の結成

恵迪寮移転をめぐるあわただしい動きのあった31年9月、関東軍の謀略による満州事変が起こり、日本の本格的な大陸侵略が始まった。世界恐慌は否応なしに日本を巻き込み、不景気の波は大学生の生活を直撃した。学生の就職難は深刻で、授業料未納者が急増し、予科の校友会である桜星会の会費が高すぎるというので、値下げ運動が展開される有様であった。

こうした中で、北大では学生全協支持団（以下全支と略す）や自治学生会の結成が密かに進行していた。大正末期から昭和の初頭にかけて、北大の学生運動を主導してきたのは社研や「読書会」であったが、これらは大学から解散させられ、逼塞させられてしまった。三・一五事件や翌年の四・一六事件で共産党が壊滅した後、左翼運動の目標は共産党の影響下にある日本労働組合全国協議会（略称全協）再建に注がれることになった。

全協支援の口火を切ったのは東京の大学生であったが、この影響を受けて北大でリーダーとなったのは、農学部への降矢徳一であった。彼は東京の出身で予科時代には恵迪寮に在寮した。降矢は農学部の友人を仲間を誘うとともに、柔道部員だったので予科の後輩たちにも組織を広めた。実は筆者の高校時代の恩師松田繁も降矢の友人の働きかけで工学部に全支をつくった一人であった。32年4月末には、農・工・医学部や予科を網羅した北大全支がほぼ出来上がり、農学部の江口健三が委員長に選ばれた。

全支結成と並行して自治学生会の結成も進行していた。

先の文武会事件の経過でも分かるように、北大の伝統ある校友会「文武会」は大学の御用機関であると批判し、真に自主的な学生自治会をつくらうという運動であった。

自治学生会結成運動の中心は予科生であった。32年5月下旬頃には、全学的に自治学生会が組織された。委員長は予科農類の大内敏孝であった。大内は恵迪寮に在寮し、寮の移転騒動のときは対策委員の一人に選ばれ、閉寮後一時下宿を余儀なくされたときには農類一年の連絡委員に選ばれている（『恵迪寮史』）。

自治学生会のメンバーは全支の会員とほぼ同じで、この頃六十数名に達していたものと思われる。彼らは機関紙として大学公認の「北大新聞」とは別に、ガリ版刷の「北大学生新聞」を発行した。このほか、思想弾圧の被害者を支援するモツプル（赤色救援会）という組織の結成も進んでいた。この中心は、医学部の枝将（えだ・すすむ）らであった。

これらに参加した学生たちの思いは果たして何だったのだろうか。不景気とファシズムと戦争に向かう時代の中で、当時の行きづまった政治・経済を変革する道として、インテリやその卵である学生の心をとらえたのがマルキシズムであった。総合雑誌『改造』や『中央公論』にはマルクス主義の論文が多数載り、学生やインテリに人気があった。頭が良くて純粹で、社会正義感に富んだ学生ほどマルクス主義に心が引かれるといわれた時代であった。これらの運動に参加した北大生は、学内では少数派ではあったが、戦争と貧困をなくす為には資本主義を根本から変革する以外

にないと考えたものと思われる。

### 自治学生会立つ

全支や自治学生会に結集した学生が学友の前に公然と立ち現れたのが、32年5月30日夜の文武会新入生歓迎会の席であった。市の公会堂で行なわれた歓迎映画会で、「栄冠涙あり」の上映が始まって間もなく、暗がりにもぎれて観客席の学生にピラが配布された。ピラは「北大学生新聞号外」で、自治学生会創立準備会の名前で、「北大生に訴える」と題して、「文武会デーをきっかけに文武会をぶっ潰せ」と文武会批判を展開し、「貧困学生の授業料を免除せよ」、「自治会を作ろう」、「言論の自由に対する圧迫に反対しよう」、「研究の自由を守ろう」などと呼びかけた。

現在なら、単なる学校批判文書の配布で終わるところだが、この出来事を契機にかねて北大生の動向を内偵中であった特高や学生課が色めき立って動き出した。6月中旬から7月にかけて、北大生六十数名が検挙される騒ぎになったのである。北大における治安維持法違反事件としては最大規模のものである。

当時の新聞は「北大赤化事件」とセンセーショナルに報じたが、救仁郷繁が「北大文武会事件の回想」の中で述べるように、「第二次文武会事件」と呼ぶのが適切であろう。何故なら、学生への呼びかけの第一は「文武会の解体」であり、ピラを配布した学生たちの気持ちに即していえば、先の文武会事件で未解決に終わった、学内民主化闘争の延長でもあったからだ。

警察と検察の取調べが一段落した9月27日、首謀者と目

された降矢徳一、江口健三（農学部）、松田繁（工学部）、枝将（医学部）大内敏孝、高津清一（予科）の6名の起訴が決まった。新聞は6名を実名で報道した。後にこの6名は懲役2年執行猶予3年の判決を受けることになる。

### 空前の学生大量処分

官憲の取調べに並行して、釈放された学生に対し大学学生課の取調べも行なわれた。調査の中心は学生課長尾崎卓郎と課長補佐曾我孝之であった。学生課の取調べは検挙された六十数名のみならず、周辺にいた学生にも及び、総数200名近くが取調べを受け、反省の誓約書を提出させられたとも伝えられている。もしそうであるなら、北大生の一割近くにのぼる学生が取調べを受けたことになる。学生課はこれを契機に学内から左翼学生の根絶を狙ったらしい。

このときの学生課の調査結果が「昭和7年6月事件調査報告」である。筆者は最近その実物にお目にかかった。その中に、曾我課長補佐が考えた学内の学生処分原案がある。リストに上げられたのは農学部20名、工学部10名、医学部9名、予科23名、合計62名である。起訴された6名の学生は一位とされ、それぞれの学生を一位から五位までランク付けしてある。学生処分は起訴から一か月後の10月27日、大学から発表された。

「北大新聞」によると処分内容の詳細は次のようなものであった。

農学部、放學2名、停學1年4名、同6か月4名、同3か月4名、譴責2名、訓戒3名、工学部は放學1名、停學1

年1名、同6か月1名、譴責4名、訓戒3名、医学部は放  
学1名、停学1年1名、6か月2名、3か月2名、譴責1  
名、予科は除名2名、停学1年3名、6か月6名、3か月  
7名、譴責2名、訓戒一名。

起訴された6名は放学・除名という重い処分であった。

実は、この事件に関連して農学部2名、工学部1名、予科  
2名、合計5名の学生が秘密裏に諭旨退学になったという。  
これらを合わせると空前の大量処分であった。

起訴されて未決で苗穂刑務所に収監中の6人の学生の元  
にも大学から退学処分の通知が届いた。

### 処分学生に多数の寮生

大学から処分された予科生は23名。このうち、在寮した  
ことがある者が16名いる。これらの人たちを『恵迪寮史』  
に載っている寮生名簿（入寮日と退寮日も記載されている）  
で調査してみると、事件が起こった32年夏に在寮している  
生徒は少なくとも10名いることが分かった。予科のリー  
ダーと目され除名処分を受けた、大内敏孝、高津清一は事  
件当時退寮していたが、兩人とも過去に約2年間寮生活を  
送っていた。また、放学処分を受けた学部学生降矢徳一、  
江口健三、枝将も予科時代には寮で一時期過ごしている。  
ただ、活動の中心をなしていたこれらの人たちは、途中で  
退寮し下宿生活をしている。寮の共同生活が彼らの活動の  
足かせになると考え、寮を出たのかもしれない。

気になるのは、事件関係者で当時在寮していた生徒のう  
ち6名が32年10月27日付けで退寮し、その他の数名もこの  
前後に退寮していることである。10月27日というと大学の

処分が出された日であり、これらの学生は処分の一環とし  
て寮まで追い出されたのではないかと思われることであ  
る。学生たちが誇った自治寮とは、寮生の入退寮も学生が  
自主的に判断して運営して行くものであったはずだが、左  
翼学生の退寮は学生課の一方的命令によってなされたもの  
と思われる。恵迪寮の自治は半分死にかけていた。

すでに述べた32年4月19日のストーム事件の中心人物と  
にらまれた中津山正二もこの事件に連座し、学生課のラン  
ク付けでは2位となっている。そして、5月31日付で退寮  
したことになっている。いわゆる赤化事件に関連して予科  
生2名が密かに諭旨退学になったと報じられているが、そ  
の内の一人が中津山で、彼は二つの事件に関与したことを  
理由に諭旨退学させられた可能性が高い。

このほかストーム事件で処分された林、堀の二人がこの  
事件に関与していたかどうかは分からないが、9月に退寮  
となっている。これらのことを考え合わせると、新寮移転  
のとき学生課が寮の自治権を懸命になつて制限しようとし  
た意図も透けて見えるわけである。

### 瀕死の自治と寮生最後の抵抗

いわゆる北大赤化事件による大量学生処分により、学生  
課は恵迪寮には左翼学生の影は無いと豪語したといわれ  
る。しかし、新しい寮になつても左翼運動の火は消えたわ  
けではなく、この後も散発的ではあるが学生の抵抗は続く  
のである。一見バンカラ、野放図で無責任、ガリ勉を嫌い  
鈍才を自認していた寮生ではあったが、心の底では理不尽  
な権力の横暴に抗う反骨精神も持ち合わせていたのであ

る。

この頃から、寮生のささやかな抵抗にもかかわらず、大学の管理はますます強化されて行く。新寮に移って念願の自炊制が復活し、寮の自治が一步前進したかに見えたが、他方では、33（昭和8）年から記念祭（後に寮祭と呼ばれた）の部屋デコレーション（通称部屋デコ）に対する学生課や特高の検閲が始まった。また、この年の夏には、北大赤化事件で左翼学生に対して辣腕を振るった学生課課長補佐曾我孝之は予科教授に昇進し、恵迪寮の舎監として勤務することになった。これに反対する寮委員と学校の間で激しいやりとりがあつたが、結局曾我は予科の生徒係教授として寮に勤務することになり、寮生に睨みをきかすことになった。

さらに翌年から、新入生の入寮に大学当局が初めて口頭試問を導入した。寮委員はこれに猛烈に抵抗したので、最初のうちは口頭試問に委員の立会いと発言が認められたが、やがて発言は禁止となり、ついに寮の自治の要である入寮詮衡の権限も失うに至った。この年5月の記念祭の部屋デコ「美しき肉体の所有者」は、反戦思想であるとされ公開が禁止される騒ぎも起こった。

35年あたりから記念祭の街頭デモ（仮装パレード）にも警察からいろいろ制限が加えられ、ついに36年には二・二六事件で首都が戒厳下にあることを理由に中止させられた。また、曾我生徒係教授の就任以来、弊衣破帽、長髪、紋服着用、部屋の落書、ストーム等々、寮生活諸般についてやかましく規制されるようになった。

翌37年は第30回の記念祭であつたが、盛大に祝いたい学生に対して、大学や警察当局から様々な締め付けがあり開催が危ぶまれた。当時を回顧して穴戸昌夫はこう述べている。

「30回という節目で盛大に実施したいという企ては、漸く熾烈の度を加えてきた学校当局の締め付けや警察の圧力に縮小や変更を余儀なくされた。それでも、寮内の一般開放、各部屋の飾り付け、演劇上演は渋々許可した」。

街頭仮装パレードは、特高から圧力がかかり中止させられそうになったが、寮委員が粘りに粘つたがコースが大幅に変更させられた。市の中心部は駅前から3丁目通りを大通りまでと限定された。それでも、学生たちは大通りの永山將軍像の高い台座によじ登って、その周囲を狂喜乱舞した。また、寮生の楽しみの一つであるこの年秋の定山溪旅行は、時局にそぐわないと中止になり、経費を皇軍慰問のために献金した。

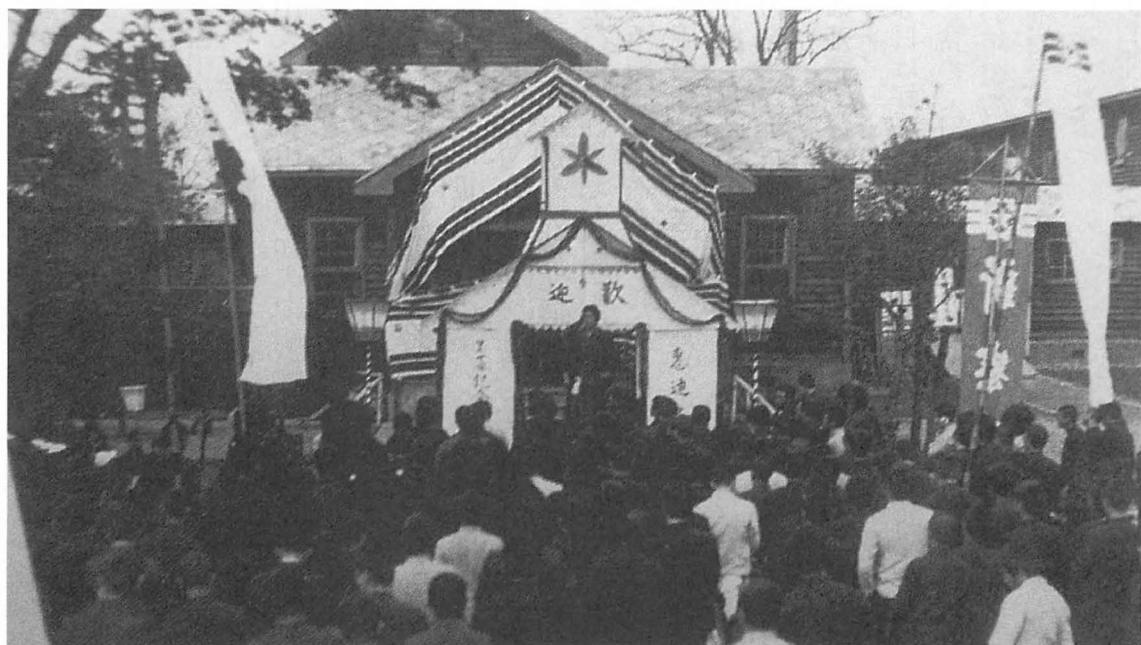
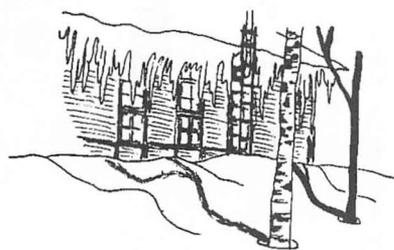
この第30回記念祭を最後に、翌年からは記念祭の公開も禁止され、名物の演劇上演も許されなくなった。39年10月、定山溪旅行に際し大学より余興の演劇の禁止が命じられた。寮委員はこの命令を無視して演劇の上演を強行した。

これに対し大学は中心人物九名を停学処分にした。寮祭の仮装パレードや部屋デコ、あるいは演劇などには、時局風刺や世相批判を取り上げるものが多かったので、大学はこれらを目の敵にした。学生の茶目っ気のきいた社会批判すら許されない時代の到来である。

そしてついに、太平洋戦争が始まる41年1月、寮生の選

挙による寮委員の選出が禁止されてしまった。委員は予科長の任命制となり、寮規約にある「自治」の言葉も使用禁止になり、ついに自治寮は死滅した。(以上は恵迪寮同窓会『青春の恵迪寮』、『恵迪寮史・第二巻』による)

(札幌市清田区)



戦前の恵迪寮史 第30回記念祭

## 昭和31年・32年入寮同期会

### 卒寮半世紀、合同同期会に54人

古川俊実

(S31年度入寮)

昭和31年度と翌32年度（1956―57年）入寮者の合同同期会が平成20年10月3日、千葉県船橋市のホテルで開催された。両年度の入寮者にとっては、卒寮から半世紀の節目だったが、その同期生たちに賛同参加者も加わって計54人が出席。青春の日々から古稀に至るまでの来し方を踏まえ、尽きぬ友情を確かめ合った。

まず檄文を300人へ

同期会の準備は、「集わんかな我らの人生回生のとき」と題する檄文を両年度の同期生300人へ発送することで本格化した。31年組・梶浦政男君が草した檄文は、戦争・疎開・空襲・飢餓・インフレ・列島改造・バブル・リストラ……という激動の時代を生き抜いてきたことを顧み、その労苦の跡を留める禿頭・入れ歯・白緑内障なども絡む顔のシワを認識しつつ、「自己が100%自己であり得た、かの自由・平等・博愛の恵迪寮時代の面影を互いに捜し当て、今後の我らの人生の回生を計ろう」と呼びかける達意の名文だった。

半年前から準備委論議

同期会の準備委員会は

〈31年組〉代表⇨前島一淑▽委員⇨石橋健・梶浦政男・桜庭慎吾・古川俊実

〈32年組〉代表⇨山中義正▽委員⇨工藤恭一・滋野三樹・関谷日出夫・長谷川久の10人で組織し、論議を重ねた。日程と会場は恵迪寮東日本支部寮歌祭と連動させて設定。次に名簿の整備にかかった。31年組は2年前の「入寮50年記念パーティー」開催時に作成したもののチェックで済むが、32年組は卒寮から半世紀ぶりの集いなので全容把握は容易でなかったが、何とかまとめて、檄文を同封した案内状発送にこぎつけた。送り先は北海道から沖縄まで全国に住む同期生全員に向けてで、「表記住所に該当者なし」と返送された分は再調査して送り直した。

やがて出席通知が返送され始めたが、返答のない分は電話での確認も重ねた。平行して当日の趣向についても検討。準備委の会合は半年間に6回を数えた。

当日は落語でスタート

10月3日は好天だった。参集したのは、札幌や佐渡からの出席を含め、31年組37人、32年組14人とともに、賛同者として33年組の松山哲三君と当時の寮務勤務だった西森（旧姓・河合）遼子・高橋（同・岩城）利喜江両女史も加わり54人に達した。

前段の目玉は落語一席。演者は、当代随一と評される柳

家小三治の門下で真打ち柳家一琴。古典落語に精進している新鋭だ。31年組・竹田邦雄君の子息とあって、首都圏在住の北大OBたちが後援に着手。6年前には、「エルム一琴会」を作り、今は32年組・工藤恭一君が世話役を務めている縁で、出演を快諾してくれた。

演目は「真田小僧」。縁日見物を背景に、次々と買い物をするねだるこましゃくれた息子と、それを拒む父親の会話の中に、親子の情愛が浮かび上がる内容。たっぷり30分の噺に大いに笑いながら出席者たちは、戦時下で父親との縁日見物などほとんど記憶にないそれぞれの少年時代を振り返り、また一琴君も年初めに73歳で逝った父への追悼の思いを込めた高座ではなかったろうか。噺の後は紙切りもサービスしてくれた。

### 乾杯・スピーチ・寮歌

宴は31年組・横山清君（恵迪同窓会長）が札幌から届けた清酒「都ぞ弥生」で杯を上げることから始まった。同期生たちの古稀に至るまでの奮闘を寿ぐ乾杯と、早世した寮友たちの冥福を祈っての献杯だった。

数人ずつのテーブルに分かれての歓談は往時の思い出から近況まで尽きない。その間、近作『治安維持法下の北大生の抵抗運動』著者・河野民雄君（31年組）らが次々立つてのスピーチと、31年組・前島一淑君作歌『花繚乱の』を含む数々の寮歌の唱和が展開された。

半世紀の時を超える宴の中に身を置きながら、私の胸では寮歌『別離の歌』の歌詞が通奏低音として響いていた。



「明日の宿居は知らねども 吾に友あり吾強し 降る苦難をともしせん……」。恵迪寮を去った後、寮友同士で物理的サポートをした例はそう多くないかも知れない。しかし、互いに掛け替えのない精神的支えになってきたことは誰もが認めるに違いない。それは、この日に出席できなかった寮友たちにも相通じることだろう。

宴が二次会、さらに泊り込み者同士の交歓へと続く中、若き日の絆の強さを改めて確認。そして同時に、この出会いを機に新たな生への魂の躍動が醸し出される集いとなった。

翌日は、希望者がサッポロビール千葉工場を見学して同期会の行事は終了。32年組・山中義正君が主宰する恵迪寮東日本支部の寮歌祭へ引き継がれた。

今回の催しをめぐる報告の結びに、31年組・手塚主於美君の作品を添えておこう。

半世紀経て集ひたる同期生

やがてたしかな記憶に呼び合ふ

(東京都江東区)



# 人物点描

河村 征治  
(S32年入寮)

## 工学を生かす者の大望

広井 勇 (農学校二期生)

広井勇は、1862年(文久9)に土佐藩士の陪臣広井喜一郎の長男として現在の高知県高岡市で生誕した。明治5年、11歳の時に土佐から上京し、13歳で東京外国語学校に入學する。その後、札幌農学校一期生として在學していた同郷の黒岩四方之進(作家・黒岩涙香の実兄)の影響もあつて農学校に進學することとなった。在學中に内村や新渡戸と同じくキリスト教に入信したことから、土木工学のホイラー教授の熱意溢れる思想にふれたことが人生を決めることとなった。主流の同期生が農學に進む中で広井は土木工学を選択した。同級生の藤田九三郎は応用工学に進み、二人は将来に熱い志をもつ

て豊平川の土手で語り合い、洋行の夢を持ち合つた。卒業と共に2人は開拓使御用掛として勤める。広井は卒業2年にしてミシシッピ川改良工事の技術者を募集しているのを知り、21歳にして在學中からケチといわれ貯えた少ない路銀を持つて渡米することとなった。藤田は開拓使の技術者として札幌から根室への道路開削の準備や物流の調査など開拓初期の労苦の最中に肺結核となり明治27年、35歳で逝去した。親友の死を胸に広井は工學者として大成してゆく。ちなみに新渡戸、内村、宮部の留学は1年後のことである。



広井 勇  
北大付属図書館蔵

広井はミシシッピでの仕事に精励するが、路銀を使い果たし働かなければならなくなり現地の鉄道会社や橋梁会社などを転々とし、実地に大きな工事に学び、工学の基礎を身に付けてゆく。彼はその研究をニューヨークのエッジモア社から『プレート・ガードル・コンストラクション』という論文として英文出版し、先進の米国人を驚嘆させ現地の教科書や参考書に使われることになった。広井はこれらの功績をもとに佐藤昌介(二期生)の勧めもあり、明治20年農学校工学科の開設にあたり助教として土木工学研究のため満3年間のドイツ留学をすることとなった。広井は明治22年留学を1年残して帰国し、工学科の主任教授に任ぜられ同時に道庁土木課長に就任する。32歳のときである。農学校工学科は七期をもつて明治30年に廃止になるが、広井は道庁に留まり仕事を続ける。既に道庁を去り農場を経営しつつ病床にあつた藤田が明治27年に没して

(二)

2年後、広井は青春の志を継ぐように函館港の改良調査に立ち、函館・小樽・室蘭で鉄路などの築港や鉄道敷設に従事した。

(三二)

この間、築堤に火山灰とセメントを混ぜるコンクリートブロックを大掛かりに使用し、『海水に対するセメントの耐久力』の百年調査に着手するが、15年目で果たせずに死亡し、京大の井上範教授に引き継いだ。明治32年に東大教授で、下関と門司間の鉄道架橋を依頼され設計したが反対し、海底トンネルが後に建設された。1911年(大正10)、上海港改良のため土木の権威者による国際会議が開かれたが、議題の中心は揚子江の25<sup>マイル</sup>にわたる浚渫であった。一人これに反対した広井は自ら調査しその暴論を撤回させている。『海洋の間断なき波力を動力に転化できないか』これが晩年の広井の夢であった。千葉県大東岬に別荘を構え数々の機械を据え実験を行っていた。しかし、その途上に狭心症で倒れ67歳で逝去

した。人はこれを『幻想的な大望』と称したが、現代にいたりこの実験は成功して実用に近づきつつある。

## 校歌に託した青春

有島 武郎 (農学校十九期生)

(一一)

有島武郎は1878年(明治11)、東京・小石川において、薩摩藩家臣から大蔵官吏になり後に大蔵省国債局長となった有島武の長男として誕生した。二妹四弟がおり、次弟は有島生馬、四弟は里見弴であり、いずれも時代を代表して活躍した。有島は幼児より体が弱かったため、学習院入学と共に寄宿舎に入り回復を心がけた。明治21年には皇太子の学友に選ばれ毎土曜日に吹上御苑に伺候した。18歳で学習院中等科を卒業するにあたり、腸チフス・肺炎・脚気などで何度も重病になるなど健康上も一進一退という状況だった。田園に住むことを考え、母方の遠縁にあたる新渡戸稲造を頼り札幌農学校に

進学することとなった。明治29年、有島は第十九期生として、農学校教授として札幌に在籍していた新渡戸の官舎に落ち着いた。北海道の自然は有島の心身に馴染んだようで、ここにおいて有島は健康を取り戻しつつあった。入学1年目で「永遠の幸朽ちざる誉 つねに我らがうえにあれ」と心ゆくばかりに農学校の青春賛歌である校歌を作詞した。また、北海道に渡る時に祖母から「宗教に心のよりどころを見つけない」といわれた如く、ススキノの中央寺に参禅したり、帰省した時に内村鑑三を訪ねたりした。明治33年有島は22歳でキリスト教に入信した。そして有島は遠友夜学校の教師として熱心にかかわるようになった。



有島 武郎  
北大付属図書館蔵

(二)

翌年、有島は卒業論文「鎌倉幕府初代の農政」を提出し農学校農業経済学科を卒業した。卒業と共に彼は1年間第一師団歩兵第三連隊に入営し、見習士官に任ぜられ退官する。その後の進路を内村に相談するが、「洋行無用」という。さらに当時台湾糖務局長の任にあった新渡戸を訪ねる。新渡戸は自らの体験を語ると共に台湾児玉総督と話し合い有島を皇太子輔育官に推選するが、有島はこれを断り洋行を決意する。明治36年、26歳の有島は親友で同期の森本厚吉と共にシアトルへ向かった。ペンシルバニア州ハーバード大学院に学び学士号を取ると共にハーバード大学院で経済と歴史を学ぶが飽きたら退学し、農業や精神病院で働いた。この間社会主義思想に魅力を感じボルチモアで森本厚吉と再会し同居しつつ遊学し、ヨーロッパを周りながら28歳で帰国した。

(三)

外遊を終えた有島は東北帝大農科

大学に英語教師として勤め予科教授に就任した。そして30歳で陸軍中將神戸光臣の二女安子と結婚し、長男行光（俳優森雅之）はじめ3人の男子の父親となった。有島は文化的で自由な校風を求め、文芸活動を組織し、また恵迪寮の自治や遠友夜学校に熱心に協力し、また自らの創作に励み、まさに札幌の生活を充実して過ごした。しかし、妻安子の結婚で札幌を去ることになった有島は1915年（大正4）に農科大学教授を辞職することになった。それから7年有島は白樺派の作家として武者小路実篤、志賀直哉、弟の里見弴などと共に中央文壇で活躍する。しかし、そのさ中に父と妻を失った有島は自らの狩太（ニセコ町）の農場450町歩を武者小路の「新しい村」のように69戸の小作人に与え、1年後の大正12年、雑誌記者・波多野秋子（当時30歳）と共に情死した。未完の青年・有島武郎45歳であった。有島の青春譜は未完の著『星座』にみるこ

とができる。

## ブラジルのシュバイツァ

今田 求（医学部一期生）

(一)

今田は1901年（明治34）、養蚕技術者の父の次男として札幌で生まれ、大正7年）北海道帝国大学に昇格と同時に新設された医学部一期生として札幌二中を経て入学・卒業した。長兄の今田敬一は父の札幌移住前に秋田で生まれ、札幌一中を経て東北帝大農科大学を卒業し北海道大学林学科の教授として活躍した。今田は大正15年卒業と同時に札幌市立病院及び幾春別炭鉱病院に勤務したが、昭和4年に外務省の派遣医師としてブラジルに渡るようになった。今日、ブラジルの日系人は教育水準も高く社会的階層として上位に位置し社会全体で活躍し、また数万人の日系ブラジル人三世が日本に働きに来るようになってきている。しかし今田が渡った時期は、日本人南米移民のピークにあり、日本での生活に見切りをつけて移民した人々であり、気

候・風土の違った土地での開拓と重労働の中で移民者は貧困と病に苦しんでいた。

## (二)

今田はそのような実状にあつて自らが先頭に立つてこれを担うべく決心し、改めて夫人を伴ってブラジルに船出することとなった。だが現地では医療を行うためにはブラジルの医師免許を必要とし、リオデジャネイロ医大やオスワルドクルーズ研究所に学び、1年にして免許を取得し現場の一線に立つことになる。当時の日本人はマラリアに対して無抵抗であり、90%が罹病するという状況下でバウルー潰瘍や酵母菌病などを含め熱帯病に熱意を燃やし入植地や無医村を駆け回る日々であつた。そして、困っている人があれば同等の立場で相談相手となり貧しい人には援助をし、お金をもらわずに治療することを惜しまなかつた。現地新聞は『今田さんは“医は仁術”そのままのお医者さんであつた。』と記した。また医療だけでなく音楽や絵画など文

化向上にもリーダーシップを発揮し、ノロエステやリンスの連合文化協会会長を務め、またアマゾンア移民援護協会を創立して無医村駐在保健衛生婦の養成に尽くした。

## (三)

終戦直後の日本は貧窮を極めていたが、今田は医学部同期の武田勝男や今田敬一(いずれも北大名誉教授)など札幌の知己に支援物資をブラジルから送り続けた。また戦後ブラジル国内で起きた“勝ち組・負け組”(日本は戦争に負けたあるいは勝つた)というグループに分かれて対立した)のトラブルに対し融和に心がけた。今田は青年の日の疾風怒濤のような活動から少しずつ解放される中で自らギターを爪弾いたという。今田敬一は「弟は中学時代にアカエゾマツの板を削って二つのギターを作り、一つは八弦にしてよくグループで演奏していた」と語っている。そのような日々の中今田はブラジルに渡り一度も帰国しないままに昭和45年、心臓発作で急逝した。亡くなる

1時間前まで診察していたという。ブラジルの邦字新聞はこぞって特集号を組み、「ブラジルのシユバイツァー逝く」と報じた。享年69歳、北大医学部一期生の生涯はまさに聖医であつた。

へ 脚白く 逆立ちとなる ハマ

ガラ蛟

マラリア研究の中で詠んだ句である。

## 山林から聞こえた音楽

伊福部 昭(林学実科三期生)

## (一)

伊福部は1914年(大正3)釧路の幣舞に生まれた。伊福部家は1300年続く氏族の末裔であり、文武天皇の代に伊福吉部徳足比売が大和の宮廷に仕え七位を賜った豪族であり伊福部昭は67代目にあたるという。徳足比売の墓跡には「伊福部家はしばしば因幡の国造に任ぜられた家柄」と標してある。伊福部の父は明治時代に北海道に来て音更村長を

務めたことがあり、一族が北海道に足跡を残すことになった。伊福部は札幌二中に入ったところからバイオリンを弾いており、中学時代から作曲にも興味をもっており、ベニス国際現代音楽祭で「ピアノ組曲」を発表している。昭和10年に林学実科を卒業した伊福部は宮内省の山林官として勤め、実地に林野を歩きつつ創作することが好きだったが、第二次世界大戦のさなか北大の林学教官に戻り、木製航空機用の『強化木』の研究に取り組んだが、終戦時には宮内省の林業試験場にいた。しかし間もなく病に倒れ静養のあと東京に出て音楽に専念することを決意し、昭和21年に上京した。

### (二)

上京すると同時に伊福部は森田たまの紹介により、東京芸大学長だった小宮山豊隆から講師として招かれ、管弦楽法の教鞭をとることとなった。アマチュアで独学であった伊福部の音楽に関する水準の高さを知るところである。そして昭和28年

には、20年がかりで完成させた『管弦楽法』（上下巻日本音楽之友社）を出版するに至った。作曲において伊福部は、パリ音楽祭において『日本狂詩曲』をもってチェレブニン賞を受賞しており、また谷口千吉監督『銀嶺の果て』から始まり、谷口と組んで数々の映画音楽を発表し、その後あまりにも有名な『ゴジラ』を始めとする多くを、文化映画を含め400本近くを発表するに至っている。大学講師として初期のころの教え子には、黛敏郎、芥川也寸志がいる。教師30年の昭和51年、伊福部は作曲家主任教授から東京音楽大学の学長に選ばれ、終生におよび学長として活躍することになる。

### (三)

伊福部は終戦直後に西欧から新しい音楽がどつと入ってくる中で、日本古来の音楽が低く見られる風潮の中で、『ヨーロッパ、イスラム、アジアの三大圏のそれぞれ異なる音楽に対等の価値を見いだし、その自覚の上に日本古来の音楽を根底から見直

すべきではないか』と主張してきた。東京音楽大学で民族音楽研究所を創設し、楽器や古典を収集し、これらを復元することに情熱を注いでいる。特に晩年に至り、北方民族の音楽の復元に自ら訳詩・訳曲することに余念がない。その一つギリヤーク族の古王吟誦歌を紹介しよう。

#### 熊祭に行く人を送る歌

ロコルーヤ ロコルーヤ

射人（いやびと）にえらべれし汝（なれ）よ

天甜酒（あまのたむさけ）くみて舞えや  
うたえや 舞えや うちあげ 遠別（とおつわかれ）のいでたちに

ロコルーヤ ロコルーヤ

ロコルーヤ ロコルーヤ

オロムユーラ ホノボーヤ

（作詩・訳曲 伊福部昭）

※ロコルーヤ「しつかりやってこい」

※オロムユーラ ホノボーヤ「さらば」

伊福部は平成20年、95歳で逝去した。

惠迪寮の文化財No.9

掛軸「亭、喬樹」

高井 宗宏（S31年入寮）

本軸は、「琢堂農人」という署名と「佐藤昌介」「琢堂」の二つの落款が押されて、北大初代総長 男爵 佐藤昌介先生の書であり、大正11年（壬戌）7月に昭和天皇が北大に行啓された際の感懐を七言絶句で表明している。なお、本軸は、鈴木信夫氏（昭和17年入寮）が惠迪寮同窓会に寄託されたもの。

摂政宮殿下（昭和天皇）は、大正11年7月12日に豊平館で昼食後に北大へ来駕され、正門からの道路両側に学生、林学講堂前に全教職員が整列して奉迎した。クラーク像前にあった中央講堂の御座所で総長が説明を行った後、水産講堂・農学講堂の標本等を視察されて北大への行啓が終了した。  
書の原文は、『亭、喬樹送涼風』

緩、清流繞津宮／師弟三千迎駕處／祥雲一帶翹蒼空／壬戌初夏 恭迎／鶴駕 琢堂農人（落款朱印）と書かれ、大意は『直立した高い木に涼風が流れ／緩やかな清流が津図浦々を流れ／北大入三千名が行啓をお迎えしている／蒼空を瑞雲が続々と湧き出て覆う／大正11年初夏／摂政宮殿下の行啓を謹んで迎える／北大総長男爵 佐藤昌介（琢堂農人）』と解される。なお、クラーク先生銅像に道路を挟んで立っている「聖跡」碑は、昭和11年の行幸を記念して作られたものである。

亭、喬樹送涼風  
緩、清流繞津宮  
師弟三千迎駕處  
祥雲一帶翹蒼空

壬戌初夏 宗宏

琢堂農人

高井



加を加速させる動きと供給の伸びを減速させる動きが幾つか重なって起こっています。

その要因の一つが毎年7000万人も増え続けている世界人口です。また、人は経済的に豊かになると、植物性の食糧だけでは飽きたらず、畜産物、食肉を摂取したい欲求が生まれます。畜産物を摂取するために大量の穀物が必要となり、食糧が不足する要因の一つでもあります。さらに、ここ2、3年、自動車の燃料用エタノールの生産で穀物需要が急増。とくに、穀物の輸出大国であるアメリカが燃料用エタノール生産で大量のトウモロコシを利用するため食用の穀物が不足する事態に陥っています。

環境負荷がかかります。これに加えて農作物を枯らす熱波、破壊力を増す暴風雨、アジアで乾期の水量維持に重要な役割を果たしてきた山岳地帯の氷河の融解などで、農作物の収穫量拡大が一段と厳しくなっています。

次に、人口問題、食糧生産の問題、地球温暖化、そして水に関する問題についてもう少し見てみましょう。

#### 地球人口 40年後90億人超

2008年10月の時点で67億2909万人だった地球人口が、来年の7月には68億人近くになると予想されます。国連統計の地域別の人口増加予想によると、1950年から2050年まで欧州、北米、オセアニアではほとんど増えず、アフリカが緩やかに増加するのに対し、圧倒的に増えていくのがアジア、インド、中東です。

世界人口の推移を見ると、2000年10月に60億人、06年2月に65億人を突破しています。今後の見通しは、25年に80億人、さらに50年に91

億人に達すると予測され、こうした人口増加をどう抑制していくかが、今後の食糧問題を考える上で重要なことです。

#### 8億人が飢餓状態

次に、増え続ける人口をどうやって養っていくかという問題を、現在の地球の実態から見していきます。

世界の主要穀物の生産量は、1999年から2006年までおおむね20億トから緩やかに上昇し、06年から07年にかけて22億トの穀物が生産されています。

これを需要面からみてみます。穀物ベース、つまり人が穀物のみで生きるるとすると、1日の必要カロリー量は2400兆（固形食物換算で600兆）になります。現在の地球人口を66億人とすると、14億ト強の穀物があれば全人口を養うことができます。計算です。

しかし、人間は肉類の摂取を好みます。1日の摂取エネルギーの3分の1にあたる800兆を畜産物で摂取すると仮定すると、100兆の鶏

肉を生産するのに必要な穀物は400<sup>g</sup>、豚肉は800<sup>g</sup>、牛肉は豚肉の倍の1・6キログラムが必要です。この3種類を均等に摂取すると仮定すれば、1人に付き933<sup>g</sup>、世界で約32億トの穀物が必要となります。逆算して20億トの穀物でどれだけの人口を養うことができるのでしょうか？ 穀物のみで全人口を養うなら約91億人が可能ですが、必要エネルギーの3分の1を3種類の畜産物を均等に摂取した場合は約41億人しか養うことができません。

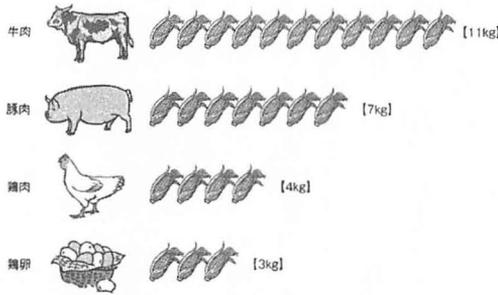


図 畜産物 1 kg に要する穀物量

国連食糧農業機関 (FAO) は現在、すでに8億人が飢餓状態にあると警告しています。

### 水と環境問題

地球レベルでの水不足は極めて深刻で重要な問題です。人間は石油なしで生きることは可能ですが、水がなければ生きていけません。地球上の表面の70%は水で、その97・5%が海水です。淡水は残り2・5%だけです。淡水の約70%は南極大陸やグリーンランドの氷で、残りのほとんどは土中の浅い地下水、あるいは地下深くの滞水層に存在する地下水です。したがって人間が直接利用できる水は、地球上すべての0・007%しかありません。湖、河川、貯水池、浅い地下の水が規則的に降雨と降雪により回復し、循環して持続的に利用可能な水資源になっています。

農業はかつては天水農業が主流でしたが、現在は世界的にもつばら灌漑農業に依存しています。「緑の革命」という言葉があります。この革命によるコメ増産への貢献度は実に

30%が灌漑によるものです。食糧増産を達成するために灌漑耕地を拡大していかなければなりません。灌漑用水に必要な地下水は、地層に閉じこめられた水の循環から孤立した帯水層の化石水といわれるものです。この化石水を過剰に揚水することで地下水の枯渇が大きな問題となっています。インドの灌漑用水の50%、中国の農業用水の80%が地下水です。また、大規模農業地帯であるアメリカ中西部のオガララ帯水層の地下水もどんどん低下し、近い将来、この帯水層が枯渇してしまうと、アメリカ中西部の農業は全滅する危険性が現実問題として懸念されています。

一方、氷河の融解もまた、地球温暖化の結果としてよく出てくる問題です。

これはスイスのヴァレー州アレッチ氷河融解の推移です。1979年、91年、2002年と、氷がなくなっていく様子が分かります。同様に北極海の氷河もどんどん融解が進み、

グリーンランドの解けた氷が海水面の上昇をもたらし、その速度は今まで考えられてきたレベルよりはるかに大きくなっています。

### 水を巡る争い激化

水に関するもう一つの要因として、仮想水というものが有ります。仮想水とは、食糧を生産するのにどれだけの水を使うかという指数で、東大の沖研究室の調べによると、風呂の満水を180リットルとしますと、牛丼一杯を作るのに10・5杯、1887リットルの水が必要です。このように食糧を生産するためには大量の水が必要で、食糧自給率39%の日本は、61%を輸入に依存しています。このことは単に食糧を輸入することに止まらず、同時にそれを生産するため必要な水を大量に輸入していることになります。

このような水を巡る関係から地球上の様々な場所で砂漠化が進んでいます。砂漠化を促進させる人間の様々な活動の一つに過放牧があります。植物の生産能力以上に家畜の放

牧飼育が行われることです。特にモンゴルの羊は草地をほとんど食べ尽くし、その結果草地は裸となり砂漠化し、黄砂となつて日本に飛来する状況が生まれています。

20世紀の戦争の主な原因は石油を巡る争いでしたが、21世紀の政治的社会的な争いは水を巡るものになるといわれています。

### トウモロコシ、燃料か食糧か

次に、バイオ燃料を巡る問題です。世界各国でバイオ燃料の普及を目指した取り組みが行われていますが、こうしたことが食糧問題を一層深刻化させています。

今年2月14日の報道によると、穀物在庫量は26年ぶりの低水準で、その大きな要因がバイオエタノールの原料にとうもろこしを利用していていることにあると指摘しています。

世界のエタノール生産量は、2000年以降急激に増えていきます。そして今後も増え続けるであろうと予測されています。アメリカのトウモロコシの消費内訳をみてみます。06年

時点では家畜飼料が半分、輸出が20%、エタノールが18%でしたが、エタノールの比率がどんどん増え、いずれ40%まで高めるといのがアメリカの政策です。

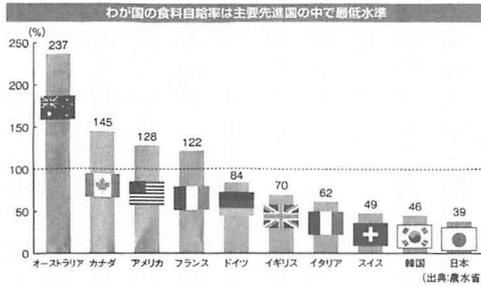
現段階ですでにトウモロコシの30%近くがエタノールの原料に回されていますが、その生産には大量の水が必要です。エタノール製造には、生産されるエタノールの約3倍の水が必要で、水資源の枯渇という観点からもバイオエタノールの生産には極めて大きな問題があるといえます。

アメリカのトウモロコシの消費はエタノール生産へ急激に拡大しています。これまではトウモロコシの生産量が消費量を上回っていましたが、エタノール生産に回されると日本へ輸入されるトウモロコシが少なくなり、日本の畜産はやっていけなくなり、世界的に見て穀物をエタノールの原料として使うのか、食糧として使うのかが問われています。つまり、ガソリンスタンドとスーパーマーケットがトウモロコシを奪

い合う時代が今まさにやってきているのです。

## 解決の方向

世界の食糧が危機にひんしているこうした状況に我々はどのように対応していくべきか、果たして克服できるのか考えたいと思います。従来のやり方では到底解決は不可能です。解決するには人口の増加をいかに抑制するか、あるいは燃料製造用穀物の使用制限、気候の安定化、地下水と帯水層の安定化、耕作地の保守と土壌保護のために技術開発など



先進国で最低水準の食料自給率

が必要で、食糧の安全保障は先進国が共同し、総力を挙げて取り組まねばならない課題です。しかし、今

年7月の洞爺湖サミットで解決の方向は見出せませんでした。

一方、我が国の食糧自給率は年々低下し、平成19年度にはついに39%です。

食糧自給率が低いのかかわらず、日本で食品廃棄物は約1900万ト、世界の食糧援助量600万トの3倍に相当します。飢餓の問題を世界レベルで見ると、8.5億人が栄養不足、そのうち96%が途上国の人々で、3.5億人が子供です。また、毎日2万4000人が餓死し、5秒ごとに子供1人が餓死しています。そういう中で日本は、大量の食糧を輸入し、想水の輸入量も極めて大きい。もう一つは、食糧が生産されてから消費するまでどれだけの距離か、エネルギーを使って運ばれるかを数字で表すフードマイレージの問題があります。食糧の輸入量が多いということはそれだけフードマイレージが大きく、我が国は地球環境に負の貢献をしていることになりました。

## 農学の新たな挑戦

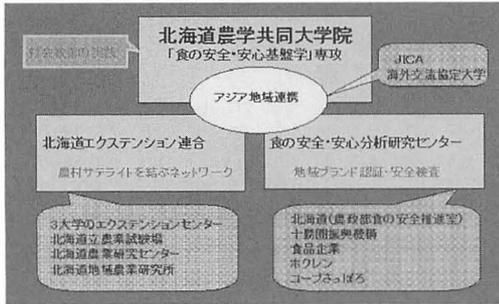
このような状況下で農学を教育、研究の対象としている我々はどうか。農学とは単に農業に関する学問や教育研究のみならず、環境も含めた人類の快適で健康を保障するための基盤総合科学です。食糧、資源、エネルギー、環境、地域文化など幅広い分野を包括します。こうした学問分野の教育・研究に対して責任を負うべき者達の集団として「全国農業系学部長会議」という組織があり、この10月、那覇市での総会で「農・食・環境の再生を目指して——農学の新たな挑戦——」という会議声明を採択しました。人類の生存基盤を確保するための学問に対する国の科学技術政策の姿勢があまりに低いことからこのような声明を採択したものです。

## 農学系3大学の連携

北海道大学農学部として今何をなすべきか？ 札幌農学校以来130年の歴史をもつ農学部が今後とも日本の食糧生産科学の担い手として、

安全安心な食糧を安定して供給するための教育・研究拠点を創りだしていくことは大きな課題です。

北大農学部は立地条件に極めて恵まれています。日本の食糧基地である北海道に位置し、全道を教育・研究のフィールドとすることができ、利点を生かし、自給率の向上、技術革新を通じて国際機関への支援、協力をして行こうと、この10月から道内の農学系3大学、北大農学部・帯広畜産大学・酪農学園大学が連携して地域拠点型農学エクステンション



10年後を見通した北海道「農」の大学間連携戦略

センターを創ろうとしていきます。その目指すところは、安全安心を確立するため、その基盤である農

業生産や地場型食品加工のあり方を問い直し、学生や社会人教育、さらに地域農業戦略を支援していかうというものです。そのために3大学と併せて道内8自治体と連携して取り組み、地域連携拠点型農学教育システムのネットワーク化を図ろうとするものです。

北大農学部は主として食の安全安心基盤学の確立、酪農学園大学は地域社会人教育コース、帯広畜産大学はセンター活動の発信と消費者や企業へのアピールなどを担います。

3大学が最も得意とするところを担当して北海道農業へ貢献し、10年後には北海道農学共同大学院を創ります。ここでは社会教育を実践し、同時にJICAを通じて海外交流協定大学と連携しつつアジア地域連携を進めていく。さらに北海道の8自治体をはじめ、全道の農業、農村、北海道農業試験場、農業研究センターなどと携えて北海道のエクステンション連合を創って北海道農業をいっそう発展させ、食の安全安心を

実現していく、さらに北海道のブランド認証、あるいは安全検査するための食の安全安心分析センターを創っていくというものです。

こうした活動を通じて何とか里山の自然、水田の保全保水、環境保護、あるいは稲作の推進、農地の確保、休耕地の再生を実現し、素晴らしい北海道を再生していくことが我々に課せられた任務であると考えています。

我々の大先輩、石塚喜明先生は次のように教えてくださいました。「国家のまもるべき基本的責任は国の独立を守ることと、国民を飢えさせないことにある」と。こう考えますと私どもの果たす使命は、国民を飢えさせないために技術革新と人材養成、そして知的財産を活用した普及活動と行政への提言であると考えています。さらにいっそう北海道農業、食糧の問題、さらには日本の、世界の食糧増産という課題に向け頑張っていきたいと思えます。長時間ご静聴ありがとうございます。

# 西日本大会リポート

恵迪DNAよ 永遠なれ

08年恵迪寮同窓会西日本大会 in 京都

伊藤 靖久

(S38年入寮)

はじめに

「恵迪寮」は命名されてから「歴史は旧りて百年」の時を刻んできました。一昨年9月22日、恵迪寮命名百年を祝う「恵迪百年記念祭」が行われ、素晴らしい様々な行事が北大キャンパスを中心に展開されました。中央ローンには、オールド寮生、現役寮生、市民の皆さんが相集い、「一万人の都ぞ弥生」の大合唱が大学の空にこだましました。これらのことは、会誌「恵迪」第8号に詳しく特集されていますが、数々の恵迪百年記念事業を通じて『恵迪遺伝子(DNA)』の存在を強く意識させられました。

当日、百年記念特別講演として平成19年度恵迪寮開識社講演会がクラーク会館大ホールで開かれました。藤田正一君(S38年入寮)が「新渡戸稲造を育てた札幌農学校」のテーマで講演しましたが、特に『恵迪DNA』のルーツをたどる意味で感銘深いものでした。改めて中村昭雄君(S41年入寮)取材の会誌第8号の講演要旨を読み返し、その感を強くしています。

私は、恵迪寮同窓会西日本支部幹事長を仰せつかってい

ますが、改めて同窓会活動の何たるかを強く考えさせられています。

創立25周年記念事業の一環として発行された「25年の歩み」によると、恵迪寮同窓会は、昭和58年3月18日に発足し、本年は創立26周年を迎えます。

「寮生と文部省及び大学当局との新しい学寮規則を巡っての闘争」、「老朽化した7学寮を統合した新寮建築に伴う恵迪寮廃寮」等々が大きな契機となって同窓会創設に至ったとあります。

私が入寮した頃は、まさに自主・独立の恵迪寮に歯止めをかけるべく文部省より持ち込まれた新学寮規則反対闘争の真ただ中でした。「歩み」を読むと、同窓会の創設は、筆述しがたい労苦の末の『恵迪DNA』の発露であったと思います。

『恵迪DNA』とはなんぞや？

ヒトのDNAは、四つの塩基と糖、リン酸が結合した二重らせん状からなっています。あたかもその暗号を基にリボ核酸からたんぱく質が作り出されたように藤田君の弁による、札幌農学校(恵迪寮)の中心核である①自由・自主・独立の精神②Be Ambitious③Be Gentlemanの三つの理念からなる『恵迪DNA』によって、恵迪たる精神が百年の歴史の中でつくり出されてきたと思います。

札幌農学校当時は、学生のほとんどが恵迪寮生でした。皆さんも『恵迪DNA』の持主であると思いますが、今では寮生が全学生の3%程度になっています。

DNAは環境で変わるともいわれ、長い時を経て『恵迪DNA』も変異していることでしょう。

現在の恵迪寮は、建物自体が旧恵迪寮とは大いに異なりますが、NHKで放映された「新日本紀行」ふたたびを見ても、単なる集団生活は送ってはならず、変異しているものの『恵迪DNA』を色濃く残していると感じます。

これからの恵迪同窓会は、札幌農学校イコール恵迪寮の時代から見てわずか3%になった北大の本来の『恵迪DNA』を刺激し、全学のものにしていく役割があると思います。そしてその芽はすでに出始めています。今や国公立大学は独立大学法人となり、アイデンティティーのない大学は忘れ去られていくといった現実の中で、有名私立大学においては強烈に大学創設者のPRを展開しています。それこそ正に大学の『DNA』を同窓生に知らしめている事に他ならないと思います。そして我が恵迪同窓会においても、



亀馬研究のスペシャリスト木村幸比古氏

その鍵を握るのは開識社にあるのではないかと思います。

佐藤昌介初代総長以来連綿と続く開識社。『恵迪DNA』を持つ卒業生が実社会の中で培った問題意識を開識社のテーマの中に展開していくこと素晴らしいと思います。

前置きのつもりが随分長くなりましたが、昨年、西日本支部の当番で開催した全国大会の報告をいたします。会場は今関西で一番人気のある京都を選びました。

#### 開識社講演会 坂本亀馬・蝦夷開発の夢

今回は、霊山歴史館見学及び歴史館の学芸課長の木村幸比古氏を講師に北海道にゆかりのあるテーマ「坂本亀馬と蝦夷地開発の夢」を講演してもらいました。なぜ、霊山歴史館（事務局長・佐藤等氏、S49年法卒）なのかはさて置き、結果的には大変興味深い話を聞かせていただきました。

霊山歴史館は、明治元年5月10日付の太政官布告「嘉永6年（1853）以降国事に斃れた幕末維新の志士たちの諸霊を京都東山に祀るよう」を受け、東山に各藩が招魂社を建立しました。霊山招魂社は国費で祭祀・営繕が行われていました。明治100年に当たる昭和43年に霊山顕彰会となり、この会により聖域（霊山歴史館の向かいの山に維新の志士約3100柱が合祀され、内墓碑の確認が出来る368柱を含む領域）の整備が進められ、現在に至っているそうです。

坂本龍馬は、28歳で土佐藩を脱藩し、33歳で京都近江屋新助宅で暗殺されるまでわずか5年間に福井、京都、下関、熊本、長崎など西へ東へ、北へ南へと、実に多くの旅をし

ました。多くの人（勝海舟、島田魁、ジョン万次郎、永倉新八、松平春嶽等々）と親交を結び、様々な人との出会いの中で、いろんな知恵、考え方を吸収して行動力を高めていったそうです。

龍馬が暗殺される直前、慶応3年（1867）3月、長府藩士印籐<sup>のぶる</sup>幸宛ての直筆書簡の中に「蝦夷に新国を開くことは積年の思い、一生の思い出、一人になってもやり遂げるつもりだ」と熱い思いが綴られているそうです。

龍馬の蝦夷地開発の考えのなかには様々な思惑が含まれていたようです。

①都に溢れている浪人に働く場を提供する。そのことは京都の治安維持にもつながる②外国から狙われている日本を守る事にも繋がり、国家の為にもなる③蝦夷には色々な産物があり、それらを大都市で売れば儲ける事が出来る……など。

海援隊を率い、船も操れる彼は色々な人から意見を聴き、思いつきではなく、用意周到の人でもあったようです。

その思いが通じたのか、龍馬の甥・直寛は明治31年、開拓会社「北興社」を設立、坂本家挙げて土佐から北海道浦臼町に移住しています。直寛を祖父に持つ直行は、北大農学部出身で、山岳部でも活躍。卒業後の昭和2年に十勝原野で開拓農民となり、絵が上手く、農民画家と呼ばれています。何か奇遇を感じます。札幌市中央区の円山に坂本家の墓地があるそうです。

再来年のNHK大河ドラマが「龍馬伝」に決まったそうですが、期待したいものです。

## 大寮歌祭及び懇親会

大寮歌祭とはいえ、静かなスタートで、と用意した大会実行委員会の長老・柏木博君（S13年入寮）のイントロダクションである「ご挨拶」は、ゆったりとしたオープニングの話になるかと思いきや、いきなり「乾杯！」で始まりました。乾杯の音頭は、他の人にお願ひしていましたが、「ま、いいか。何度でも乾杯したらいい」と思い直し、式はスムーズに進行していきました。

ご来賓の三団体（関西同窓会、札幌農学振興会関西支部、京都エルム会）のトップの皆さんからご挨拶を頂いた後、白浜憲一代表幹事の乾杯で懇親会に移り、本部から持ち込まれた北の普酒造の吟醸純米酒「都ぞ弥生」12本が披露されました。看板寮歌を冠した名酒は大人気で瞬く間にはけいきました。「おいおい！ 飲み放題のホテルのアルコールも頼むぞ！」と、ついつい叫びたくもなりました。

時は好し、仕込みの弦は引き絞られ、「ドンドンドンドン、ドーン」と太鼓の音が響き渡ります。札幌農学校校歌「うおー」という合いの手で、有島武郎君作歌、大和田建樹校歌「永遠の幸」、壇上に駆け上がった有志の「えいえんのさち」と長々と引つ張る蛮声にあわせ、「ううおー」、「アイン ツバイ ドライ」、「ドンドンドン」……お決まりの寮歌の始まりです。ホテルのウェーター、ウェイトレスの皆さんも目を白黒させています。一つが終わる間もなく、次のグループが壇上に上がり、指名など全く必要なし。平成の寮歌も登場、作曲者の長谷川健君（H7年入寮）が高唱してくれました。いつの間にかテーブルごとの歌合戦と

なり、入寮年次ごとにテーブル席を用意したねらいが当たったようです。

宿泊の外人客もめずらしそうに会場をのぞいていました。北は札幌から南は沖縄まで、さらに、昭和13年入寮から平成8年入寮まで、寮外生も含め、実に多彩な方々に参加していただきました。ここに紙上を借りて厚く御礼申し上げます。

宴の締めは、もちろんのこと「都ぞ弥生」の大合唱。

1番から5番まで息もぴったり、北大生及び恵迪寮生の絆を強く感じさせる素晴らしい合唱でした。「都ぞ弥生」で会を締めたはずだったのに、「札幌農学校は蝦夷が島々」のストームの歌まで飛び出し、万雷の拍手の中でや々と大団円。ホテルの従業員の皆さん、びっくりさせてごめんなさい。またの機会も宜しく願います。

この後、希望者のみでしたが、参加者の半数以上の方々が二次会会場の祇園料亭「中村楼」へと繰り出していききました。

(兵庫県宝塚市)



紅一点、瀬上さんも大熱唱

# 2009年恵迪寮同窓会東日本大会 ご案内

## 麦酒の原点エビスに集い、寮歌を謳わん

平成21年度は、3年に一度の東日本大会が開催されます。

今回の東日本大会は、帝都東京のビール発祥の地、恵比寿ガーデンプレイス内『ビアステーション』での開催を予定しております。

併せて、明治9年(1876)にクラーク博士の提唱により札幌農学校第1期生らが組織した開識社の伝統を継承し、講演会を行います。

この講演会は学外者へも公開し、修得した知識の発表、意見交換を通じて知力の向上と親睦を図るものです。

Komm, Seele, durch Leiden zur Freude zu gehen!

来たれ、魂よ、苦悩を突き抜けて歓喜に至れ!

《カンタータ BWV152》

さあ、寮友(ともどち)よ、明治23年(1890)、サッポロビールの前身である日本麦酒醸造会社にドイツ人技師カール・カイザーを招聘して醸造された伝統ある麦芽100%のエビスビールを堪能しながら、心の記念(かたみ)を永久(とわ)に謳おうではありませんか。

恵迪寮同窓会東日本支部長 山中 義正(S32年入寮)

## 【ご案内】

### 1. 開識社

■日時：平成21年10月3日(土) 12時30分開場

13時00分開始(約60分)

■会場：恵比寿ガーデンプレイスタワー 4階スペース6

東京都渋谷区恵比寿4-20-3 TEL 03-5423-7113

■定員：32名

■講演者：東京海洋大学海洋科学部海洋環境学科

海洋生物学講座鯨類学研究室教授

水産学博士 加藤 秀弘氏(S46年入寮)

■演題：「混迷する国際捕鯨状況と千島捕鯨の興亡」

■内容：鯨類資源の持続的利用を巡り刻々と変貌する国際捕鯨状況と膠着するIWC国際捕鯨委員会の実情、さらに我が国のとるべき戦略を述べる。また、我が国の近代捕鯨成立に貢献した千島捕鯨史の興亡を眺める。

■会費：無料

■主催：北海道大学恵迪寮同窓会東日本支部

### 2. 東日本支部総会、恵迪寮大寮歌祭

■日時：平成21年10月3日(土) 13時30分開場

14時30分～17時30分

■会場：恵比寿ガーデンプレイス 『ビアステーション』 2階ホール

東京都渋谷区恵比寿4-20-3 TEL 03-3442-9731

- 会 費：ご本人 7,000 円  
 同伴（女性及び中学生以上） 3,500 円  
 同伴（小学生未満） 無料

■問合せ先：〒176-0021  
 東京都練馬区貫井 4-47-42  
 副支部長 関口 光雄（S 39 年入寮）  
 E-mail：jubesannchinoko@ybb.ne.jp  
 Tel/Fax 03-3926-0080

恵比寿ガーデンプレイスへは、JR 恵比寿駅、もしくは日比谷線恵比寿駅をご利用いただくと大変便利です。

JR 恵比寿駅東口からは動く通路「恵比寿スカイウォーク」で約 5 分。

雨の日でも傘なしで濡れずにアクセスできます。



## 【式 次 第】

### 第 1 部 開識社

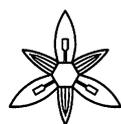
- 12：30 恵比寿ガーデンプレイスタワー 4階スペース 6 入場開始  
 13：00 講演「混迷する国際捕鯨情勢と千島捕鯨の興亡」  
 講師：東京海洋大学海洋科学部教授 加藤 秀弘氏  
 14：10 恵比寿ガーデンプレイス『ピアステーション』 2階ホールへ移動

### 第 2 部 総会および大寮歌祭

- 13：30 恵比寿ガーデンプレイス『ピアステーション』 2階ホール受付開始  
 14：30 東日本支部総会  
 事業報告、決算報告、役員改選（第 11 期）  
 14：45 大寮歌祭  
 17：45 閉会



# 恵迪寮同窓会通信



事務所：〒064-8610 札幌市中央区南13条西1丁目

（樹）アーキクス気付

電話兼FAX(011)530-1186

vol. 25

## 恵迪寮同窓会第11期第3年次理事会報告

平成21年4月25日(土)16:00～18:30、札幌パークホテルにおいて恵迪寮同窓会第11期第3年次理事会が開催されました。翌日早朝に季節外れの雪が舞うような寒い一日ではありませんでしたが、東日本支部、西日本支部、旭川、苫小牧からの参加者を含め22名の出席をいただきました。

横山会長の「昨年加盟したばかりの北大連合同窓会の中における恵迪寮同窓会の存在意義は益々重要になっていく」とのご挨拶に引き続き活発な意見交換がなされました。3年後の「都ぞ弥生」生誕100年記念に向けての取り組みを開始すること、北海道開拓の村「恵迪寮舎」展示補修・追加事業の実行、今年の恵比寿「東日本大会」の成功、会員増強のため「〇〇恵迪会」を立ち上げることなど今年次の活動目標を明確にして精力的な活動を展開する意志統一ができました。

本理事会に提案された主要議案に基づきその討論と決議などを報告いたします。なお、紙面の都合上、主要議案に限った掲載となることをご了承ください。

### 【恵迪寮同窓会役員（平成21年4月現在）】

○名誉会長 繁富一雄（S6、元会長）、中瀬篤信（S26、前会長）

○会長 ※横山清（S31）

○副会長 ※高井宗宏（S31、会長代行）、※厚谷純吉（S30、北海道支部相談役）、※山中義正（S32、東日本支部長）、窪田開拓（S32、西日本支部長）

○会計監査 ※大西徹（S30）、※小笠原孝之（S31）

○本部長 【北海道支部】山崎克彦（S32）、※和孝雄（S32）、※魚山和春（S39）、※千川治（S40）、山田浄二（S41）【東日本支部】※関口光雄（S39）、坂倉雅夫（S44）、佐藤文雄（S47）、荒木隆夫（S49）、竹下忠彦（S53）【西日本支部】※間中俊夫（S33）、※伊藤靖久（S38）、入江和彦（S41）、岩井隆郎（S51）、※植松高志（S44）

○代表幹事 ※白浜憲一（S40、広報）

○副代表幹事 ※新井三郎（S32、事業）、※氏平増之（S38、名簿）、※皆川吉郎（S43、会計）

○常任幹事 高橋陽一（S30、現寮担当）、※大隈昭二（S40、「恵迪」編集長）

○幹事 ※八重樫幸一（S41）、木村正博（S41）、※谷口哲也（S48）、今村康弘（H5）

○事務局 ※佐藤静子（ラルズ）、※渊上玲子（H8）

●本部理事補充者(1名)・・規約第7条 理事は会長が指名する。 ※は出席者 22名

西日本支部推薦(植松高志(S44))

【第1号議案】第11期第2年次事業・決算報告

1. 第11期第2年次事業報告

① 会議の開催

i 第11期第2年次理事会・・平成20年4月26日(土)札幌  
パークホテル

ii 本部役員会・・4/20、8/11、3/20

② 恵迪寮同窓会創立25周年記念事業

i 特別功労者の表彰と記念品贈呈

特別功労者は、佐山峻(S25)、石上勇(S25)、中瀬篤信(S26)、井口光雄(S28)、岡部賢二(S29)、篠原猛(S29)の6氏。贈呈品は、アポイ岳の橄欖岩に「都ぞ弥生」歌詞を掘り込んだ花瓶。西日本大会会場で岡部賢二君、篠原猛君に贈呈。他は送呈。

ii 「恵迪寮同窓会25年の歩み」の発行

③ 会誌「恵迪」第8号発行

i 6月中旬発行、141頁、発行部数は2200部

④ 現寮支援・交流の活性化

i 第100回恵迪寮祭「寮歌祭」参加、紅白幕奇贈、差し入れ

ii 第100回恵迪寮祭記念「寮舎壁画」完成セレモ

ニ参加(3/29)

⑤ 会員増強活動

i メールアドレスの収集と配信(11/1開識社、1/24「寮歌始めの会」案内)で数名の会員獲得。

ii 「入会のしおり」制作

⑥ 記念グッズ販売 第2年次総売り上げ 105万690円(予算対比+50万円、決算書)

⑦ 全国3支部の活動(第6号議案)

2. 第11期第2年次決算報告と監査報告

① 平成20年度決算について↓理事会承認

② 平成20年度決算監査報告について↓理事会承認

【第2号議案】支部交付金の配分

<平成21年度支部交付金>

支部名	平成20年度会費の納入内訳		交付金 算定額 50%(千円)	平成21年度 支部交付金 (千円)
	年度会費			
	人数(人)	金額(千円)		
北海道	68	205	103	103
東日本	90	276	138	138
西日本	62	189	95	100
その他				
計	220	670	336	341

平成 20 年度決算書

(平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

	(予 算)	(決 算)	(対 比)
収入合計	4,379,000	4,309,221	-69,779
支出合計	3,199,000	3,382,357	183,357
次期繰越金	1,180,000	926,864	-253,136

<収入の部>

(単位 円)

科 目	20 年度予算 (A)	決 算 (B)	対 比 C = B - A	備 考
1. 会費収入				
年度会費収入	600,000	670,000	70,000	220 名
運営支援資金	600,000	503,000	-97,000	218 名
終身会費収入				
カンパ収入	250,000	221,875	-28,125	66 名
小 計	1,450,000	1,394,875	-55,125	
2. 事業収入				
恵迪グッズ販売収入	600,000	1,065,390	465,390	
「恵迪」販売収入				
広告収入	1,000,000	535,000	-465,000	
雑 収 入	19,419	5,500	-13,919	
小 計	1,619,419	1,605,890	-13,529	
3. 利息収入	25,000	23,875	-1,125	
4. 前期★繰越金	1,284,581	1,284,581		
収入合計(B)	4,379,000	4,309,221	-69,779	

<支出の部>

科 目	20 年度予算 (A)	決 算 (B)	対 比 C = B - A	備 考
1. 運営費				
事務局費	240,000	240,000		
会議費	400,000	528,666	128,666	
通信費	250,000	105,197	-144,803	
印刷費	50,000	68,250	18,250	25 年の歩み
組織強化費	300,000	239,340	-60,660	
雑 費	100,000	367,224	267,224	25 周年記念特別功労表彰
小 計	1,340,000	1,548,677	208,677	
2. 事業費				
恵迪発行関係費	1,400,000	1,348,380	-51,620	
同窓会名簿発行費	50,000		-50,000	
同窓会名簿発行費				
同窓会通信関係費				
現 察 関 係 費	50,000		-50,000	
總會・寮歌祭費				
支部交付金	359,000	479,000	120,000	百年記念企業協賛金返戻
恵迪グッズ制作費		6,300	6,300	
小 計	1,859,000	1,833,680	-25,320	
3. 予備費				
支出合計(D)	3,199,000	3,382,357	183,357	

平成 21 年度収支予算書

(平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

収入合計 3,402,700

支出合計 3,381,000

次年度繰越額 21,700

<収入の部>

(単位 円)

科 目	20 年度予算 (A)	21 年度予算 (B)	対 21 年度対比 C = B - A	備 考
1. 会費収入				
年度会費収入	600,000	600,000		200 名×3,000 円
運営支援資金	600,000	600,000		300 名×2,000 円
終身会費収入				
カンパ収入	250,000	250,000		
小 計	1,450,000	1,450,000		
2. 事業収入				
恵迪グッズ販売収入	600,000	400,000	-200,000	事業計画 (売上 1,000 千円×40%)
「恵迪」販売収入				
広告収入	1,000,000	600,000	-400,000	
雑収入	19,419	836	-18,583	
小 計	1,619,419	1,000,836	-618,583	
3. 利息収入	25,000	25,000		
4. 前期繰越金	1,284,581	926,864	-357,717	
収入合計(B)	4,379,000	3,402,700	-976,300	

<支出の部>

科 目	19 年度予算 (A)	20 年度予算 (B)	対 19 年度対比 C = B - A	備 考
1. 運営費				
事務局費	240,000	240,000		
会議費	400,000	400,000		
通信費	250,000	250,000		
印刷費	50,000	50,000		
組織強化費	300,000	300,000		県・ブロック恵迪会
雑費	100,000	100,000		
小 計	1,340,000	1,340,000		
2. 事業費				
恵迪発行関係費	1,400,000	1,400,000		
同窓会名簿発行費	50,000	50,000		発行等打合せ
同窓会通信関係費				恵迪 9 号に統合
現察関係費	50,000	50,000		
支部交付金	359,000	341,000	-18,000	
恵迪グッズ制作費				
創立 25 周年記念事業費		200,000		開拓の村「寮舎」展示補修等
小 計	1,859,000	2,041,000	-18,000	
3. 予備費				
支出合計(D)	3,199,000	3,381,000	-18,000	

【第3号議案】 第11期第3年次事業計画と予算案

1. 第11期第3年次事業計画（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

① 第11期第3年次理事会開催…平成21年4月25日(土)

札幌パークホテル

② 役員会開催…随時

③ 各担当部会開催…随時

④ 「〇〇都・府・県恵迪会」又は「〇〇ブロック恵迪会」の結成

・恵迪寮同窓会創立30周年（2013年）までに、東日本・西日本支部の全国の都府県又ブロックに「恵迪会」を立ち上げる

・そのための組織強化費として、特別予算を組む。↓第2年次は北海道支部に10万円執行

⑤ 恵迪寮同窓会創立25周年記念事業 開拓の村「寮舎」展示の補修（第4号議案）

⑥ 会誌「恵迪」第9号刊行…6月発行予定、100頁、2200部

・進捗状況…印刷・製本は㈱アイワードに発注、見積もりは90万円、100頁編成

・発送までのスケジュール…原稿締め切り3月31日↓最終校了5月25日↓印刷6月初旬↓発行6月中旬

⑦ 「同窓名簿」について

・名簿クリーニング…「恵迪」第8号返送分、都道府県別ファイル作成（マップ仕様）、若年層の住所不明者

を減らす。

・「同窓名簿」改訂については、会の財政事情及び個人情報保護法の関係から作成を見合わせる。いつでも発行できるよう本部事務局での情報更新を継続し、会員情報は本部事務局に問い合わせる。↓年度当初に各支部に会費納入状況を告知することを承認

⑧ 同窓会ホームページとメールアドレス収集

・HPアクセス数 1年間で約7500件・「談話室」

の活性化など、より多くの訪問者が楽しめる工夫・情報の更新性を高め、会員増強のツールとして有効に活用する。同窓会ホームページの存在の周知

・同窓会メールアドレスの変更（迷惑メール対策） 新アドレス…info@ketteki-ob.jp

⑨ 記念グッズ販売

・会員増強による年会費・組織運営費の増大を基本としつつ、恵迪百年記念グッズ（CD「都ぞ弥生」・ポストカード、記念オルゴール）の販売を組織的に展開し、同窓会財政基盤の強化・健全化を図る。

・販売ルート

・北大エルムプロジェクト…掛け率70%、買取り方式、生協会館店と構内エルムの森ショップ

・北海道、東日本、西日本支部…掛け率40%、買取り方式に変更

・恵迪寮同窓会本部…TEL&FAX、E-mail、北海

- 道開拓記念館・開拓の村、「つる」
  - 第3年次総売り上げ目標 40万円
- 〔第2年次実績〕

- ・エルムプロジェクト扱い CD 290枚、4万6000円 PC 250枚、8万7500円
- ・3支部扱い CD 64枚、7万6800円 PC 84枚、2万5200円
- ・同窓会本部扱い CD 48枚、9万6000円 P C 210枚、7万5000円
- ・オルゴール 6個、24万円
- ⑩ 恵迪寮同窓会文化財展示寄贈
  - ・高井副会長を中心に北大と粘り強く交渉する。
- ⑪ 現恵迪寮生支援・交流の活性化
  - ・北海道支部との連携により、「観桜会」、「恵迪寮祭」などにおいて支援・交流を図る。また、北海道支部主催の「第10回開識社」に恵迪寮生の参加を促進する。

## 2. 第11期第3年次予算案

- ① 第11期第3年次予算案↓理事会承認
- ② 会費の徴収方法について、金融機関の「口座振替」導入を検討する↓継続案件
- ③ 終身会員からの「運営支援金」徴収強化について↓継続案件

## 〔第4号議案〕創立25周年記念事業 開拓の村「寮舎」展示の補修等

1. 開拓の村「寮舎」展示の補修
  - ① 「寮舎」展示の現状
    - ・経年変化→S58年寄贈、S60一般公開、H10本会創立15周年展示充実強化
    - ・老朽化→正面玄関板張り補修、直射日光が当たる展示物、プリント掲載写真類
  - ② 開拓の村の意向
    - ・「原ファイルが開拓の村にはないので、修復の方法がない。何とかして頂きたい」、「全てを同窓会に負担して頂くつもりはないので、村と打ち合わせつつ改装したい」
  - ③ 現代ビューロー（展示担当）の状況
    - ・現代ビューローは2年前解散、完成5年未満の展示原稿や版下類は保存。原ファイルはないと思われる。展示物制作に関する同社の著作権・利権については問題がないことは確認済。
  - ④ 「寮舎」下見と打ち合わせ
    - ・4月9日 厚谷、高井、白浜が「寮舎」下見、北海道開拓記念会館と打ち合わせ。
    - ・4月15日 高井副会長、開拓の村、記念館、MFシステム、乃村工藝社で打ち合わせ。
  - ⑤ 緊急対策（常時公開中のため現状復帰の修理調整）
    - ・ビデオ再生装置修理…故障の主因はレーザーディスク

クドライブ（業務用）のメンテナンス欠如。修理費用13万6500円、再修理不可、一年以内保証の応急処置。

・寮歌再生装置修理…故障の主因はMDDドライブのメンテナンス欠如。修理費用6万375円、応急処置。  
4月22日 音声システム、映像システムの修理品設置、動作確認し修理完了し復元

## ⑥ 恒久対策

・ビデオ再生装置…全装置を最新のデジタル装置化して再構成する。LDを原型として、その後の記録（百年記念祭など）を追加し編集する。  
・寮歌再生装置…全装置を最新のデジタル装置化して再構成する。百年記念CDに変更。  
・壁面展示…新規にデザインして新しくパネルを作る。本会が文と写真などを揃えて制作。  
・人物写真の退色…本会が寮歌作詞作曲者写真を探し制作する。

・「北寮」の幟…本会が幟を新規作成する。

・応援団の挑戦状…本会が応援団などに交渉して代替品を探す。

↓乃村工藝社より、総額163万円の見積書が理事会に提出されました。これに基づく討論の結果、基金を取り崩して、映像・音声再生装置を最新のデジタル装置に切り替え、映像はS58年以降の内容を加え全面リニューアルし、また音声は百年記念事業で制作したCD「都ぞ弥生」とし、寮舎展示は全面的に

補修・追加することを決定しました。

そのため、開拓の村恵迪寮舎展示「実行委員会を結成し、展示の補修・追加内容を検討する。」

## 2. 百年記念寄贈「花壇」の状況

恵迪百年記念寄贈「花壇」は、開花に数年かかると思われましたが、昨年春・初夏に全種開花。キバナノアマナは5月中旬、エンレイソウとクロユリは5月下旬が見ごろ。

## 3. 恵迪寮食堂のドンブリ

北海道大学埋蔵文化財調査室 遠部慎おんべ氏が工事のため旧恵迪寮跡地（現自動車部付近）を発掘調査。発掘したドンブリ（「国民食器」？）の使用期間や更新・処分方法問い合わせ。

## 【第5号議案】「都ぞ弥生」生誕100年記念事業と行事

### 1. 記念事業と行事について

① 3年後の2012年に「都ぞ弥生」生誕100年を記念し、記念事業と記念行事を実施する。恵迪百年記念取り組みの経験を生かして、同窓会活動の一層の活性化、組織強化、財政強化を図る。

② 札幌で本部主催の記念行事を開催する。行事内容及び開催時期については、2012年「大寮歌祭」主管の東日本支部、現恵迪寮、北大との連携・意見交換により決定する。

- ③ 記念事業について、イメージ・企画を練る。  
④ 記念事業と記念行事の規模との関係で、募金活動をするか否か。

## 2. 実行委員会について

記念事業と記念行事の内容により、必要に応じて「都ぞ弥生」生誕 100年記念実行委員会を結成する。

【第6号議案】平成21年「大寮歌祭」（東日本支部主管）  
↓詳細は別掲載

## 1. 開識社

日時…平成21年10月3日(土)12:30開場 13:00開始  
(約60分)

会場…恵比寿ガーデンプレイスタワー（渋谷区恵比寿4-20-3）

講演者…東京海洋大学海洋科学部海洋環境学科 海洋生

物講座鯨類学研究室教授 水産学博士 加藤

秀弘（昭和46年入寮）

演題…「混迷する国際捕鯨情勢と北千島捕鯨の興亡」

会費…無料

主催…北海道大学恵迪寮同窓会東日本支部

## 2. 東日本大会、恵迪寮大寮歌祭

日時…平成21年10月3日(土)14:30～17:30

会場…恵比寿ガーデンプレイス「ビアステーション」

2Fホール（渋谷区恵比寿4-20-3）

会費…本人 7000円

同伴（女性及び中学生以上） 3500円

【第7号議案】恵迪寮同窓会3支部の活動報告と活動計画  
↓支部ニュースへ

【第8号議案】その他

## 1. 寮歌制定100年の「ギネスブック」登録

岡村成就君（S29）が「寮歌を100年も制定し続けている組織はない。同窓会として登録の手続きをして欲しい」と提案。理事会も趣旨に賛同し手続きの調査を開始することに決定。

## 2. 若手幹事の発掘

白浜代表幹事が「全国同窓会幹事の世代の特徴」資料を提出し、会を挙げて若手幹事の発掘に取り組むことを確認した。

# 東日本支部ニュース

## ①平成20年度活動報告

平成20年10月4日(土)、千葉県船橋市・船橋グランドホテルにて、千葉県エルム会高橋会長にご出席いただき約70名の参加者を得て「2008年大寮歌祭 in 千葉」を開催した。この寮歌祭は、当支部の受持ち地域内(北は青森から西は新潟、長野、静岡)の同窓会との交流・結束固めの趣旨のもと、東京以外の地域への出張活動の一環として行ったものである。前日には同船橋グランドホテルで31・32年恵迪寮入寮者の合同同期会が開催され、同参加者の中から翌日の大寮歌祭にも多数参加された。

また、当日は千葉県エルム会の協力を得て、地元船橋市の「サッポロビール千葉工場」の見学会をプレイベントとして実施した。

なおこれに先立ち、19年度の活動となるが平成20年2月2日(土)千葉市・京成ホテルにて開催の千葉県エルム会に山中支部長、坂倉幹事長が出席し、東日本支部主催の大寮歌祭開催に当たりご支援ご協力をお願いした。

## ②平成21年度活動計画

i 今年度寮歌祭の開催

今年度は3年に1度の持ち回りにより当支部の主管として「恵迪寮大寮歌祭東日本大会」を開催、併せて東日本支部総会を開催する。10月3日(土)東京都渋谷

区・恵比寿ガーデンプレイスにて開催を予定している。また、当日は大寮歌祭に先駆け当支部初の「開識社」講演会の開催も予定している。

## ii 役員会の開催

1～3か月に1回の頻度で開催を予定している。(平成21年4、6、8、9、10、12月、平成22年2月の各月を予定。)

iii 平成22年度の当支部受持ち地域内で開催予定の「大寮歌祭」の準備を行う。

iv 平成24年度「都ぞ弥生」生誕100周年記念大寮歌祭への取組みの概要検討を行う。

v 恵迪寮同窓会会員の増強対策の検討と実行。

## ③財政状況

現在のところ健全財政を保っている。今後実行していく会員増強対策には当支部の財政規模を勘案し相応の費用を当てたい。

# 西日本支部ニュース

## ①平成20年度活動報告

### i 役員会

4月14日(月)

i 恵迪寮同窓会西日本大会実行委員会の設置

ii 西日本大会実行予算と収支の見通し

5月12日(月) 西日本大会第1回実行委員会

6月25日(水) 西日本大会第2回実行委員会

7月22日(火) 西日本大会第3回実行委員会・招待者、招待状の検討・開識社講演演題等の決定

8月25日(月) 西日本大会第4回実行委員・大会パンフレットの検討

9月17日(水)

西日本大会最終回実行委員会・参加人数、最終呼びかけの確認

9月27日(土) 西日本支部総会

10月7日(火) 西日本大会反省会

12月4日(木) 役員会・年末懇親会

## ii 行事

4月26日(土) 恵迪寮同窓会理事会出席(窪田、間中、伊藤、入江、岩井)

9月27日(土) 恵迪寮同窓会西日本大会 場所…京都

参加者…96名

1月12日(月)祝 歌い始めの会・賀詞交換会(北大関西エルム会主催)への出席

## iii 組織活動

西日本大会実行委員会地域委員に西日本大会への協力御礼と地域恵迪会設立のお願い

## ②平成21年度活動計画

### i 役員会

4月7日(火)

i 平成20年度活動報告 ii 平成21年度活動計画(案) iii 本部理事会へ向け

て

平成21年5月～平成22年度3月まで 1回/2か月程度

### ii 行事

4月25日(土) 本部理事会へ出席

10月 恵迪寮同窓会東日本大会へ参加

### iii 組織活動

地域恵迪会の設立支援(恵迪会の前段階的集まりでも支援していく)。

### iv 課題と問題点

府県単位の恵迪会の設立を目指すも、西日本支部を5ブロック(名古屋、関西、中国、四国、九州)程度に分けて、順次持ち回りで西日本支部主催の恵迪同窓会(関西は全国大会を兼ねる)が開けないか?なども検討する必要がある。因みに、今回の西日本大会の関西以外のブロック(本部、東日本支部からの参加者は除く)からの参加者は16名、全参加寮生の約25%である。

# 北海道支部ニュース

## ① 平成20年度年度活動総括

### 【成果】

- i 北海道在住の会員の一層の親睦交流を深めるため、第2回「恵迪夏祭り」(15名)を継続して開催し、新たに恵迪「三火倶楽部」を立ち上げた。参加1人ということも会ったが流会はない。
- ii 寮歌CD・ポストカードを卒業式と入学式で販売(CD 40枚、ポストカード80枚)
- iii 第9回開識社が約100名の参加で大成功。テーマもタイムリーで評判が良かった。時計台ホールと直接コンタクトが取れ次年度の開催が円滑化。
- iv 2回(開識社&歌始めの会)のメール一斉配信(約300件)、支部ニュース夏・冬号発行、ホームページ投稿など広報活動が促進された。
- v 西日本大会(9/27)、長谷川幹事を支部代表で派遣できた。

### 【課題】

- i S40年入寮以降の各年次若手幹事の発掘が不調に終わった。
- ii 活動の活性化に見合う年会費及び運営支援金納入が伸びていない。
- iii 釧路・根室&オホーツク恵迪会の「寮歌祭」が実施できなかった。

## ② 平成21年度基本方針と計画

### 【基本方針】

- i 「合言葉」は、1に若手幹事、2に若手幹事、3、4がなくて5に若手幹事。S40年入寮以降の各年次若手幹事の組織化を意図的に図る。本部と協力しての各年次の集まりを招集することや、各年次担当者を決定し持続的に幹事獲得を追求する。
- ii 「恵迪寮同窓会 25年の歩み」、「入会のしおり」を活用した意識的会員増強活動。
- iii 同窓会ホームページの活性化(「談話室」への投稿)、メールアドレスの収集、全国一斉配信などインターネットを有効に活用し会員増強を図る。
- iv 第10回開識社を時計台ホールで成功させる。
- v 会員の年会費及び運営支援金納入促進と寮歌CD・ポストカードなどの販売で支部財政を強化する。

恵迪寮同窓会北海道支部 2009 年度事業計画

日	時	行	事	幹事会・役員会
1月				12日(月) 第1回常任幹事会
				19日(月) 第1回幹事会
	24日(土)	平成21年寮歌始めの会 (氷雪の門)		24日(土) 第7回支部総会
2月		北大室蘭恵迪会新年会		
	17日(火)	恵迪三火倶楽部 (つる)		
3月	17日(火)	恵迪三火倶楽部 (つる)		
4月	21日(火)	恵迪三火倶楽部 (つる)		13日(月) 第2回常任幹事会
	25日(土)	恵迪寮同窓会本部定期理事会		
5月	6日(水)	恵迪寮「観桜会」&現寮交流会		11日(月) 第2回幹事会
	19日(火)	恵迪三火倶楽部 (つる)		
	24日(日)	開拓の村寮舎「花壇」観花会		
6月	13日(土)	第4回道南恵迪寮歌祭 (ホテルテトラ)		
	16日(火)	恵迪三火倶楽部 (つる)		
	20日(土)	第5回とちか恵迪寮歌祭 (ふじもり食堂)		
	下旬	「恵迪」第9号・支部ニュース夏号発行		
7月	4日(土)	第6回道北恵迪寮歌祭		
	5日(日)	第27回親睦ゴルフ大会		
	11日(土)	第4回苫小牧・日高恵迪寮歌祭		
	18日(土)	第2回釧路・根室恵迪寮歌祭		
	21日(火)	恵迪三火倶楽部 (つる)		
8月	1日(土)	第3回恵迪夏まつり (札幌ビール・ライオン)		
	18日(火)	恵迪三火倶楽部 (つる)		24日(月) 第3回常任幹事会
9月	15日(火)	恵迪三火倶楽部 (つる)		21日(月) 第3回幹事会
10月		第3回オホーツク恵迪寮歌祭		
	20日(火)	恵迪三火倶楽部 (つる)		
	23日(金)	第10回恵迪寮同窓会開識社 (時計台ホール)		
11月	17日(火)	恵迪三火倶楽部 (つる)		30日(月) 第4回常任幹事会
12月	15日(火)	恵迪三火倶楽部 (つる)		14日(月) 第4回幹事会
	下旬	支部ニュース冬号発行		
1月				11日(月) 第1回常任幹事会
				18日(月) 第1回幹事会
	30日(土)	平成22年寮歌始めの会 (氷雪の門)		30日(土) 第8回支部総会

## 恵迪寮命名百年記念グッズ

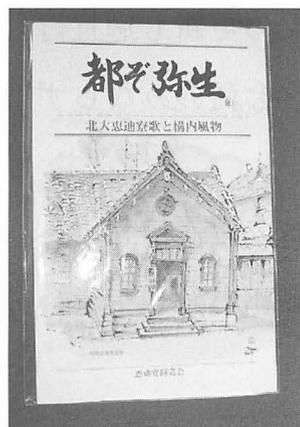
在庫が残り少なくなりました。まだ購入されていない方や北大出身者へのプレゼントなどにご利用ください。

### ◇北大恵迪寮歌CD「都ぞ弥生」

明治45年から平成18年まで作歌・作曲された100曲を超える恵迪寮歌の中から、100曲を厳選しCDに収録しました。北大合唱団OB会による斉唱録音です。CD2枚組で頒布価格2000円です。

### ◇ポストカード「都ぞ弥生」～北大恵迪寮歌と構内風物～

伊藤太郎画伯の透明水彩で、オオバナエンレイソウや中央ローンなど北大構内風物画と「都ぞ弥生」を始めとする恵迪寮歌代表曲8曲を組み合わせたすてきなポストカードです。8枚組で頒布価格525円です。



### ◇恵迪百年記念オルゴール (100台限定制作 在庫わずか)

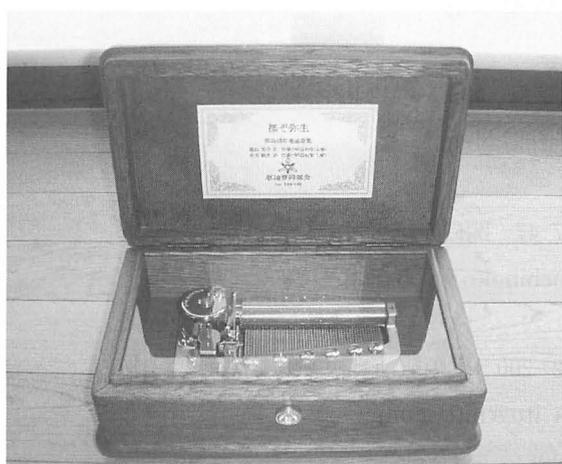
箱の表に寮生章や恵迪百年記念文字を彫り込んだ「都ぞ弥生」メロディー入りのオルゴールです。箱の素材は北大雨竜研究林の上質なミズナラを使用。頒布価格は4万円。<br>へお買い求め・問い合わせ先

① 恵迪寮同窓会 (Tel & Fax 011-530-1186)

(E-mail keitaki@spa.att.ne.jp)

② エルムプロジェクト (Tel 011-708-0388)  
(Fax 011-708-0389)

北大構内・エルムショップ、北大生協会館



# 恵迪寮同窓会ホームページに アクセス・投稿を！

昨年2月開設の新「ホームページ」への訪問件数は4月末で7,500件を超えました。「事務局のお知らせ」や「談話室」の更新も適宜行われ、「話題あれこれ」などの資料も追加され同窓会会員のみならず多くの方々が楽しめるものとなりました。

会員相互の情報交流・会員増強のツールとして有効に活用して参ります。会員諸氏の積極的なアクセス・投稿をお願いいたします。

URL：<http://www.keiteki-ob.jp>

## 恵迪寮同窓会の住所と TEL&FAX・ メールアドレスが変わりました

[本部・事務局]

住所：〒064-0061 札幌市中央区南13条西11丁目 ㈱アークス内

TEL&FAX：011-530-1186 E-mail：info@keiteki-ob.jp.

[北海道支部]

住所：〒064-0061 札幌市中央区南13条西11丁目 ㈱アークス内

TEL&FAX：011-530-1186 E-mail：info@keiteki-ob.jp.

[東日本支部]

住所：〒176-0021 東京都練馬区貫井4丁目47-47 関口光雄気付

TEL&FAX：03-3926-0080 E-mail：jubesannchinoko@ybb.ne.jp

[西日本支部]

住所：〒530-0001 大阪市北区梅田1丁目2-2-200 大阪駅前ビル2F 北大会館内

TEL&FAX：06-6343-3736 E-mail：yasuhisa\_ito@nifty.com

愛情100年品質



www.satsuraku.com

サツラク 検索

たとえば「個乳検査」。しぼりたての生乳に対して、  
 牧場ごとにサンプルを採って行う入念な検査のことが、  
 サツラクでは毎日欠かさず実施します。  
 札幌市とその近郊にある組合員の牧場数は110戸あり、  
 工場内の検査室で3種類の検査  
 (成分検査・細菌検査・体細胞検査)を個別に行います。  
 もちろん検査はその後も、製品出荷まで工程ごとに何十項目も続きます。  
 優れた生乳の風味や成分を最大限に生かすために築き上げた、  
 厳格な品質管理システム。  
 すべては安全なおいしさのために。  
 検査スタッフは、今日も厳しく目を光らせています。



毎日  
飲むから、  
毎日  
きちんと

「大地の夢」牛乳は、アークグループのみで販売しております。

サツラク農業協同組合 市乳事業部 | 北海道札幌市東区丘珠町573番地27 TEL011-785-7800

恵迪寮同窓会会長

横山 清

昭和31年入寮  
 水産学部遠洋漁業学科卒  
 〒064-8610  
 札幌市中央区南13条西11丁目御アークス  
 ☎011-530-1186

恵迪寮同窓会副会長

高井 宗宏

昭和31年入寮  
 農学部農業工学科卒  
 〒061-1132  
 北広島市北進町4丁目3-2  
 ☎011-373-4268

恵迪寮同窓会副会長

厚谷 純吉

昭和30年入寮  
 札幌医科大学卒  
 〒005-0013  
 札幌市南区真駒内緑町3丁目4-11004  
 ☎011-583-2936

恵迪寮同窓会会計監事

大西 徹

昭和30年入寮  
 法学部法律学科卒  
 〒065-0023  
 札幌市東区北23条東4丁目3-20  
 ☎011-702-6431

恵迪寮同窓会会計監事

小笠原 孝之

昭和31年入寮  
 農学部農業経済学科卒  
 〒064-0913  
 札幌市中央区南13条西14丁目3-7  
 ☎011-551-2467

恵迪寮同窓会代表幹事

白浜 憲一

昭和40年入寮  
 法学部法律学科卒  
 〒001-0922  
 札幌市北区新川2条8丁目8-2  
 ☎011-762-7526

恵迪寮同窓会副代表幹事

新井 三郎

昭和32年入寮  
 農学部農業経済学科卒  
 〒062-0933  
 札幌市豊平区平岸3条18丁目4-23304  
 ☎011-841-9373

恵迪寮同窓会副代表幹事  
北海道支部支部長

氏平 増之

昭和38年入寮  
 工学部鉱山工学科卒  
 〒061-1105  
 北広島市西の里東4丁目13-1  
 ☎011-375-3638

おいしいの、その先へ。



# DREAM!

## 夢こそが、明日をつくる。



<http://cupnoodle.jp>

恵迪寮同窓会副代表幹事

皆川 吉郎

昭和43年入寮  
農学部農業経済学科卒  
〒071-8142  
旭川市春光台2条3丁目4-25  
☎01666153181155

恵迪寮同窓会現寮常任幹事

高橋 陽一

昭和30年入寮  
工学部土木工学科卒  
〒062-0034  
札幌市豊平区西岡4条14丁目4の10  
☎011582194119

恵迪寮同窓会誌常任幹事

大隈 昭二

昭和40年入寮  
教育学部教育学科卒  
〒062-0933  
☎011812154113  
札幌市豊平区平岸3条18丁目4-10203

恵迪寮同窓会北海道支部副支部長  
ふるさと回帰塾主宰(紀州)

千川 浩治

昭和40年入寮  
獣医学部獣医学科卒  
〒062-0023  
札幌市豊平区月寒西3条9丁目6-3  
☎01185311787

恵迪寮同窓会北海道支部幹事長

八重樫 幸一

昭和41年入寮  
経済学部経済学科卒  
〒055-0006  
札幌市豊平区澄川6条10丁目6-1  
☎011583146888

恵迪寮同窓会北海道支部副幹事長

谷口 哲也

昭和48年入寮  
文学部東洋史学科卒  
〒061-1148  
北広島市山手町7丁目2-9  
☎01137310987

恵迪寮同窓会北海道支部組織常任幹事

山崎 克彦

昭和32年入寮  
工学部建築工学科卒  
〒069-0853  
江別市大麻高町1-1  
☎011338812155

恵迪寮同窓会北海道支部広報常任幹事

畑 博

昭和42年入寮  
理学部地質学鉱物学科卒  
〒002-0856  
札幌市北区屯田6条2丁目1-16  
☎011177117528

# 続けて実感！ 理想のカラダへ

**mizkan**  
やがて、いのちが変わるもの。

漬ける

サワー漬け

和える

酢の物

混ぜる

野菜ジュース+食酢

かける

野菜炒め

煮る

さっぱり煮



恵迪寮同窓会北海道支部渉外常任幹事

木村 正博

昭和41年入寮  
工学部土木工学科卒  
〒0404085  
札幌市清田区平岡公園東3丁目8-2  
☎011-88218547

恵迪寮同窓会北海道支部会計常任幹事

西雪 弘光

昭和40年入寮  
農学部畜産学科卒  
〒0630054  
札幌市西区宮の沢4条3丁目12-25  
☎011-66411034

恵迪寮同窓会副会長  
東日本支部支部長

山中 義正

昭和32年入寮  
獣医学部獣医学科卒  
〒2790011  
千葉県浦安市美浜5丁目1006  
☎047135318475

恵迪寮同窓会東日本支部副支部長

関口 光雄

昭和39年入寮  
工学部土木工学科卒  
〒1760021  
東京都練馬区貫井4丁目47-47  
☎03392610080

恵迪寮同窓会東日本支部幹事長

坂倉 雅夫

昭和44年入寮  
農学部農業工学科卒  
〒260033  
千葉市中央区春日1丁目19-7  
☎04312460244

恵迪寮同窓会東日本支部副幹事長

加藤 秀弘

昭和46年入寮  
水産学部増殖学科卒  
〒2590133  
神奈川県中郡一宮町白宮谷3丁目31-11  
☎04637119518

恵迪寮同窓会東日本支部副幹事長

佐藤 文雄

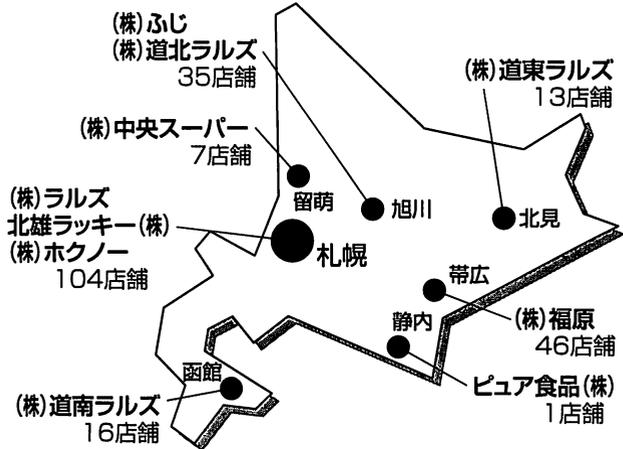
昭和47年入寮  
農学部林産学科卒  
〒1130021  
東京都文京区本駒込4丁目49-6  
☎03382110316

恵迪寮同窓会東日本支部副幹事長

松岡 繁幸

昭和48年入寮  
工学部原子工学科卒  
〒1730004  
東京都板橋区板橋4丁目46の6  
☎03396112665

CGCは、  
 日本全国の有力中堅  
 スーパーマーケットが  
 協業の旗のもとに、  
 その総力を結集した  
 大量共同仕入機構です。



**株式会社 北海道シジシー**

代表取締役社長 横山 清  
 加盟企業 10社  
 店舗数 222店舗  
 全体売上 2,918億円

2009年4月現在

# SUNTORY

# SUNTORY FOODS

恵迪寮同窓会東日本支部副幹事長

**荒木 隆 夫**

昭和49年入寮  
 水産学部食品化学科卒  
 〒347-0032  
 埼玉県加須市花崎4丁目16-6  
 ☎0480-6516456

恵迪寮同窓会西日本支部幹事長

**伊藤 靖 久**

昭和38年入寮  
 工学部建築工学科卒  
 〒665-0886  
 宝塚市山手台西2丁目9-4  
 ☎0797-8914351

恵迪寮同窓会副会長  
 西日本支部支部長

**窪田 開 拓**

昭和32年入寮  
 工学部鉱山工学科卒  
 〒666-0116  
 兵庫県川西市西多田2-29-17  
 ☎0952-259807

恵迪寮同窓会西日本支部事務局長

**岩井 隆 郎**

昭和51年入寮  
 工学部原子工学科卒  
 〒594-1111  
 大阪府都島区内代町3丁目10-10707  
 ☎090-47645430

味ひとすじ  
永谷園

味ひとすじ  
永谷園



株式会社 永谷園 <http://www.nagatanien.co.jp/>

kikkoman

## 地球村のブランド

All Purpose Seasoning—キッコーマンしょうゆ

世界の西で東で、しょうゆの風味を活かした新しい家庭の味が、  
どんどんうまれています。おいしさを世界中へ—キッコーマン

<http://www.kikkoman.co.jp/>



NESCAFÉ. ネスカフェだから贈りたい

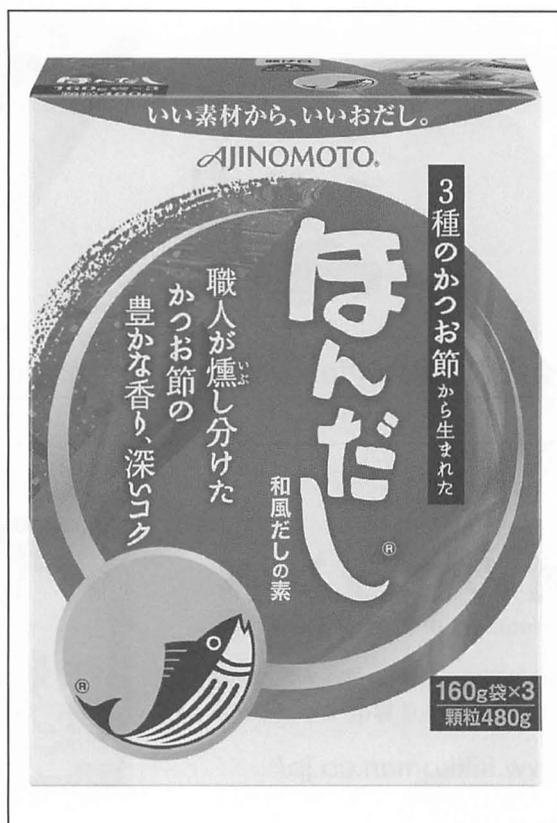
この夏も、皆様を笑顔にするバラエティ豊かなギフトを、  
大切なあの方へ。



## 産まれたタマゴをその日のうちにご家庭へ

- ・消費者が安全で安心して食べられる高品質な製品の提供を目指します。
- ・将来に亘って国際価格競争に勝ち残っていけるコストの早期実現を目指します。
- ・日本の畜産を担う誇り高き若者が全力で働ける新しい畜産業を目指します。

株式会社 ホクリョウ



## 第3回恵迪夏祭り(ビール会)開催のご案内

恵迪夏祭り(ビール会)を今年も下記の要領で開催いたします。

毎回好評を博している催しですが、今回も参加の皆さんに喜んでいただけるよう特別企画を練っております。

なお、開催時間は、今回も午後1時から2時間程度として、遠方からお越しになる方も日帰り参加できるような設定しております。

お一人でもお気軽にぶらりと参加していただけるビール会ですので、多くの同窓の皆さんにお集まりいただきたいと思っております。

1. 日 時 平成21年8月1日(土) 午後1時から3時頃まで
2. 会 場 ライオン狸小路店 2階「エビスホール」
3. 会 費 3,000円(飲み放題)
4. 申込み 7月25日(土)までに、下記にご連絡下さい。

※電話・ファックスにて申込む方は、恵迪寮同窓会事務局まで  
(TEL&FAX) 011-530-1186

※メールにて申込む方は、谷口副幹事長のメールアドレスまで  
poirot@gray.plala.or.jp

## 平成 21 年度「年会費」と「運営支援金」納入のお願い

本会は、年会員の年会費 3,000 円と終身会員の運営支援金 2,000 円およびカンパの供出により、全国 3 支部持ち回りの「大寮歌祭」や会誌「恵迪」の発行、文化講演会「開識社」の開催、現寮との交流、地域ごとの親睦交流・地区寮歌祭などの活動を展開しております。

平成 20 年度の会費等の納入状況は、総件数 504 件・139 万 4,000 円（年会費は 220 件・67 万円、運営支援金は、218 件・50 万 3,000 円、カンパは、66 件・22 万 1,000 円）となっております。

「会員相互の親睦を計り、恵迪精神の伝承発展に務める」という会の目的を実現するために、平成 20 年度「年会費」の納入と「運営支援金」の供出をお願いいたします。それぞれ同封の郵便払込取扱票によりご送金ください。

- ① 年会員の方は、平成 21 年度「年会費」として 3,000 円
  - ② 平成 16 年までの終身会員の方は、平成 21 年度「運営支援金」として 2,000 円
  - ③ 任意のカンパ
- ※ 同窓会という任意団体の性格上、会費未納という請求関係は発生しません。あくまでも年度ごとの処理となります。払込の失念などがないように宜しくお願いいたします。

## 「恵迪」第 8 号 追記・訂正一覧

### 1. 恵迪百年記念事業協賛者ご芳名追記

成ヶ澤憲太郎（S40 年・神奈川県秦野市）大村卓（S52 年・茨城県つくば市）

「都ぞ弥生」の作歌者・横山芳介氏のご令嬢川内純子さん（神奈川県相模原市）から、歌碑建立など百年記念事業を特集した会誌 8 号送付のお礼として、感謝の手紙を添えて協賛金が届いています。

### 2. 本文訂正

▽「文平会始末記」その 2

44 ♪ 中段の挿入短歌

〈ひと本のポプラの木陰、我が生を  
楽しみ処〉 → 〈ひと本のポプラの木陰、我が生を  
楽しみ処、悲しみ処〉

45 ♪ 中段 三十三忌 → 三十三年忌

▽自由投稿 71 ♪ の「北辰斜めにさすところ」を観よう ― の筆者・深谷勲さんの住所  
愛知県常滑市 → 愛知県刈谷市

## 編集後記

北大とは関係のない知人にこの会誌を見せたところ、「こんな同窓会誌が今時あるとは驚きです。それにしても強烈な老人パワーですね」と、半ば会員の高齢化を揶揄するような反応が返ってきました。確かに、寄稿者の大半が還暦を越え、100年も前に生まれた寮歌に血をたぎらせたり、バンカラな寮生活を回想したりする様は、端から見たら、羨ましく思う反面、滑稽に映るに違いありません。

札幌農学校時代から連綿と続く寮の歴史や伝統に誇りを感じ、青春時代を振り返るのは同窓会誌の役割としては当然のことですが、会誌の寄稿が高齢者に偏るのは内心気になっていました。

ところが今回は、コンクリートの新しい恵迪寮で青春を過ごしたOB、OG諸君からも多くの原稿が寄せられました。しかも、中東やインド、千島列島など激動の地で学問研究に当たる彼らからのメッセージは、恵迪寮で培った“ロフティー・アンビション”に満ちあふれています。

勿論、予科時代をはじめ、昭和30、40年代の寮友からも、琴線にふれる感動的な原稿がたくさん寄せられました。中でも、昭和30年前後、寮で大流行した佐藤春夫の詩「酒、歌、煙草また女」にメロディーをつけて歌ったというエピソードは、その時代を物語る貴重な寮史の一頁で、記述に関わった先輩たちの労苦に敬意を払います。

3年後には「都ぞ弥生」生誕100年を迎えます。寮歌を究極のアイデンティティーとする同窓会としても、会誌を通して大いに盛り上げて行きたいと思っています。

最後に、史料写真を提供して頂いた北大広報課や原稿の窓口になってもらった事務局の佐藤静子さんに感謝します。

「恵迪」編集長 大隈 昭二 (S40年入寮)

【編集委員】厚谷 純吉 (S30年入寮) 高井 宗宏 (S31年)

白浜 憲一 (S40年入寮) 八重樫幸一 (S41年入寮)

会誌「恵迪」第9号 2009年6月

発行 恵迪寮同窓会

〒064-8610 札幌市中央区南13条西11丁目

株式会社アークス内

TEL・FAX 011-530-1186

E-mail info@keiteki-ob.jp

同窓会ホームページ

http://www.keiteki-ob.jp/

発行者

恵迪寮同窓会会長

横山 清

印刷・製本 株式会社アイワード

〒060-0033 札幌市中央区北3条東5丁目5-91

TEL 011-241-9341 (代)

FAX 011-207-6178

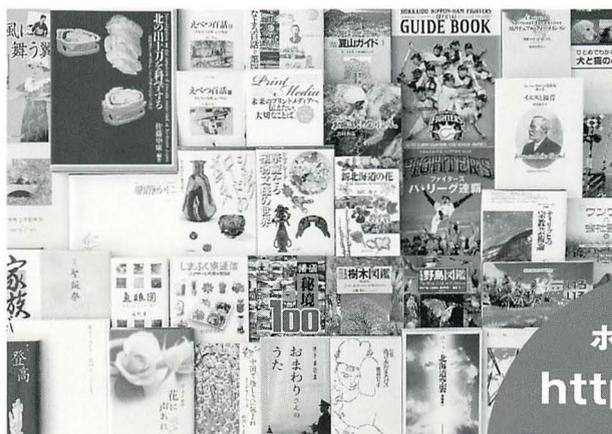
さまざまな想いがつまった本づくりは  
実績豊かなアイワードにおまかせください

# 自費出版

自分史やエッセイ集、画集や写真集・作品集など自費出版から  
記念誌、研究論文、報告書、出版物、辞書・事典まで

# 本づくり

原稿作成、リライト、工程、撮影、費用…、どんなことでもご相談ください。創業以来40年以上にわたり蓄積してきた本づくりのノウハウと最新技術でお手伝いします。お気軽にご連絡ください。詳しくはアイワードホームページでもご覧いただけます。



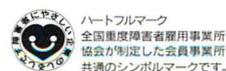
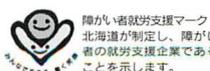
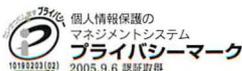
ホームページ  
<http://www.iword.co.jp>



新時代の〈企画・情報処理・印刷〉企業

株式会社アイワード

本社：〒060-0033 札幌市中央区北3条東5丁目5-91 TEL(011)241-9341 FAX(011)207-6178  
東京支店：〒101-0065 東京都千代田区西神田2丁目4番3号 TEL(03)3239-3939 FAX(03)3239-3945  
(高岡ビル6階)



# 豊かな大地に輝く懸け橋に



株式会社 道南ラルズ

〈関連会社〉  
株式会社イワイ  
株式会社エルディ  
株式会社ライフポート  
ホテル福原  
アークストラベル



株式会社 福原



株式会社 ラルス



株式会社 ふじ



株式会社 道北ラルズ



株式会社 道東ラルズ

全道に広がる173店舗  
**ARCS アークスグループ**

株式会社アークス 代表取締役社長 横山 清  
札幌市中央区南13条西11丁目2番32号 TEL.011-530-1000

SUPER **ARCS** BigHouse **RALSE** mart **RALSE STORE** **RALSE PLAZA**  
フレティ ホームストア フクハラ スーパーチェーン **ベストスライス** **ウェストン**